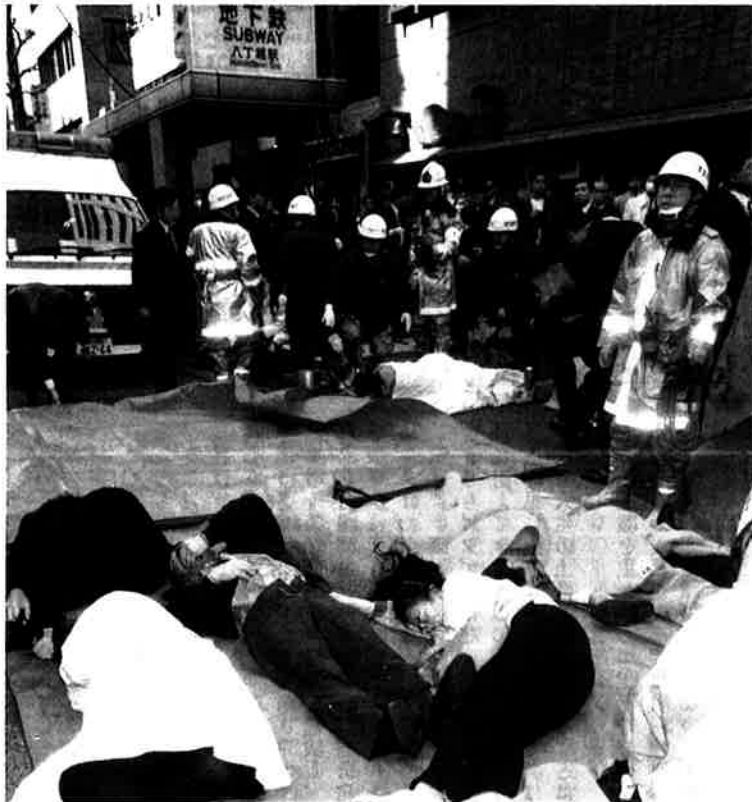


はげまし

発行所

社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都大田区仲六郷4-32-5
〒144
発行人 鈴木 實
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円(送料共)
(但し会費の中には購読料を含む)

許せぬ!凶悪テロ



三月二十日午前八時過ぎ、出勤ラッシュ途中の東京都内の営団地下鉄丸の内線、日比谷線、千代田線内でサリンとみられる薬物によって死者十一名、重軽傷者五千五百名を超す事件が発生した。

発生、近くにいた乗客らが被害にあった。また上記三線が交わる霞が関駅構内でも人々が異常を訴え、警察に通報、これに対し警視庁では、各署から警察官が現場にかけつけると同時に、出勤可能な機動隊員等一万一千名を動員し、被害にあった乗客の救出や、警戒にあたり、その際、機動隊員等警察官一七

一名が受傷し、現在もお事件解決にむけて総力体制で捜査活動は続けられている。

サリン事件の恐怖が冷めやらぬ三月三十日朝、国松孝次警察庁長官が自宅マシヨン前で狙撃され、重傷を負われるという事件が起きた。

小雨の降る中、国松長官は秘書に付き添われて迎えるの車に乗るまでのわずか十数メートル、時間にして数秒間に四発狙撃された。しかも一発は腹部を貫通し、国松長官はすぐさま病院へ搬送され、緊急手術で一命を取りとめたものの、予断を許さない状況は続いている。

昨年から銃に関する凶悪な事件が相次いでいるが、今回の事件に関しては国家権力、はては日本の社会に対する挑戦とも思える事件であり、怒りを覚えるとともに一日も早い事件解決を願ってやまない。

年が明けてから、機動隊員等の方々には阪神大震災、地下鉄サリン事件と大きな事案が続き、また警察のトップ



が狙われるという戦後例を見ない事件も起こった。

機動隊をはじめ警察の方々には不眠不休で事件の真相解明に乗り出し、一日も早く「世界一安全な国」を取り戻す



今月の言葉

日々のテレビ・新聞を聴視していると誠に情報量の多さに圧倒される。事実の報道であれば、自分の立場からそれなりに取捨選択はできる。しかし、ある批判や意味づけをもった論評になると必要以上に動揺させられることがしばしばある。

通りすがりに見聞したような感想の類いが、あたかも社会的影響力をもった事象であるかのような語りかけは犯罪そのものである。

流言飛語という言葉はもう古くなった。根も葉もない軽薄な噂が人々の心の深層にツキ入って社会不安を起したことが過去にはいくつあった。

一九二三年の関東大震災の折りに見られた悲劇。そしてその後にくる銀行の取り付け騒ぎなどその典型である。

しかし、実は私たち市民の生活はそれ程脆弱なものではない。私たちには一定の生活ルールがあり、朝食をとり精密な電車の運転ダイヤによって会社に出、生産活動に従事し、社会の発展と生活の充実につとめている。

社会システム

(理事・東京本部 杉尾 榮俊)

べく捜査に当たっている。当会としても、できるかぎりの声援を送り、事件解決への一助となる活動を行っていく所存である。



▲国松長官の狙撃された現場を捜査

マクロの経済発展はこうした一人ひとりの人間生活の集大成であり、その重みはそう簡単に崩壊するものではない。そして安易に混乱させない社会システムをつくっておくことは、この高度情報社会にはなによりも大切なことである。

去る一月十七日におきた阪神大震災はたいへんな被害をもたらした。被災者の方々御苦労は言葉ではつくせないものがある。

しかし、皆さんが生活の中で整前とられた秩序は海外からも驚異と賞讃の的になった。

では社会システムはどのようにして強化され高められるのであろうか。

そのひとつは、生活や経済の安定である。

市民に夢と希望を与える為政者の心のこもった政策の推進である。

そのことが人心の動揺を防ぎ、生活の安定を築きあげてくれる。

もう一つは言うまでもなく地道な治安行政と機動隊の皆さんなどによる社会システムへの信頼感の醸成である。

その意味を今こそ我々は再認識する時にきている。

若手機動隊員より ～今年の抱負～

自然災害・テロ・ゲリラ、日々変化する
厳しい警備情勢の下で「最後の砦」とし
て日本の治安を守る機動隊の若くたくま
しい隊員たちに今年の抱負をうかがいま
した。

『管区機動隊員に指名されて』

関東管区機動隊

大貫 学

「群馬県警察管区機動隊員に指定する」。
平成六年三月三十日、私は晴れて管
区機動隊員になった喜びと未知なる世
界への不安を胸に指定式に臨んだので
した。

管区機動隊には、自分から希望し入
隊したので指定書を手にした時の喜び
は格別だったのをよく覚えています。
入隊し訓練が始まりましたが、在県
時の定期訓練や管区学校での入隊訓練
の内、特に完全装備での駆け足は、サ
ウナの中を走っているような錯覚に襲
われるほどの過酷さで、走っている最
中、「何でこんな所に入隊したのだろ
う」と、正直言って後悔することもあ
りました。

しかし、これらの厳しい訓練は
「訓練で泣き現場で笑おう」
という関東管機第二大隊の訓練五誓
にあるように、現場において後悔する
より満足のいく結果を出す為の必要不

『新任分隊長になって』

近畿管区機動隊

甲斐 和憲

私は、昭和五十八年に滋賀県警察を
拝命し、早いもので十二年の歳月が過
ぎようとしている。

この十二年間、色々な事を経験し、
拝命した当時と比べてみると、自分自
身がいかに大きく成長しているか、誉
めてあげたい程である。

私は若い頃、管区機動隊に入隊し、
身も心もズバズバになる程の厳しい訓
練に耐えてきた。この管機二年間の経
験は、私に大きな自信を与えると共に、
警察官人生の土台となっていることは
間違いない。

この経験を生かしつつ、三十歳にな
ってしまつた私が、今度は管区機動隊
の分隊長として頑張る事になったので
ある。

分隊長という仕事とは、小隊長を助
け、若い隊員と共に汗を流し、引つ張
っていかねばならないのである。

ところが、再び入隊した管区機動隊
は、世の中の諸情勢の変化と共に、警
備事案の内容、隊員それぞれの考え方
等、以前と大きく変化しており、昔の
私なりの考え方で、今日発生する警備
事案に対処できるだろうか、そしてこ
の若い隊員が、私について来るであろ
うか等、不安がないわけではない。

しかし分隊長として大事な事は、い
かに世の中の情勢や、管機そのものの
カラーが変わっても、それに振り回さ

可欠なものであるように思うのです。
実際、昨年十月の成田出動では、駆
け足訓練で鍛えた気力と体力で、長時
間に渡る完全装備での触角配置や車両
検問に耐えることが出来たのでした。

今後も、各種の出動があると思いま
すが、管区機動隊員として訓練に励み、
出動となれば持てる力を十二分に発揮
し、任務を果たしていきたいと思いま
す。

『警察官人生の選択』

北海道警察機動隊

鈴木 琢哉

私は、幼い頃から警察官である父の
姿を見て育ちました。

私が物心ついた頃、いつも不在がち
な父親について母に尋ねた際、「お父
さんが家に居ない分だけ、街の人が安
心して暮らせるのよ」と言つた言葉が
今でも私の脳裏に焼きついていま

す。しかし、当時はその意味を理解でき
る術もなく、家族を顧みない警察とい
う仕事を疎ましく思つたものでした。

進路選択の時期が近づいてきたある
日、父は札幌市内で発生した事件の為、
まだ日も昇らぬうちに仕事に出かけ、
深夜に帰宅することが長期間続きまし
た。この間、父は一度も弱音や愚痴を
吐かず、結局事件は解決したよう

です。多くを語らない父ではありますが、
黙々と仕事に打ち込む姿勢から、男と
してどう生きるべきかを学んだよう
な気がしました。

私は一生の仕事として誇りの持てる
仕事を第一に様々な職業を考えていま
したが、使命感に燃え、仕事一筋に打
ち込む父の姿が頭から離れず、苦しく
ても同じ道を歩んでみようと思ひ、警
察官を拝命したのです。

現在は、当機動隊の隊員である正義・
融和・根拠をモットーに、隊員同志の
絆を深め、知力・気力・体力の向上に
励んでおりますが、より一層の人格の
向上を目標に日々精進の決意をしてお
ります。私の警察官人生はまだ始まつた
ばかりです。今後、幾度となく壁にぶ

つかると思いますが、その時こそ背中
で教えてくれた父の姿を思い浮かべ、
常に前向きな姿勢で取り組んでいき
たいと考えています。

『警察官人生の選択』

岩手県警察機動隊

上山 浩

警察官を拝命し三年目、私も晴れて
機動隊員になることが出来ました。

機動隊勤務になることは、警察官採
用試験の合格した時からの希望であり
ました。しかし、いざ入隊するとな
ると期待と不安で胸がいっぱい

です。私は柔道特別訓練員の指名を受け
ており、柔道の稽古に励み、大会で好成
績を残すことはもとより、機動隊員と
して体を張り、岩手県の治安を守る為
に、日々努力していきたいと思いま

す。機動隊勤務は、この先何年続くか分
かりませんが、在隊中は昇任試験はも
ちろん、様々な困難な事案に対応出来
るよう、各種資格を取得したいと思つ
ています。

特に私は、水泳には少々自信があり
ますので、是非アクアラングをやつて
みたいと思つています。

水中での作業は危険を伴うものであ
り、どんな悪条件の中でも、冷静・沈
着に作業出来るよう、訓練に励みたい
と考えています。

私は現在二十四歳ですが、こ
の人生を左右する大事な時期に、機動
隊で勤務出来ることを誇りに思い、悔
いのない機動隊生活を送れるよう頑張
ります。

『感動のある職場』

群馬県警察機動隊

伊能 博之

私が警察官になろうと考えていたの
は昭和六十三年の夏でした。高校三年

の夏休みで、これから就職しなければ
ならなく、どっちの方面に進もうかな
と迷っていた時でした。

私は一般企業に入り、事務等をやる
気はなかったのですが、なにか特殊な仕事
を見つけようと思ひ、考えていたところ、
二年前に卒業した先輩が「警察官
にならないか」と言ってきたのでした。

最初は「俺にやっていたらいいか」と心
配もしました。また、両親も私の体の
弱さを知っていますので反対されまし
た。

しかし、どうせやるなら日本の治安
を守る仕事は、最高にやりがいがあり、
自分に対しても誇りが持てると思つた
のです。

この職場に入り、はやくも六年が過
ぎようとしています。警察官になり、
色々な所属があるのを知りましたが、
私が最初にあこがれた所属が現在配置
されている「機動隊」です。あこがれ
と現実とは違いますが、この所属は
感動を与えてくれるところだと思いま
した。

新隊員の私は昨年、「レンジャー」
という特殊訓練を経験したのです。高
所恐怖症の私は人並みにできるまで時
間がかかり苦労しましたが、出来た時
の感動というのは今までにはないもの
がありました。

「やれば出来るんだ」という気持ち
を忘れず、これからの機動隊生活に生
かしていこうと思ひます。

『新隊員として』

岐阜県警察機動隊

鈴木 哲司

私が機動隊に入隊してから一年が過
ぎようとしている。昨年は、自分に自
信がなく、不安ばかりが先行して自分
が何をすべきかわからず、戸惑う
ばかりで毎日が悪戦苦闘であった。
また、何を行うにしても始めてのこ

とばかりで私にとってかなり厳しいものであったと思う。

そこで、今年は一 警察官として、機動隊員としての自覚を持ち、何事にも機動隊としてのプライドをもって行う。

二 心身の錬磨と人格、識見を向上させる。

三 機動隊の仕事と同様、勉強も向上させる。

といったことを常に念頭におき、何事にも取り組んでいく決意をした。

二年目を迎えるにあたり、まだ経験していない仕事が多くあると思うが、何事にも逃げることなく全力でぶつかっていく気持ちと自分自身を信じて失敗を恐れることなく前向きな姿勢で自分に責任を持ち、これからも頑張っていきたいと思う。

『今年の抱負』

高知県警察機動隊

山本 昭一

機動隊勤務を命ぜられ早や一年が過ぎようとしています。この一年間は各種の訓練や警備活動等、始めてのことばかりで悪戦苦闘の毎日でした。また、昨年は各種警備、捜索活動等、数多くの出勤があったものの、病気や怪我のため出勤を断念しなければならなかったことがあったり、思うように警備技術の向上をはかることができなかったりなど、ふがいない一年を過ごしてしまいました。

そこで今年は、昨年一年間の反省から次の二つの大きな目標を掲げました。一つは、気力体力の充実です。各種警備活動等を完遂するためには、必要不可欠のものです。病気や怪我を少なくするためにも、日頃から訓練、自主トレに励みたいと思います。

二つ目としては、各種機能別技術の向上です。技術が伴わなければ、どのような出勤であっても任務を遂行する

ことはできません。そのために訓練を数多くこなすと共に、先輩隊員の技術の一つでも多く盗み取り、確実に技術を身につけ、自分のものとしていきます。

この目標を胸におき、機動隊員として自信を持って任務を行えるよう、また先輩隊員に一步でも近づけるように日々努力精進していききたいと思います。

『新隊員の抱負』

大分県警察機動隊

園田 栄次

機動隊に入隊して、早いもので一年が過ぎようとしている。機動隊の印象を一言で表すならば、『心・技・体の揃ったプロの集団』と感じている。

この一年間、警備・警護、潜水捜索、山岳救助、災害警備等機動隊員であればこそ、言い方を変えれば、機動隊員でなければできない様々な体験をすることができた。

特に傾山山系における山岳救助活動で遭難者を瓦礫の急斜面からザイルで救出した際には、一歩間違えば私たちが機動隊員の生命にも危険が及ぶ厳しい現場であり、強い体力と精神力に加え、特殊な知識と技術が必要であることを痛感させられました。

まさに『心・技・体の揃ったプロの集団』でなければ対応できない現場であったのである。

私は、その救助隊の一員であることに誇りを持っているものの、残念ながら現在のところまだ半人前の隊員である。

日々変貌していく社会現象・国民意識に合わせて、警察事象も変化しており、機動隊に課せられた責任も、より一層重大なものになってきている。

機動隊に課せられた任務の重大性を肝に命じ、一日でも早く一人前の機動隊員になれるべく日々の訓練に努力を惜しまぬ覚悟である。

日本北から南から

機動隊潜水訓練槽新設

栃木県警察機動隊

当県機動隊の潜水訓練槽が昨年九月に完成し、警察本部長をはじめ、各級幹部の方々の出席をいただき盛大な竣工式を挙行することが出来ました。

竣工式が終了すると、早速翌日からスクーバ訓練を開始し、新隊員は、スクーバインピンク訓練を徹底的に指導され、新隊員一同スクーバ訓練の基本を確実に習得し、スクーバ隊員に一步近づいたようです。

一方、旧隊員はボンベ着装のまま、水面泳法、立ち泳ぎ、潜行浮上、エアースティション、水中での装着脱訓練、妨害排除、暗黒潜水等の反復訓練を、連日実施しました。

そして中禅寺湖、鬼怒川等の河川及びダム等での冬季における各種災害、水難事故、及び水中凶器の捜索活動を想定して、昨年末、寒中におけるスクーバ訓練を機動隊潜水訓練槽で実施しました。



ムバラク大統領夫妻

来日に伴う警衛警備

警視庁機動隊

三月十三日、特別機にエジプト・アラブ共和国のムバラク大統領夫妻が東京国際空港に到着された。

夫妻の来日に伴い、滞在中四日間のべ約三千人の機動隊員らが警衛警護警備にあたった。

天皇皇后両陛下及び国賓一行の身辺警護とテロの取締り、空港周辺警備などが主な警備態勢であったが、三月十六日、無事本国へ向かう夫妻の特別機を見上げながら、任務完遂の喜びにしばし浸ると共に、次回の警備の完遂に気持ちを新たにしました。



警備の中核
頑張れ機動隊

東鋼業(株)

(学)嘉悦学園

高周波熱錬(株)

光洋商事(株)

芝本龍平

(株)周東商会

スカイコート(株)

杉尾榮俊

東京テレメッセージ(株)

木村利秋

西戸栄一

加納保成

中京製線(株)

中村欽哉

松田鉄鋼(株)

中越通運(株)

内外運輸(株)

三星金属工業(株)

高橋重廣

豊鋼材工業(株)

(社)機動隊員等を励ます会
東北支部

読者の場

日本は異質な国なのか

木下 英雄

(理事・東京本部)

近來米国を中心として異質国日本の議論や本式の研究が盛んなようだ。明治開国以来懸念に近代化をはかり、又第二次大戦後は米国の占領政策による強烈な民主化を進めさせられた我が国は、欧米からみれば彼等と酷似した社会が出来るのが当然だと思ふのも無理はない。

所が、高度成長下での貿易トラブル、更には経済構造・民主政治のあり方等を見ると、どうやら彼等が期待した国とは異質な社会になっているし、文明という観点からみても著しい相違が目立ち、このことが「パートナー」たりうる国かの疑問すら持ち始めているようだ。

民主政治・資本主義経済・自由主義のテーマは非欧米国の中ではぬきんでて欧米に近接はしているものの、その運営内容を研究するほどにその「ちがひ」がはつきりして来ている。

ただ彼等が冷静に違いを認識すればよいが、欧米が正しくて日本は間違っている捉まえ方はどうも理解できないし、又彼等の身勝手な議論ではないかと腹立たしくもある。文明は気の遠くなるような永い年月を経て形成されるものと思うにつけ、短兵急に成果を望むのは乱暴極まりない考え方でないだろうか。

要は日本が本当に異質特殊なのかの

判断基準がどうもウエスタンサイドにおかれているので、望むべくは冷静にしかも深く両者のあり方の研究がより必要と思われるし、日本サイドも故山本七平氏のような丁寧な議論や考え方を西欧社会へ発信して理解を深めて欲しい。

今後機動隊の方々も海外応援活動が重なるにつけ異質な文明や文化との接触が増えることは確実と思われるので、そのような機会に相互理解の一助をも果たしてほしいことと思う。

継続は力

橋山 和生

(理事・大阪支部)

新日鐵名古屋製鐵所のある東海市で地域の新聞「東海タイムズ」を発行して二十年になる。新聞といっても全頁四枚のタブロイド版、それでも二万五千戸の全戸配布を毎月続けている。

一面は市長・製鐵所長・国会議員等への時事問題インタビュー。順次「町の話題」「人の話題」と続き、最終頁は詩歌・俳句等の文芸欄が占めている。

日経新聞の「私の履歴書」に倣って三年前より町の名士の半生の思い出を綴ってゆくシリーズを始めた。お会いする名士の方々は一見近寄り難いが、話しをしてゆくと実に人間味豊か。

飯場生活での酒の失敗——
若い頃の大病の克服——
戦後シベリア抑留でビストロを突きつけられた思い出——
校内暴力の嵐の中で生徒と共に動物を飼ひ、草むしりをして心を通じた話——

実体験に基づく言葉、それにより体得された考え方に迫力がこもる。その数々が今も心に残り参考になっている。

記者は滝田常晴氏。「大東京音頭」「大坂音頭」を始め多くの作詞で大賞を受け、「富士製鐵社歌」も作詞した元・新日鐵マン。

持ち前の文才と行動力で、見事に記事をまとめ、今や東海市で知らぬ人はいないと言つてもいい位である。
小生自身も初対面の人に「協材興業の橋山です」といってもピンとこないが「東海タイムズを出しています」というと「あ、読んでますヨ」とニコリしてくれる。

先日の二十周年の集いにも市長・商工会長・議員を始め多くの方が駆けつけて下さり祝辞を頂いた。
深い感謝の念と共に、「ペン」の力として「小さな事でも継続することによる力」の大きさを実感した次第である。

オウム真理教富士山総本部を搜索



お知らせ

◎三月二十日東京都内地下鉄における毒物使用多数殺人事件発生に際し、警視庁機動隊員等は危険を省みることなく、警察活動に従事してそのうち一七一名が受傷しましたので、お見舞いを致しました。

◎三月二十二日から現在なお行われているオウム真理教関連施設に対する搜索活動に警視庁を始め全国の機動隊が警備活動に従事しておりますので激励致しました。

◎三月二十四日深夜、山梨県オウム真理教富士山総本部で搜索差押え中、警視庁第七機動隊員一名が側溝に転落して全治二カ月の重傷をおわれたのでお見舞い致しました。

◎五月三十日(火) 警視庁機動隊観閲式が行われます。
場所 東京都明治神宮外苑絵画館前
時間 午前七時より
荒天の場合は、六月六日(火)に順延となります。

参加ご希望の方は、五月十日(水)までに事務局まで連絡をお願い致します。

◎六月一日(木)午後五時より、東京都港区元赤坂「明治記念館」において、第二十二回通常総会を開催します。

※当初予定の六月九日が変更になりましたのでお間違ひのないようお願い致します。

電話 〇三—三四〇三—一一七一
◎六月十五日(木)午後六時より、広島市中区平和公園内「広島国際会議場」において、中国支部総会を開催致します。

電話 〇八二—二二七—一一三三
皆様多数の参加をお待ち申し上げております。



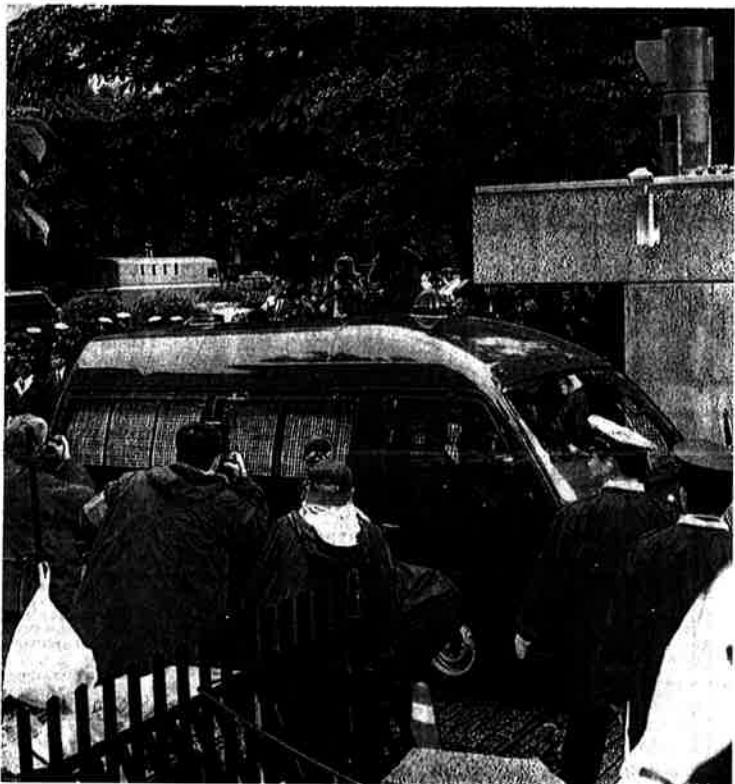
はげまし

発行所

社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都大田区仲六郷4-32-5
〒144
発行人 鈴木 寛
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円(送料共)
(但し会費の中には購読料を含む)

麻原代表ら十四名を逮捕

地下鉄サリン事件、殺人および殺人未遂事件の全容説明へ――



▲麻原代表を乗せたワゴン車が警視庁に到着

三月二十日都内地下鉄構内において発生した、サリン事件は、警察制度始まって例をみない凶悪事件であり、その捜査は、警察庁を中心に警視庁をはじめ全国の警察が総力を挙げて行ってきた。

とくに、東京目黒公証人役場事務長逮捕監禁事件を始めとして、埼玉県元

看護婦監禁事件、宮崎県元旅館経営者略取監禁事件、神奈川県ピアニスト監禁事件、大阪阪大生および元自衛官監禁事件にともなうオウム真理教関連施設の捜索差押によって多数の証拠資料や大量の化学物資を確保し、容疑者の逮捕による自供とサリンによる被害者の事情聴取によって、サリン製造者や

サリン実行行為者を特定されたといわれている。

この間、五月五日新宿駅トイレ内における毒物事件や神奈川県下で四カ所におよび異臭事件が発生し、国民の関心が高まったが、前述の二ヶ月にわたる周到な捜索の結果、ついに五月十六日全国二十二都道府県の一三〇カ所で一斉捜索が行われ、午前九時四十五分山梨県上九一色村オウム真理教「第六サティアン」において教団代表麻原彰晃を逮捕するとともに、幹部十三名を逮捕した。

三月二十日のサリン事件発生後、警視庁をはじめ全国の機動隊員は、阪神・淡路大震災の特別派遣に引き続き、われわれ国民の安全な市民生活確保のため不眠不休の警戒活動に従事されておられることに心から感謝するとともに、事件の全容説明が一日も早やかんことを念願し、我々としても出来る限りの支援を惜しまず続けていきたい。



都内での警備のようす

労働者の祭典「メーデー」

五月一日には、労働者の祭典「メーデー」(May Day)が、全国約三百八十五会場で開催され、約二十七万八千人が参加した。今年は戦後五十回目の節目の年のメーデーであったが、阪神大震災や地下鉄サリン事件、また異常ともいえる円高など、明るい材料は見当たらない暗いムードの立ち込め

今月の言葉

このところ、わが国では政治、経済、社会の多くの場面で、不安定な混乱した出来事が続き、国民は不安を抱えている。

政治面では、五十五年体制の崩壊以来、政党の離合集散、流動化が日常化し混迷しているが、日本を取巻く世界情勢は、日本の安定など待つてくれない厳しい情勢にある。

経済面では、バブル経済崩壊後の後遺症から脱し切れない中で、昨今の急激な円高は大きな打撃であり、日本経済は再び低迷すると懸念されている。

民心が不安定なところへ、今年は年初以来、阪神大震災の発生、地下鉄サリン事件等々が続き、一層、社会不安を高じさせている。

わが国が、第二次大戦後、荒廃の中から立ち上がり、堂々と築き上げた経済大国、安定した国、日本にまつわる神話が次々と崩れ去るのは何故であろうか。この五十年間、前半の復興期、高度成長期は戦前派、戦中派の人々が国を支えてきた。しかし、後半の安定期に入ると、戦後生まれの人々が主力の時代となり、社会の風潮、物の考え方が大きく変わってきている。これは単に日本だけの問題ではなく、世界的な変化といえるが、日本が他国に比べかなり異なる点がある。

日本の立直り

(理事・北海道支部長 小原 信二)

るなかでの開催となった。都内で開かれた中央大会には、村山首相が参加、また都知事も参加し、約三万七千人が詰めかけ、全国各地の会場も無事終了した。

(メーデー) 一八八六年アメリカ労働者の八時間労働制要求の運動がきっかけで始まり、今では国際的な労働者の祭典として定着している。日本では一九二〇年第一回が行われた。

なる点がある。

一つは日本人には祖国愛が薄いのではないだろうか。周囲を海に囲まれ、外敵に侵され難い、あるいは単一民族国家という安心感からか、国民が外敵に当り、国を守るという気概に欠けている。

これは戦後一貫して、祖国愛的な一致団結という思想は、軍国主義に結びつくものとして排除されてきたことにも起因している。われわれは、武器を持った戦争はするべきでないが、世界では絶えず経済戦争、外交戦争が繰り広げられており、これに負けることは、国の衰退につながることを認識しなければならぬ。

二つめは、戦後五十年間の教育の荒廃である。詰め込み教育主体で人間教育の欠如した学校教育、少子時代になり甘くなった家庭教育、さらに基本的な問題として、戦後の日本人の宗教観、倫理観の低下による物の考え方の変化があげられる。われわれ戦中派は、戦後わが国が自由主義社会になるときに、自由と放縦をはき違えないようにと教えられた。自由主義では個人の権利が尊重される反面、必ず義務を果たさなければならぬ。と、かく、人間は自分に都合のよい権利だけを主張し、自分勝手な行いをし易いが、これは放縦であり社会を崩壊させてしまう。

今日、わが国では多くの問題を抱えているが、日本をよくするためには、多くの国民が真の自由主義を理解し、国を愛する考えを持って行動することが大切ではないかと思う次第である。

心に残る

あのひとこと

あの時あの人のひとこととて今日の自分がある——今回はそんな座右の銘について隊員の皆さんに伺ってみました。

警視庁第一機動隊

入江 信孝

私にとって心に残る言葉は、中学の卒業式に校長先生が祝辞の中で贈る言葉として話していた「おい、悪魔——」です。何だろうと思われるでしょうが、これは戒めの言葉の頭文字を掲げたもので、「お」は怒るな、「い」は威張るな、「あ」は焦るな、「く」は腐るな、そして「ま」は負けるなという意味です。

中学卒業といえば社会人になる者もいることから、社会へ出てからの人付き合いや仕事上で注意しなければならぬことを、最後の締めくくりとして祝辞にあわせて教えてくれたのです。

この言葉だけは決して忘れることなくその時々に合わせて解釈をして教訓としています。

社会人としてもそうですが、集団行動を常とする機動隊員として、人間関係や厳しい情勢下の任務は、時としてわがままや愚痴の出ることがありますが、それは総じて何の得にもなりません。そんな時こそ「おい、悪魔——」の言葉思い出してみるのがいいです。

警視庁第二機動隊

新井 保

平成二年十一月一日、新宿警察署に勤務していた私は、生涯忘れがたい大きな衝撃的な事件に遭遇したのです。その事件は、即位の礼・大嘗祭等の警備で厳しい勤務が続く中、非番の私が休もう

としている矢先、大きな爆発音とともに発生したのです。一回目の爆発音が聞こえ、寮の先輩とその方向に駆けつけたところ、またもや爆発音がし、その音がするや無残にも先輩は重傷を負い倒れてしまったのです。十一・一新宿警察署清和寮爆破事件の発生でした。

私は被疑者一名を逮捕し、翌日の朝まで一睡もせず、逮捕手続き書を作成した。あの時の出来事は、月日の流れの中で断片的にしか思い出せなくなっている。しかし、中隊長が言った一言は一生忘れることが出来ない。部下を思いやる気持ちに、今でも目頭が熱くなるのを感じる。私も、あの中隊長のような人間味のある幹部になるよう努力していきたい。

警視庁第四機動隊

澁谷 真

私は、機動隊員として多くの警備に従事してまいりました。中でも平成三年春の旧ソ連ゴルバチョフ大統領警備が強く印象に残っています。

早朝から深夜に至る右翼対策が連日続き、警戒中の姿勢もだらしなくなりがちでした。そんな時、小隊長が肩を叩き、「警備部の人間がこれしきのことで情けない」と一言私に言いました。

この小隊長はいつも温厚でしたが、言葉には含蓄がありました。大警備期間中に休みが一月位入らない時は、隊員の間に不満の声が時々聞かれますが、小隊長は「警備部の人間が休み位のことと文句を言うなよ」と誰に向かっていてもなしに言っていました。

我々機動隊員の仕事は、国の治安にかかわるような事案に対して公共の安全と秩序の維持を目的としてその警備現場へ出動します。このことは、機動隊員の誇りであり、宿命であると思えます。

どんな激務であろうとも「我々は必ず完遂できる」と私は思っています。「警備部の人間」である限り。

警視庁第五機動隊

藤原 薫

私が初任科に入校したのは昭和六十二年三月のことである。当時の教官は教場訓として「努力」を掲げていた。物事に取り組む時は、地道な努力の積み重ねがいかにか大切かを説き、些細な事でも自ら

に厳しくその言葉を実践しておられた。鉄の意志を持ち、目立たない努力を重ねることで、どんな高いハードルも「乾坤一擲、岩をも通す」ことを教えて頂いた。人は日常、出来て当然、簡単な事はど実践するのが難しい。しかし、それを確実にやって始めて勝利の道が開けてくる。努力とは、言葉では安易な様であるが、同時に難儀なものであることも昇任試験勉強において実感した。改めて教官が自ら示した「努力」の意義が思い起こされ、後輩に身を持って教えていかなければならないと確信している。

また、教官は「準備の勝利」という事もおっしゃっていた。何事も準備を万全に行い、体勢を整えておけば、どのような状況にも対応できる。警察官としての基本がこの言葉に集約されている。警戒方法と検挙方策、知識の習得等、準備段階でその成否は九割決まると言っても過言ではない。私は都民の要望に則した仕事の結果を出すために、初心に帰り、地道な努力を積み重ねていく所存である。

警視庁第六機動隊

米田 和彦

阪神淡路大震災派遣警備に従事した時のことである。町の機能は停止し、住民の不安感、不便さはつのるばかり。それを少しでも解消して貰いたく相談に来るが、私たちの活動にも限界があり、ただ話を聞くだけの場面も多々あった。

連日、切実な訴えに接しながら、「警察官としてやるべきことは本当にこれだけではないのか」と思いはじめた。しかし日がたつにつれ早く何とかしてあげたいという気持ちとは裏腹に、思うように進まない復興活動と、自身の疲労も手伝って焦りと歯がゆい気持ちのものがつのり、半ば諦め、投げやりになりかけていた。

そんな私に、深夜の警ら中、ある上司が「上を見ろ」と一言。上を見てただただ夜空に星が輝くばかりだった。「あの星だよ。地球よりも大きい星もある。向こうの星から見れば、地球は小

さいものだ。その地球の人間はもつと小さい」神戸の夜空にその一言は響いた。私は、この一言を聞き、はっと目から鱗が落ちる思いでした。「そうだ。小さな力ながらも与えられたことを精一杯頑張ることが私の使命だ」と思った途端、今までよくよく考えていたことが、嘘のように心の底から勇気が沸き上がり「やるぞ」という気持ちになったのです。

以来、辛い時や悲しい時はあの一言を思い出し、厳しい仕事や昇任試験に向けて「やるぞ」という気迫で頑張っている。

警視庁第七機動隊

安達 正晃

私が新隊員として着隊した頃、勤務は不規則で休みもなく、朝から晩まで落ちつく暇もない程厳しい勤務が続きました。夜中に天を仰ぎ、あるいは雨に打たれ、雪に埋もれながら立ち番していると「機動隊に行ったら昇任試験に取り組もう」とか「資格をたくさん取ろう」といった気持ちで薄れていくのがよく分かりました。そんな時、小隊長に言われたのが、「艱難汝を玉にす」という言葉でした。

「人はとく易きに流される。案になりに、時間が経てきたからといって、目標に向かって努力をする人がどれ程いるか。『小人閑居して不善を為す』と言うように、暇な時に善い事はなかなかしないものだ。厳しい時、時間が無い時の方がむしろ集中し、よい結果が生まれる。苦しい時こそ自分を磨くチャンスなんだ」。

私のもやもやとした気持ちは、この一言で吹っ切れました。それからめげそうになるといつもこの言葉を思い出して頑張れるようになりました。

近時、技術の進歩や環境の変化には激しいものがありますが、人間は急に変わるものではないと思います。人間が変わるのは、環境の善し悪しではなく、常に理想を持ち、それに向かって努力していくこと。心の持ちようであると思います。私はこれからも自分の可能性を信じて前向きに自分を高めていきたいと思っています。

警視庁第八機動隊

杉本 伸幸

今年は私の警察人生の中でも思い出に残る年になると思います。年明け早々から阪神大震災、地下鉄構内毒物使用殺人事件など、重大災害事件が発生し、忙しい日々を過ごしています。

そんな中、当番勤務で自動車検問中のことです。いつもは都民応援に心掛け執行務に当たっている私も、この日は疲れが見えはじめ、職務質問の際横柄な態度が現れ、相手の立場に立った応接が出来なくなり始めた時です。上司から、「厳しい環境の中でこそ優しさを出せる男が本当の男だ」という激励の言葉を聞いた時、自分の精神力の弱さを痛感し、まだ未熟であることを思い知らされました。ただ優しいだけでなく、自分に厳しく厳しい環境を乗り越え、その厳しさに裏付けされた、本当の意味での「優しさ」を身につけたいと思うのです。今年はまだまだ重要な警備が続きますが、真の優しさを忘れず、都民応援が出来るように自分を鍛えていくつもりです。

警視庁第九機動隊

市村 勝成

九年前、新隊員として初めて成田現地闘争に出動した時の事である。当日、輸送車の中は一年前の一〇・二〇の記憶が蘇り、極度に緊張した空気が流れていた。

私は新隊員でもあり、皆が難なくできる警備訓練も全力を出し切り、ようやくついていける程度であった。まして警備現場で通用する体力と自信は無かった。そのため前日から落ちつかず、満足に睡眠もとれないほど心配で、「車が故障しないかな」「体の具合が悪くならないかな」と消極的なことばかり考えていた。幹部や先輩の指示・注意事項は上の空。耳に入るのは荒れ場の話ばかりで、車から飛び降りて逃げたくなるほどだった。しかし、非情にも輸送車は確実に目的

地へ突き進んで行く。あつという間に現場についてしまい、怖さで膝が小さく震えていた。その時である。隣でずつと眠っていたかに見えたある先輩が思い出しただかのよう「さあ、これから俺の時間だ。思い切つてぶち当たるぜ、ビビッていても始まらない」と呟いた。その一言を聞いた時、今まで逃げることを考えていた自分に気づき、恥ずかしさがこみ上げてきた。無事警備を終了し、帰隊してからは、失敗して落ち込んだ時、仕事から逃げだしたくなる時、辛い時や休みたいた時に「さあ、これから俺の時間だ」と心の底で自分に言い聞かせ、勇気づけている。

警視庁特科車両隊

秋山 美穂

私は全日本女子剣道選手権大会出場を目標に掲げ、全てを賭けて一生懸命稽古に励んでいた時期がありました。しかし自分の努力とは裏腹に一向に成果は得られず、自信を失っていきばかりでした。自分の力のなさに腹をたてながらも夢が捨てきれずにいた頃の事です。

年が明けてすぐ、気分の一転を明治神宮へ行き、おみくじを引くと、昭憲皇太后の御歌が書かれてありました。「むらぎもの心にとひてはぢざらば」

よの人は言はいかにありとも」世の中は目あき千人、盲千人といつて、世間の批評は必ずしも一致しません。自分が正しいと信じたならば他人の言葉に迷わないように致しましょう、という意味だそう、この御歌を詠んだ時、一氣に力が湧いてきたのです。

そして、その言葉のとおり実践したところ見事に全日本選手権大会出場という目標を達成することが出来ました。その時の成果のおかげで今の私があると言っても過言ではないと思います。これからの警察人生の中でも苦しいことに突き当たり、迷い、戸惑うことと思いますが、あの御歌を思い出し、自分を信じて頑張っていきたいと思っています。

日本北から南から

機動隊の多角的運用

秋田県警察機動隊

年々、事件の凶悪化、複雑化が深刻化する日本の治安情勢であるが、その犯罪を取り締まる我々警察においてもそれに対応できる「心・技・体」が必要とされてきている。

我が秋田県警察機動隊においても昨年から「機動隊の多角的運用」に伴い、単に警備実施や術科訓練だけの機動隊活動ではなく、一般警察活動への機動隊の活用のために、機動捜査隊での部制勤務を実施している。

隊員の半数以上が、将来、捜査係を指しており、また初めての捜査係として

連休中の各種警備完遂

警視庁機動隊

日本全国の行楽地が賑わった今年のゴールデンウィーク（四月二十九日～五月七日）、各地で様々な催し物が行われ、これに付随して各種警備警護の派遣が行われた。

都内においても、沖縄反戦闘争警備（二十八日）、第六回森と花の祭典警備警護（二十九日）、第六十六回メーデー警備（二日）、憲法記念日に伴う警備（三日）と相次いで実施された。

今年は、円高での海外旅行ブームの影響で、国内の輸送機関はふるわなかったとは言うものの、行楽地などの人出は前年より多い六千二百二十一万人を記録した。

またこれに先立ち、地下鉄サリン事件を始め、一般市民を無差別に狙う凶悪事件が相次いでいた為、近年にない緊張の中で警備は実施された。

幸い、極左の集会やデモは減少傾向にあり、三千人が動員されたメーデー警備を始め、大きな混乱もなく無事に全ての警備事象が完遂された。今年に入り、急激に変化する社会情勢の下、大型警備が連続している。阪神淡

の勤務ということから旺盛な好奇心と積極的な職務執行により、各種事件の検挙等にも目ざましい実績を挙げている。

また、昨年、秋田県内で発生した二件の殺人事件においても、機動捜査隊勤務で培った捜査感覚を生かし、現場付近から犯人の遺留品と見られる物件を発見する等、「機動隊の多角的運用」の効果は着実に実を結んできている。

今後は、治安の維持のため、これまで以上の知識技術が必要とされる時代が到来すると予想されるが、我が秋田県警察機動隊においても、「二十一世紀の機動隊のあるべき姿」を見据え、本来の良き姿を失うことなく「より精強な機動隊」を目指して日夜奮闘中である。

路大震災の支援活動からここ数カ月、我々機動隊員も、息つく暇もない多忙な毎日を送っているが、都民が安心して日常生活を送れる日を一日でも早く取り戻したいと痛感した警備であった。

検問の状況



- 若さと伝統
頑張れ機動隊
- 鈴木 實
- 青山特殊鋼(株)
- 大野興業(株)
- 岡 部(株)
- 関東銑鐵(株)
- 草野産業(株)
- 高周波熱錬(株)
- (株)スチールセンター
- 小川運輸(株)
- 平和農産工業(株)
- 西野 公庸
- 橋山 和正
- 浅田 隆司
- 竹之上誠剛
- 東海レベラー鋼業(株)
- 東海鋼材工業(株)
- 日鐵物流(株)
- 丸 橋 哲彦
- 南部建材工業(株)
- 早達運送(株)
- 北越メタル(株)

読者の広場

ニューヨーク雑感

塩田 保

(理事・名古屋支部)

ニューヨークは、通算十七年の駐在生活を終えて、我が家のもう一つの「ふるさと」となった。

日本から見れば、北半球の裏側に位置して時差は十四時間(夏時間中は十三時間)あり、四十年前の初旅では、プロペラ機で三時間以上かかったが、今はジャンボ機で十二時間程で随分楽になった。明治初頭の岩倉使節団は太平洋横断に二十四日間掛かり、ワシントン等を経て、半年後にニューヨークに到着している。

どこかで聞いた、遠くて近い、一寸良い話を披露しよう。

マンハッタンに単身赴任中の彼が、ハドソン河の向こう、ニュージャージーの丘に沈む夕日に見とれながら、日本の留守宅に電話をかけたなら、受話器の向こうの奥さんが、今きれいな朝日が昇っていると云ったので、俺は夕日だよと、その瞬間、同じ太陽を見て居る事に気が付き、急に、お互いが身近に居る気がして、しばし言葉がなかったと云う。(ニューヨークの午後五時が、日本の午前七時になる)

この場合、二人は太陽の表と裏、右左とか、別の顔を見ている様に、一寸錯覚するが、地球と太陽の距離からすれば、ほぼ百%全く同じものを見ている筈である。

白人の歴史は、ニューヨークは一六〇〇年代に始めてオランダ人が定住し、有名なマンハッタン島を二十四ドルでインディアンから買い取った話を、一六二六年と記憶するので、精々四〇〇年程である。

ヨーロッパ、中近東、中国等で、数千年単位の古代遺物に触れてきた人が、ニューヨークを訪れて来た時に、観光の目玉である名所旧跡を案内すると、たかだか百年か百五十年程度の古さなので、なんだと言う事がある。その場合は、マンハッタン中心のセントラル・パークに案内すると良い。

所々に露出している巨岩の表面に、例外なく北東から南西に向かって、何筋もの條痕(キズ)がある。これは、氷河時代カナダ東部にあった厚さ数千メートルの大氷原から流れ出た氷河が、ニューヨーク湾に達していた頃、氷河の底石で刻まれたもので、数万年前の旧さは保証出来る。

この地は、昔から、世界中のあらゆるバラエティーの人種、エスニックグループが集まり住んで、「人種のもつば」と云われて来た。

しかし、「るつば」の中には、色々な種類のものが、融け混り合って、新しい合金になると思うがその様ではない。むしろ、それぞれが、独自の性格、文化、宗教、習慣を、そのまま持ち込んで、お互いに干渉する事なく、「共生」している多種多様な社会である。多発する犯罪とか激増するホームレスに悩みながら、絶大な包容力と、ダイナミックなエネルギーを失わないニューヨークは大好きだ。

関東大震災の思い出

麻生 博

(理事・東京本部)

この度の阪神大震災の報道に深い衝撃をうけた。すっかり忘れ去っていた大震災の恐怖と幼心に焼きついた屈辱感を思い浮かべた。幼い頃の私は、今の東銀座、当時の木挽町で被災している。私には震災以前の記憶は全く無く、それ以降の記憶も漠然としているのに、衝撃の大ききからか、震災の記憶だけがハッキリと今なお心に刻まれている。

当時の東京はまだこじんまりとしていて小さかった。東京市は、麹町・神田・日本橋・京橋・芝・麻布・赤坂・四谷・牛込・本郷・小石川・下谷・浅草と川むこうの本所・深川の十五区で、今の山手線の中にすっぽり入ってしまいう程の小規模であった。関東大震災は東京・横浜・その周辺で起こり、統計に依れば、全壊家屋十萬・焼失家屋四十四萬・死者十萬人・行方不明四萬人の大災害をもたらした。小さかった東京市でさえ、死者が六萬を超していた。圧死者は二千人と言われ、殆どが焼死したのである。炊飯時で、当時多くの家庭では炭火を使用していたので出火箇所が多かった事、家屋の殆どが木造で焼失を早め、縦横に走っていた川・堀に架かっていた橋梁も木造で焼失して逃げ場を奪ったことが、被害を大きくした原因と言われている。

七十年前、大正十二年九月一日は風もなく蒸し暑く、不気味な静けさが漂っていた。午前十一時五十八分、地震が起こった。私は妹と二人で二階にいた。簾簾が倒れたが、二人で窓辺にしがみついて助けが来るまで、隣の屋根瓦が崩れ落ちる様を眺めていた。

付近では前の家の塀が倒れた外は、屋根瓦が落ちた程度で被害は無かった。午後になって、本所深川の方の煙が見えるようになり火災が発生したと知った。更に上野の方でも火災が発生したという。車に荷物を積んで逃げてくる人々を通るようになると、お茶や西瓜を出して労いながらその方面の火災の状況を聞いて、火災の規模の大きさに驚きつつも此処まで火が及ぶとは誰が思いも馳せなかった。午後六時頃になって、芝の方から火が迫ってきた

との知らせで、人々は始めて避難しはじめた。既に道はごった返す程混み合っていたが、浜離宮へと人々は雪崩込んだ。浜離宮への道には海軍大学、海軍参考館、海軍経理学校等々の海軍施設があった。必死で既に火の回った屋根の上から群衆の避難を誘導していた海軍将校の姿が今でも胸に焼きついていてる。海軍施設内の弾薬庫に火が移り、物凄い爆音と夜空に立ちのぼる火柱は此の世のものとは思えなかった。

早く避難した母と私達兄弟は浜離宮へ、遅れた父と姉は芝離宮へ逃れた。互いに無事を知り合ったのが、二日の夕刻であった。煙のためか、二日の太陽は異様に迄大きく真っ赤な姿を中天に曝していたのが印象的であった。避難先が離宮であったので、荷物の搬入が出来なかったのが幸いして、命が助かった。もし荷物を入れていたなら三万八千人の焼死者を出した本所被服廠の様な惨事を起こしていたらうと後になって知らされた。

浜離宮から靖国神社に避難場所を移したが、此処から見る東京は一面の焼け野原であった。この頃、悪質のデマが飛び交い、物情は騒然としていた。壮年の男子は自警団を作って、こん棒を持ち警戒にあたる姿は物々しい雰囲気醸成して居た。

私も子供は直ちに郷里の親戚の家に避難させられた。避難民の子と指され、屈辱の日々を送った。小学校で大勢の前で避難民の子供へとノットと二本の鉛筆を渡された時の惨めさと屈辱感は未だ心に染みついていてる。好意を好意として受け取れない程心は病んでいた。

今次の大震災で初動対策の遅れが指摘されているが、それは時間単位の問題であった。さすが情報化時代だ。デマもなく治安の乱れも無かったことに成長した日本を見、七十年の時の流れを感じた。そして、被災地もかつてのような孤独でなく、連帯感を持つ全国的繋がり活発な救援活動の中にある

のは心強い限りである。現在は物質的援助がその重点を占めているようであるが、七十年たつて心に受けた傷痕は忘れることが出来ない私の経験からも、物質的援助と共に、精神的支援にも心を寄せて欲しいと思っている。



お知らせ

◎四月二十六日、オウム真理教関連施設に対する捜索に、警視庁を始め全国の機動隊員が長期にわたり出動しているのを、鈴木理事長が警察庁・警視庁に激励致しました。

◎五月三十日(火)に予定されていた警視庁機動隊観閲式が左記の通り変更になりました。

○日時 六月九日(金)午前七時より
○場所 東京都明神宮外苑絵画館前

◎六月一日(木)午後五時より、東京都港区元赤坂「明治記念館」において、第二十二回通常総会を開催致します。

審議をお願いする議案は、

①平成六年度事業報告および平成六年度収支決算承認の件

②平成七年度事業計画案および平成七年度収支予算案承認の件

③理事および監事選出の件

④阪神、淡路大震災災害警備にともなう支援募金活動の収支決算報告承認の件

です。

電話 ○三三四〇三二一七

◎六月十五日(木)午後六時より、広島市中区加古町三ノ三「広島厚生年金会館」において、中国支部総会を開催致します。(場所が変更になりましたので、注意下さい)

電話 ○八二二四二八八八

皆様たくさんのご参加をお待ちしております。

はげまし

発行所

社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都大田区仲六郎4-32-5
〒144
発行人 鈴木 實
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円(送料共)
(但し会費の中には購読料を含む)

確固たる信頼の絆を深めて

第二十二回通常総会ならびに懇親会



▲受賞者の方々

六月一日、そぼふる雨の中、東京都明治記念館において、会員約一六〇名の出席のもとに「第二十二回通常総会ならびに懇親会」が開催された。

本年は、別室にて通常総会が開催され、理事長の挨拶の後、四つの議案がいずれも満場一致で承認され、会は滞りなく終了した。

その後会場を移しての懇親会では、来賓として國松警察庁長官代理・関口祐弘次長殿、警視庁からは警視総監井上幸彦殿を始め、警視庁機動隊の各隊長、隊員の方々一五〇名という多数の参加を得て、にぎやかに幕を開けた。

懇親会は鈴木理事長の「今年は大事件が続く、機動隊の方々には多忙の毎日が続いているかと思いますが、多数の隊員の方々にご参加いただき、誠に光栄です。今後心から激励し続ける決意です。」との挨拶があり、その後、会の功績者八名に対して表彰状が贈られた。

その後、来賓挨拶として、関口祐弘次長殿より、「励ます会の皆様には、日頃から警察行政万般において格別のご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。本年は、阪神大震災、地下鉄サリン事件、國松長官狙撃と、私たちが経験したことのないような大事件が続き、警察は全力をあげて事件の全容解明に取り組んでいます。阪神大震災では、全国の機動隊が兵庫に集結し救助にあたり、オウム真理教の捜索では、上九一色村での捜索、検証と、全力で奮闘中です。その機動隊員の活躍を支えているのは、何より励ます会の物心両面にわたる激励にほかなりません。十一月には大阪でAPECが開催される予定でもありますが、ますます多忙な日々が続くと思われますが、全力で取り組んでいきますので、今後とも応援をお願いいたします。」との挨拶があった。

その後、警視総監井上幸彦殿より、「本日は多くの隊員とともに招きいただき、深く御礼申し上げます。励ます会の皆様には、日頃から警察業務への深いご理解と強力なご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。機動隊員は、日頃街頭で、市民からの声なき声に支えられてがんばっています。本年は、大震災、また多くの市民を無差別に死に至らしめたことに残念な断じて許すことのできない地下鉄サリン事件がおきました。今後このような凶悪な事件が二度と起こらないよう肝に銘じ、警戒警備活動を行っていきます。現在事件の全容解明にむけ、警視庁全職員が一丸となり、それぞれの立場で、それぞれの持ち場で全力を尽くしてい



▲警察庁長官代理
警察庁次長 関口祐弘殿



▲警視総監 井上幸彦殿

ます。機動隊の職務は、終わりのなき警戒警備活動ですが、皆様の期待に応えられるよう努力を惜しまず頑張っています。」との力強い挨拶があった。

その後、木村副理事長による乾杯の後、隊員と会員の懇親会にうつり、広い会場と狭い輪が広がり、会場内は真夏の熱気ながらに盛り上がった。

会も最高潮を迎えたところ、第九機動隊長根本幸男殿より「皆様からのあたたかい声が、何よりのはげみになります。現在機動隊は多忙な日々が続いていますが、機動隊の誇りを持って働いています。今後も、皆様からの支援を

今月の言葉

五月十六日麻原彰晃が逮捕されました。日本のみならず、世界中を震撼させた一連の大事件の全容の解明が待たれますが、その総てが一日も早く白日のもとに晒されることを願うばかりであります。一方で、世の中全体の病理のような側面や、日常では目に見えぬ巨大な組織悪のような存在も感じられ、安易な予断を許されぬ不気味さも未だ払拭できない事象も事実です。現実には多くの犠牲者が出た後でないと法の網を被せられないというもどかしさや、いつ何時毒ガスが噴出するかも分からない、という現場での警察官の弛まぬ捜査活動を目の当たりにすると、職務とはいえその勇気と不撓不屈の努力は驚嘆に値します。あの警察官を、もしも自分の身内であつたら、と想像すればその大変さが誰にも理解して頂けるでしょう。

健全な社会であれば、正と邪は通常明確に区分できるものです。今度の事件の不気味さは同じ日本人が日本人を無差別に殺そうとした事、しかも特殊な異常者集団ではなく、あらゆる職業、あらゆる階層を含むこ

オウム事件に思うこと (理事・九州支部 自見 眞清)

く普通、あるいは普通以上の人々の企てであつたこととしてしよう。地下鉄の同乗者を互いに警戒感を持ちながら窺い合う、などということは前代未聞のことです。逆にいえば今までは潜在意識の中では日本人同胞、日本という国家に対する従属感覚があり、何ののかというものの、それは誠に居心地の良い母親の胎内のようなものであつたのではないのでしょうか。何かに脅えはじめると排他性という別の魔物の登場に気を付けねばなりません。自由主義と民主主義を守り通していくためにはより多くのコストが掛かりはじめることも覚悟せねばなりません。かと言って単純な警察国家であつてはならないし、国民一人ひとり、警察官の一人ひとりがこの日本の国の歴史を振り返って、日本人の日本人たりうる由縁のものをしっかりと見つめつつ、日本国民であることに誇りを持たなければなりません。いづれにせよ、機動隊の皆さんには、一段と厳しい使命と、国民の付託が肩に重くのしかかる時代となりました。この重荷に潰れることなく、日本の、安全な国神話の早期復活を祈って、皆さんの獅子奮迅の活躍を期待したいと思います。

糧に、職務に邁進していきます。」との謝辞を頂戴し、樋浦北陸支部長の万歳三唱で第二十二回通常総会の幕を閉じた。

本年は、過去に例を見ない大事件が続き、隊員の方々の疲労はピークに達しているようであつた。にもかかわらず、本当に大勢の隊員の方々、また女性隊員の参加も多く、華を添えていただいた。どの隊員の方々の目にも自信と誇りが見られ、いつにもまして頼もしい隊員の方々の笑顔が印象的であつた。

警備日記 最近の警備を ふり返って



1月17日阪神・淡路大震災

捜索活動のようす

最近の警備を振り返って

関東管区機動隊

大竹 健一

本年は、年初から五千五百人以上の死者を出す大惨事となった阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件などはじめとするオウム真理教による組織的犯罪など、社会を揺るがす重大事案が相次いで起こっている。

これらに伴い、私たち、関東管区機動隊新潟中隊も、被災地の兵庫県へ三回、オウム真理教の組織的犯罪に対処すべく山梨県へ三回出動している。

私は中隊長伝令として、警備本部勤務が中心であったが、隊員の現場での勤務は非常に大変なものであった。

現場の苦労はもちろんのことであるが、私が最近の警備出動に伴い、強く

感じていることの一つに家族のことがある。

今年に入り、家族と旅行などの約束をしても出動のため、実行することができなかったというものが何回もあった。そのような時でも、何も言わずに現場へ送り出し、小さな子供のいる家庭を守ってくれている妻には感謝の気持ちで一杯である。他の隊員も家族に対して同じような思いを抱きながら、警備現場で厳しい勤務に就いているものと思う。

影で支えてくれている家族のためにも、機動隊員として、治安維持のために、この厳しい勤務を完遂していかなければならないと改めて強く感じている。

警備警備を振り返って

中部管区機動隊

鈴木 昌史

阪神大震災、オウム関連事件と大きな事案が続いたため、私たちの部隊にとっても、約半年ぶりの警備でしたが、その警備で急遽、私は小隊長伝令を命ぜられたのです。理由は、今年三月新体制になったばかりなので、本来の伝令である巡査部長に新隊員の指導を兼ねさせた新たな任務に就かせる必要があったからとのことでした。

私としても突然のことと、何をすべきかを勉強する時間もなく、また二日間の短期間でしたので、ただ小隊長の背中を追いかけただけの伝令になってしまいました。

しかし、この初伝令経験で分かったことは、小隊長伝令はいかに大変な任務であるか、ということ。勤務がお泊所直近のエリア警戒であったため、対処しなければならぬ事案が数多くあり、休憩時間になっても対応し続けなければならなかったもので、丸二日間ほとんど休息する時間もなく、眠たい目をこすりながらのハード勤務でした。とは言っても、実際に対応していたの

は小隊長です。小隊長としては、伝令との二足のわらじを履いていたようなもので、もう少し私が役立っていたらと思っています。

今回の伝令の任務は、何も分らない私にとっては非常に厳しいものでしたが、今までは違った仕事の責任感、充実感を味わうことが出来たし、ある意味では、楽しく仕事をさせてもらったような気がします。また、次回もその機会があれば、再度チャレンジしてみたいと思っています。

植樹祭警備を終えて

中国管区機動隊

橋本 薫

五月二十一日、天皇皇后両陛下御臨席のもと「第四十六回全国植樹祭」が広島県において開催されました。

私は管区機動隊員として、両陛下の御身辺の安全確保と歓迎者の雑踏事故防止を図ることを目的として、本植樹祭警備に従事しました。

この警備で感じたことは、市民の理解と協力がなければ我々の任務は完遂できないということです。

それは全国植樹祭の翌日、両陛下が福山市の県立歴史博物館を御視察されたときです。

私は、この博物館に隣接する福山城公園内において、歓迎迎者の雑踏事故防止を図るための交通整理に従事しておりました。

両陛下が間もなく御通過になろうというその時、御順路を横断しようとするお年寄りを発見したのでした。

私はすぐさまこのお年寄りに駆け寄り、「間もなく両陛下が御通過されます。恐れ入りますがしばらくお待ちください。」とお願いしました。

するとそのお年寄りは、「お巡りさん、ご苦勞です。大変ですね。頑張ってください。」と慰勞の言葉をかけて下さり、快く協力をいただきました。私は、すがすがしさと共に感謝の気

持ちで一杯になりました。

「私たちが市民の皆さんが応援してくれている。その市民の期待に応えるためにもこの任務を完遂するんだ。」という強い責任を感じたのです。

警察の仕事は全て市民の協力がなくては成し遂げることができません。今後、私はこのことを一つの経験として「市民から協力してもらえぬ警官」を目指して日々努力したいと考えております。

オウム事件に携って

石川県警察機動隊

友貞 慎吾

四月八日、私たち石川県警察機動隊は、任解まで二時間余を残し、兵庫県災害地での交通整理にあたっていた。淡々と任務をこなす中、一筋の緊張が走った。それは、「一連のオウム事件で、石川県内において教団幹部を逮捕。逃走信者発見のため、明朝オウム金沢支部の一斉捜索を行う」との緊急連絡であり、それがオウム事件との戦いの始まりであった。

任解翌日の九日、その日はオウム金沢支部の捜索をこなし一睡もできぬまま、オウム幹部が潜伏していた貸別荘付近の検索、そして引き継ぎの福井県境での検問につくため、転進となった。

この間、私たち機動隊員は状況等全くつかめず、又逃走中の被疑者らは拳銃あるいは毒物等を所持しているかもしれないという推測から、不安や怒りを覚えた。

福井県境での検問を皮きりに、高速各インターでも全車検問にあたった。隊員個々に苛立ちが見えはじめ、私個人も一般人に対しての接し方に丁寧さがかけていた時もあったように思う。

しかし、別小隊の機動隊員が教団幹部を職質逮捕したという事実を聞き、不安や苛立ちが一気に吹っ飛んだ。そして「まだ、(逃走被疑者は)県内にいる」との確信を持った。

いつの間にか、その逮捕への執着が隊員個々を一つにしていた。又、連日上九一色村等オウム事件の捜索、警戒に従事している機動隊員の活躍ぶりに励まされ、全てにおいて負けられない気持ちが一層強固なものになった。一か月後、県外において、逃走被疑者は検挙された。ホッとすると、気持ちもつかの間、全国氏名手配中のオウム信者検挙のため、関係施設の警戒等の任務があらたに始まった。

村山総理警護を終えて

三重県警察機動隊

塚本 邦博

今までにも何度か警衛や警護には就いたことがあったが、これはど近くで対象を警護するのは今回が初めての経験であった。

私はその警護で遊撃班として任務にあたるよう指示されたのであるが、その内容は身辺警護に似たようなものであった。

これまでに受けてきた教養等から、「自分が何をなすべきか」は頭では理解はしていたが、実際にやってみるとなかなかうまくいかないと実感した警護であった。

実地踏査を終えた私たち遊撃班員は、近鉄宇治山田駅のプラットフォームで総理の乗る列車の到着を待っていた。到着時間が近づくと、人が増していくのが目に見えて分かった。

やがて列車が到着し、人ごった返しになったホームでは、私は人垣で見え隠れする総理の姿を目で追うことで一杯であった。

今回の警護を振り返ってみると、本来であれば、周囲の状況をよく把握し、

あらゆる事態に冷静な判断を行い、対処しなければならぬといった任務を、初めてのことであるとはいえ、無我夢中のうちに終えてしまい、反省することばかりであった。

当県においては、年始の伊勢神宮参拝などの総理警護が一年に一回は必ず行われる。

今度、こうした警護に臨むことがあれば、今回の経験や反省を生かしたいと思う。

植樹祭警衛を終えて

広島県警察機動隊

玉田 晶之

「ようし、やるぞ」 私は平和大橋下の底の見えない川面を見つめ、自身にこう言い聞かせました。

今回の植樹祭警衛において、私の従事した特別検察隊潜水班の任務は、天皇皇后両陛下の御順路及び行幸啓先付近にある河川、沼等における不審物、不審者の早期発見であり、私は広島市内を流れる太田川の水中検索に当たっていました。

しかし、プール等での訓練はしていたのですが、実際に仕事で潜るのは今回が初めてであり、ただ先輩に遅れないようにについていこうということだけを考えていました。

警衛の情勢としては、サリン事件等が続発しており、非常に厳しいものがあり、検索の範囲も、密度も、いつもより広範囲で綿密であったと思います。私自身、一番大変だったのは、初めての水中の検索であり、特に川の流れに随分苦労しました。

陸上から見ると穏やかで、ほとんど流れなどないように見える川も、実際に川の中へ入ってみると相当な流れがあり、橋脚にしがみついていなければ流されてしまいそうな程です。

気力体力を使う潜水検索でありましたが、「急流の川に不審物件はないだろう」という甘い考えを払拭し、「我々

が検索した場所で絶対にゲリラは起こさせないぞ」という気持ちで、潜水班長以下、一丸となって、水中検索に当たりました。

結果として警衛は無事終わり、自分の与えられた任務を果たすことができ大変嬉しく思っています。

これからも、各種事案に潜水隊員として従事することがあると思いますが、今回の経験を生かし、自信を持って任務に当たっていこうと思います。

高レベル放射性廃棄物

搬入警備を終えて

青森県警察機動隊

平成七年四月二十六日、暗雲小雨の中、専用キャスクに密閉された海外返還高レベル廃棄物は、蟹気楼の如く水蒸気を舞い立たせ、青森県六ヶ所村むつ小川原港から原燃サイクル施設に入

オウム真理教関連施設

捜索に伴う出動を終えて

茨城県警察機動隊

全国民を不安と恐怖に陥れた地下鉄サリン事件が発生したのは、忘れもしない本年三月二十日であった。

大規模な警察活動のあるところに、警備部隊の存在は必要不可欠のものであり、われら機動隊員も二十三日には早速、オウム真理教関連施設が集中する山梨県上九一色村へ緊急出動し、同教団が所有する第七サティアン周辺において、車両検問にあたった。

出動期間中、二十四時間隔日勤務体制による検問に従事したが、海拔千メートルを越える上九一色村は、天候不純で雪や雨の日が多く、温暖な茨城県と比べて厳しい気候であることを、出

構していった。

輸送船に積載された高レベル放射性廃棄物は、フランスを出港し六十二日間の航海を経てわが国に返還されたのである。

世界的な反核気運の高まりを見せている厳しい警備環境の中で、高レベル放射性廃棄物搬入に伴う数々の違法行為を抑え込み、治安維持の重責を全うすべく、青森県警察は東北管区機動隊の応援を得て、延べ二千四百人余の体制により警備に当たった。

四月二十五日(火)搬入予定日遙か洋上に輸送船パシフィックペンテル号が重々しくその船影を現して来た。

これ wait していたかのように、港付近の空き地で集会を行っていた極左、反核市民グループ、労働組合等約千人の反対派は、氣勢をあげ怒号を繰り返している。反対派、それを取り巻くマスコミ関係者、規制にあたっている機動隊員、これらが入り乱れ、現場の緊張感は一気に高まっている。

動命令から出発まで約二時間という差し迫る時間に追われ、全く認識しなかったため、防寒対策も不十分であり、また、オウム真理教信者の往来も多くて忙しく、しかも厳しい気象条件下での長時間勤務であったところから、僅か十日間の出動にもかかわらず、非常に長く感じられた。

しかし、「俺がやらねば誰がやる」との機動隊魂で、一時も気を抜くことなく任務を遂行して来た。

この出動を終え、今まで機動隊で鍛えた「不屈の精神力」と「体力」に更なる磨きをかけ、何時如何なる事件であらうとも、真先に駆けつけられる「強い機動隊員」でありたいと痛感した。そして、国民の期待に応えられるよう、公共の安全と秩序維持のため、これから強い使命感を持ち、与えられた責務を全うしていきたい。

しかし、輸送船は一向に入港して来ない。高レベル放射性廃棄物受け入れに対する国の対応をめぐって、青森県知事が突然の輸送船接岸拒否を表明したのである。

四月二十六日(水)

国と県の折衝が解決。徐々に輸送船が近づいて来たのを機に反対派は規制の一瞬の隙を突き、路上での寝ころがりをはじめた。機動隊員の脳裏には、反対派百人余の寝ころがり行為により道路を占拠された第一回天然六フツ化ウラン搬入警備が浮かぶが、適切にこれを排除、機動隊員の連鎖規制により反対派全員を集会空き地に封じ込める。

機動隊員の一条乱れぬ行動には、旺盛な責任感と練度の高さが窺われ、一段とその背中が広く、たくましく目に映っていた。

高レベル放射性廃棄物は、このような喧騒をよそに静かに原燃サイクル施設に運びこまれ、事前警戒を含め、九日間に及んだ警備は幕を閉じたのである。



治安の砦
信頼の機動隊

栗田工業(株)

高周波熱錬(株)

(株)三榮商会

山陽特殊製鋼(株)

大洋製鋼(株)

(株)日鐵流通センター

村山鋼材(株)

(株)上野百貨店

大東港運(株)

姫田清美

(株)クボタ

国見山(株)

岡谷鋼機(株)

豊田通商(株)

太陽シャーリング(株)

広島シャーリング工業(株)

藤田金属(株)

(株)辻さく

自見産業(株)

北海鋼機(株)

東北支部
社機動隊員等を励ます会

読者の広場

先祖をさかのぼる

柳田 敬介

(理事・東京本部)

人はだれでも「父」をもっている。父の父、つまり祖父ももっている。その一代まえも、そのまた一代まえも、この世にいたことはまちがいない。名前が何で、何歳まで生きて、どんな人だったか、それはわからなくとも、一代、一代さかのぼっていけば、果てしなくつながっていることは確かなことである。

いったい、どこまでさかのぼれるのだろうか。……なんとそれは、「最初の人類」にたどりつくことになる。なぜなら、あなたの祖先だけ別系統の人類として、別の時代に誕生したはずがないからである。

人類が猿から枝分かれしたのが五〇〇万年前。それからえんえんと世代を重ねて、いろいろの進化を遂げつつ、今日に及ぶ。

その長い道程のどの時代をとってみても、あなたの先祖にあたる人が生きていた、というわけだ。といっても、どこで、何をしていたか、それはわからぬ。家宝の家系図、それがたとえあてになっても、せいぜいここ何百年の先祖の生きてきた歴史の長さにくらべれば、ものの数ではない。

天下をとった徳川家康の先祖にしても、八代前の「徳阿弥」という旅の僧

までしかたどれない。まして庶民の先祖など、記録のかけらもないのだが、どの時代であつてもあなたの先祖が生きていたということが重要なのだ。

五百年前の戦国時代。あなたの先祖は足軽で、槍をかまえて突進していたかもしれない。

一〇〇〇年前、平安時代。二〇〇〇年前、邪馬台国のころ。三〇〇〇年前、縄文時代。いつの時代にもあなたの先祖はいた。もつとむかし、粗末な衣服を身にまとい、ムラの衆とともに山野にマンモスを追っていたころもある。

何を食べていたのか。何を楽しみに生きていたのか。あなたは自由な想像をめぐらすことができる。どんな場面を思い描いても、当たらずといえども遠からず、たぶん、あなたの先祖はそんな人で、そんなことをしていたに違いない。

というのは、「先祖の数」のことだが、一代前が父と母で「二」、二代前が両親の祖父母で「四」、という具合に、さかのぼるにつれ、まさに幾何級数的にその数を増やすものである。一代を三十年と仮定すると、二十世紀前つまり六〇〇年前にして、「二」の二十乗、なんと、一〇〇万人の先祖(六〇〇年後にあなたを子孫にもつことになる人)がいた計算になる。

実際には、系統をたどっていくと、先祖が同じという「ダブリ」が多いだろうから、この数はかなり目減りするが、仮に一人として相当の数だ。タイムスリップして六〇〇年前に飛び、先祖さがしをすれば、あちこちから先祖さまが名乗り出て、しかもその人たちはもちろんアカの他人、ときにはカタキ同士かも知れず、あなたは大いに面喰らうことになるだろう。



歴史は繰り返す

渡邊 光康

(名古屋支部)

阪神大震災の話題も打ち消された感のあるオウム真理教騒動に、日本全国が揺れ動いた二カ月であったが、五月十六日の教祖の逮捕で大きなヤマ場を越え、新たな局面を迎えようとしている。

機動隊員の皆様には、阪神大震災の救援復旧作業でのご活躍の後、休む暇もなくオウム関連の捜索、警備への出勤等、数々のご苦労に對しまして、ほんとうに頭の下がる思いで一杯でございます。感謝申し上げます。

先日、今年還暦を迎えられた私共の大事な某取引先の社長様から、興味ある話をお聞きした。ちょうど六十年前(昭和十年)が、今の世の中と酷似しているというのです。経済面では昭和四年十月二十四日、ニューヨーク株式大暴落……バブル崩壊大不況へ。政治面では昭和四年浜口雄幸内閣から始まり、若槻礼次郎、犬養毅、斎藤実、岡田啓介、広田弘毅等々、不安定短命内閣が続く……。

宗教面では、昭和十年十二月、大本教第二次弾圧受ける。明治末から大正期にかけて、おこった第一次世界大戦後の激動期に、小市民、農民の不満と不安を盛り込む神秘的な終末予言で大発展し、今の社会を覆う神の国を得られると教え、知識分子を入れて教義を調べ、大新聞を買収して宣伝。信者十万人、竹やり十萬本、弾薬を蓄え、蜂起を計画中と宣言して当局の弾圧を受ける。この弾圧により同教はほとんど壊滅した。(第二次大戦後、名前を変えて再建)。その規模と異常性で世の耳目を奪ったという。

中枢人物の殺害(昭和十年八月、永田陸軍軍務局長の斬殺があり。戦争は昭和十二年、日中戦争勃発。等々。

経済も政治も混乱している姿は、今と同じです。宗教に關しても正にオウム真理教そのもののズバリ中の感があります。ことの真相は裁判になって白黒はつきりすると思われませんが、個人の感情でどうこう言えませんが、正にそっくりです。当時の中枢人物の立場は現在の警察庁長官にも当たり、

隊員同士のコミュニケーションの場として

当会では、毎月機関紙「はげまし」を発行していますが、各県警察の機動隊でも、それぞれ趣向を凝らした機関紙を作っているらしいです。

毎月のように本部事務局に送られてくるものには、隊での皆さんの生活の様子や、訓練の様子、また通常街角でみかける隊員の方々の厳しい表情とは違った、普段のリラックスした隊員の表情や、普段着の生活の様子をうかがうことのできる記事が写真などふんだんに使って掲載されています。

阪神大震災、サリン事件と、大きな事件が続く、全国の機動隊の方々が不眠不休の勤務をつづけていらつしやる中、隊員同士のコミュニケーションの場として大いに活用されているようです。

今回は、埼玉県警察機動隊の「わかば」の中から、記事を紹介させていただきます。



—お花見レガッタ開催—
四月一日、二日の両日、戸田漕艇場において今シーズン幕開けの大会、第四十四回お花見レガッタ(一〇〇〇mレース)が開催された。
この大会は昨年冬から今春までの練習の成果を確認する意味から全国各地



—カナリヤの入隊—

三月二十日発生した地下鉄サリン事件を契機に、当隊に二羽のカナリヤが入隊した。二羽はいずれもメスで隊員に毎日美しい歌声を披露してくれている。現在素敵な名前を募集中!



今回は、埼玉県警察機動隊の機関紙のご紹介でしたが、機会がありましたら他県の記事も紹介していきます。

過日殺人未遂がありました。又、戦争は時代が変わり、鉄砲の撃ち合いから目に見えない「経済戦争(円高)」と形を変えてきております。
このように「歴史は繰り返す」とはよく言われますが、正に驚きです。穏やかな世の中も又繰り返してほしいものです。

大会で3位入賞を果たした、今野・野口チーム

お手柄機動隊 ハイジャック犯見事逮捕 ——活かされた訓練——



六月二十一日、羽田発函館行きの全日空機がハイジャックされるという事件が起こった。同機は同日十二時すぎに函館空港に着陸、そのまま犯人との交渉にあたったが、犯人は「東京に戻れ」を繰り返して、病人や幼児の保護にも応じず、膠着状態が続いた。

乗客の安否が気づかれるなか、時は刻々と過ぎ、様々な情報が乱れ飛び犯人像の特定が急がれた。

夜もふけ、空が白々と明ける二十二日午前三時過ぎ、警察は国内のハイジャック事件では初めてという強攻策をとって機動隊員らが機内に突入し、事件発生から十六時間後、犯人は逮捕、

乗客は全員無事に救出された。

日本国内では十六年ぶりのハイジャック事件であったが、今回も警察のご努力により、事件の早期解決がなされた。これもひとえに日頃からの訓練の賜物であり、我々の目に見えないところで機動隊員のご努力が今回の結果に結びついたことは間違いない。

本年は、年明けから様々な現象・事件が続いているが、いずれの事件も機動隊員のご活躍によって、治安が守られていることを肝に銘じ、今後も会の発展に益々力を注いでいこうではありませんか。

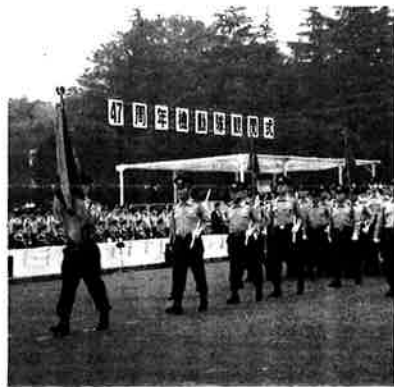


発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都大田区仲六郷4-32-5
〒144
発行人 鈴木 實
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円(送料共)
(但し会費の中には購読料を含む)

六月三十日、明治神宮絵画館前にいて、「警視庁機動隊創設四十七周年記念観閲式」が行われた。式は午前七時ちょうどに観閲官の臨場にはじまり、開式宣言、受閲報告、そして部隊査閲へと続いた。

その後の分列行進では、二千名にものぼる精鋭機動隊員が堂々の行進を行い、第一機動隊から第九機動隊、婦人部隊、警察大部隊、そして特科車両隊では、実際に阪神大震災の際に活躍した救援車なども列に加わり、その雄姿をまざまざと見せつけた。

本年は年明けから阪神大震災、地下鉄サリン事件、警察庁長官狙撃事件、近々では全日空機ハイジャック事件とさまざまな大事件が続き、警視庁機動隊員は、まさに不眠不休の出動の連続



警視庁機動隊創設47周年観閲式

であった。しかし、すべての事件も普段の鍛練を見事に活かしてその任務を全うし、隊員からはその疲れどころか、やり遂げた誇りで光り輝くほどの精気が感じられ、見る者を圧倒した。

梅雨の合間の観閲式であったが、心配された雨をも吹き飛ばすほどの隊員の気概と威勢に満ちた本年の観閲式であった。多種多様な、そして凶悪な事件が相次いでいるが、隊員らの雄姿をみるにつけ、我々も安心して仕事に専念し、微力ながら出来る限りの声援を送りつづけることを誓いたい。

今月の言葉

五十年以上昔の事。私共が十代か二十代の頃よく聞かされた嫌な言葉の一つが「今時の若い者は」云々であった。爾来五十年、私共も所謂嫌がらせの年代になっているが、そうした言葉は余り耳にしないし、又そう感じた事もない。何故だろう。

時代の流れのテンポも遅く質量の変化も小さい時代には現在の様に老若の住み分けも少なく、一定の社会秩序の中で同居していたのではないだろうか。

(副理事長・大阪支部 木村 政次)

今時の若い者

最近の青年達は、体格も格段に大きく、然も老人の苦手とするメカにも滅法強い。経済力も独立心も格段に勝れ、価値観の多様化と共に老人達との住み分けが進んで来た為かも知れぬ。処が最近よく「近頃の若い人達は」という言葉を聞く事がある。勿論昔の様な否定的な面だけでなく肯定的な意味に於てである。

私は励ます会に年二、三回各地の総会に出席する事にしている。そうした折、若い隊員達が胸を張り目を輝かせて堂々と入場して周囲を圧倒する姿によく接する。

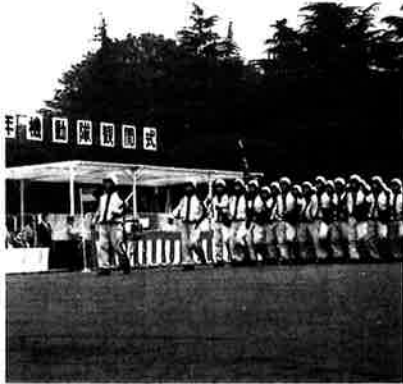
「機動隊は集団警備の中核であり社会治安維持の最後の砦である。この上更に訓練を重ね緻密にして精強な部隊作りに専念し、国民の熱い期待に応える様」にと上司の訓示を聞いている姿は真剣そのものである。

去る一月の阪神大震災で、誰も動員せず、招集もされないのに全国からボランティアとして多数の若者達が懸命な救助活動に専念している姿に、深い感銘を受けたのは私一人ではあるまい。

地下鉄サリン事件で多数の死傷者が苦しんでいる時、何も出来なかった自分が情けなかったと嘆く若者が多数いた事は誰でも知っている。

最近、警視庁、大阪府警察で警官の募集をした処、過去最高数の数倍の応募者があり、皆一様に「自分は何も出来なくて残念だったが社会の役に立ち、国民の不安を取り除く仕事に就きたい」と志望の動機を述べていたと新聞は報じている。感激の極みである。

今時の若い者達よ、日本の将来を背負って大きく羽ばたいて下さい。



ふるさとの両親へ

～若手隊員からの便り
前略、みなさまいかがお過ごしでしょうか？我々機動隊員も暑い夏を前に、気力、体力の充実を図るため訓練に明けくれる毎日です…。



北海道警察警備隊

伊藤 尚人

私が警察官になって、早いもので二年半が過ぎようとしています。そして、現在旭川方面小隊に所属しています。

今年は阪神・淡路大震災に伴う災害警備、オウム真理教に伴う警備等二度の道外派遣を経験し、更に、「APPEC」大阪会議開催に伴う出動が予定されており、多忙な年となっています。

最近では各方面においても、サリン事件等の影響から不審物件や異臭騒ぎ等で、出動も多く、また新聞やテレビ等で警察が忙しいことを知ってか、母の方から、「大丈夫かい、元気にやっているかい」等とよく電話をかけてきてくれています。が、あまり心配しないで下さい。

私たち、方面小隊の仕事は、特殊で危険な事もありますが、そういう事案を処理するのが任務であり、そのため毎日厳しい訓練に励んでいるのです。

そして、私自身が決めて選んだ職業です。ので、やり甲斐と誇りをもち仕事に励んでいますので、安心して見守って下さい。又、たまには家に帰りますので、

山形県警察機動隊

吉泉 仁

親父、元気ですか。酒飲んでますか。俺が家から出てもう八年目になります。昔、おふくろが言っていた言葉を思い出します。「周りの同級生はみんな、家に残っているから、親父と息子で毎日晩酌するんだ。うちの親父は、おめがねもんだがら淋しうで。」

農家だった家の男一人息子の俺が、警察官という道を選ばなかったら、親父にそんな淋しい想いをさせずに済んだのかもしれない。でも親父は、俺がこの道を選んだ時、自分の事のように喜び、励ましてくれました。

親父、俺は今、機動隊員として頑張っています。男として、心と体を鍛えるにはこれ以上ない環境で自分を磨いている真つ只中です。

いつの日か、親父と男として肩を並べて酒を飲み交わすことのできる日を夢に見て、厳しい勤務にも頑張っています。その日が来るまで、もうちょっと我慢して下さい。

埼玉県警察機動隊

小林 弘明

早いもので、私が故郷の北海道を後に埼玉県に来てから、六回目の夏を迎えようとしています。

お父さん、お母さん、お元気ですか。私は現在、埼玉県警察機動隊に所属し、水難救助隊員として日夜、出動、訓練等に励んでいます。

今年は、年頭から阪神・淡路大震災に出動、山梨県出動等忙しく、厳しい毎日が続いているが、健康には十分留意しており、元気でやっています。

阪神・淡路大震災では、人命救助を初めて体験し、これからの警察人生に非常に役立つ良い経験をしました。そちらでもテレビで見えていたと思いますが、被災

地は大変凄まじいものでした。私もこのような経験を重ね、一步一步成長しているような気がします。

私も今年で二十四歳になりましたが、六年前、埼玉へ向かう時、親元から離れる辛さから、涙をこらえながら東京行きの飛行機に乗った記憶があります。

今思うと、北海道の大自然の中で育ち、十八年間、お父さん、お母さんから時には厳しく、時には優しく躓けてもらったお蔭でこうして埼玉県警察官として頑張ることができ、改めて親のありがたみが分かりました。

普段は遠距離のため、なかなか会えませんが、今度田舎へ帰省する時には、更に一歩成長した姿で帰ります。

大阪府警察機動隊

中村 学

前略 父さん、母さん、その後お変わりなくお過ごしでしょうか。第二機動隊に転動して間もなく三年になろうとしています。今年一月に発生した阪神・淡路大震災では、その悲惨な現場に四回、延べ三十八日間も出動しましたし、また今は、十一月に大阪で開催される「APPEC」(アジア太平洋経済協力閣僚会議)の警備に備え、訓練等で忙しい毎日を送っています。

ところで、早いもので、私が苅岐を出てから六年が経ちます。その間、手紙のやりとりや電話連絡も数えるほどしかせず、心配ばかりかけ、申し訳なく思っています。「石の上にも三年」と言いますが、私も第三機動隊では、隊員の中堅として仕事を任されるようになり、色々失敗もありますが、上司・先輩の手を借りながら、何とか後輩隊員を引っ張れる存在になっています。友人も沢山できて、忙しいながらも楽しい日々を過ごしています。

そちらでは田んぼの稲も大きく成長し、草取りや薬剤散布等、ますます忙しい時期になると思いますが、今年は雨も多く、

去年の空梅雨とは違い、稲の刈り入れが楽しみです。

この手紙を書きながら、暑い夏、近くの砂浜で毎日真つ黒に日焼けしながら時間の経つのも忘れて遊んでいたガキ大将の頃の事を思い出します。そういえばこの前、大阪駅で佐々木さんの「まりっぺ」に偶然会いました。とても綺麗になつてびっくりしましたが、九月に結婚するという話を聞き、何やら残念な気持ちになったのが不思議です。

さて、兄貴の結婚はまだですか。私もそろそろいい歳なのですが、未だ特定の彼女も見つかっていない状況です。十一月の「APPEC」に向け、ますます忙し毎日となるでしょうが、その前に夏休みを利用して、必ず苅岐に帰ります。土産話を楽しみにしておいて下さい。

最後になりましたが、お体に気をつけていつまでもお変わりなくお過ごし下さい。まずは報告まで。

愛知県警察機動隊

真子 聡

愛知県に来て、もう四年が経ってしまいました。どうしても自分の夢であった「駐在さん」にならなくて、父母の猛反対を振り切ってきた時の事を思い出します。

福岡にいた頃は毎朝、母の「おはよう、早く起きて」で気持ちよく朝を迎えていましたが、今では目覚まし時計の音で起きることに慣れました。でも、母の優しい声で、朝を迎える夢は今だに見えています。

「お父さん、お母さん、おからだは大丈夫ですか。お父さんとお母さんのことは気にかかりますが、見知らぬ町「愛知」での日々の出来事は、自分を成長させてくれ、私は毎日大切に送っておりますので、どうか優しく見守って下さい。」

僕は今、機動隊で勤務しています。過日の阪神・淡路大震災では被災三日目から被災者救助のため、兵庫県で仕事

をしてきました。家族を失った人、怪我をしてしまった人、家をなくしてしまつた人、多くの苦しんでいる人の姿を目にしました。まさに人は助け合つて生きていくのです。僕はそれを見て多くのことを学びました。

今、僕は頑張っています。いつの日か孝行息子と呼ばれるように…。

岡山県警察機動隊

小林 隆

その後ごぶさたしています。ゴールデンウィークも終わり、忙しい毎日の連続です。お父さん、お母さん、お元気ですか。私も毎日元気で働いていますから、どうぞ安心して下さい。

岡山に来て早いもので、もう四年経ちました。思えば、初めて親元を離れ、岡山に出てきた時は、右も左も分からず、早速「迷子になるのでは」はヒヤヒヤしたものです。今では岡山の街も見慣れたものです。

仕事の方も機動隊に入隊して二年目。この春、管区機動隊から県警機動隊に異動しました。それと同時に、剣道基幹要員の指名を受けることができました。毎日、剣道の稽古は厳しいですが、私の希望でもあったので、一生懸命に稽古をしています。

また、県機では、県下で起きる人命救助のため、水難救助隊や機動救助隊があり、要請があれば、昼夜を問わず出動します。私は、この春から機動救助隊で訓練していますが、一日でも早く県警の機動救助隊の一員として活躍できれば、と思っています。

このように、とてもやり甲斐のある部署です。良い上司、先輩に囲まれ、厳しいながらも楽しく生活しています。そして機動隊員として、また岡山県の警察官として、治安の維持に努めています。それでは、お二人とお体に気をつけて下さい。

昨今の警備事情

いざ山梨へ

関東管区機動隊

いつもどおり、成田警備に出動し、現地待機所で夕食の弁当を食べていたその時、電話のベルが鳴った。

「明日、山梨県へ行くぞ」

受話器を置いた小隊長の声が待機所内に大きく響いた。これまで成田警備中心の関東管区機動隊千葉中隊に、久し振りに県外派遣命令が出されたのです。日本中が注目しているこのオウム真理教事件に携われるという気持ちに胸を、私たちは山梨県上九一色村に向け出動した。

肌寒さの残る西富士裾野一帯の現場活動は、検問と触角勤務の連続であり、連日の捜索、検証や指名手配被疑者の追加手配等、情勢が刻々と変化する中で緊張感あふれる重要な任務となった。特に検問は昼夜の別なく徹底した所持品検査と各種照会を行い、隣接部隊と連携し、納得のいくまで実施された。

このオウム事件は、世界犯罪史上類を見ない特異な事案であり、麻原教祖逮捕後、追跡捜査と各種警戒警備は引き続き展開されている。わずか九日間の応援派遣ではあったが、成田警備では学ぶことのできない大変貴重な経験ができ、また機動隊の力は治安維持に不可欠な存在であると痛感した。



堀河ダムけん銃捜索

和歌山県警察機動隊

「あつたあつた。小隊長けん銃ありました。」この第一声が私の耳に飛び込んできたのは、視界ゼロの真つ暗なダムの底、潜水捜索中の水中無線機ダイバーホーンからであった。

本年三月、大阪府泉南市堀河ダムにて、当機動隊では和歌山県警察と警視庁が合同捜査中の六千五百万円余りの被害に及ぶ強盗致傷事件の証拠品であるけん銃 一丁

サバイバルナイフ 一本

を発見すべく、大捜索を開始した。

ダムの底は水深二十メートルで暗黒の状態。パウダースノーの様な泥底に足を取られ、平衡感覚すらおかしい。一回目は湖底の状況を把握するに過ぎなかった。

二回目の捜索はベテラン隊員四名で実施したが、これも難航するばかり。本当にこの場所に投棄されたのだろうかと思問を抱く隊員がいたのも事実である。

三回目には、けん銃を投棄したとされる地点にロープを垂らし、捜索範囲を定め危険を承知の上で各自検索する方法を採った。捜索を開始して数分後、「発見」の第一声が入り、胸を撫で下ろした瞬間であった。

翌日にはサバイバルナイフを、そのまた翌日には、別場所にて実包六発を発見した。

後に、この捜索がバラバラ殺人事件の解決へと結びついていったのである。



日本北から南から

大規模災害を想定した 実戦的総合訓練の実施

岡山県警察機動隊

当隊では、阪神・淡路大震災等の大規模災害の発生時において、迅速・的確な現場活動を遂行するため、四月十九日、廃屋（取り壊し予定物件）を利用して、「倒壊家屋内に人が生き埋めになつてゐる」との想定の下に、各種装備資器材を活用した実践的な訓練を実施した。

訓練内容は、実際の家屋を利用し、エンジンカッター、チェーンソー、ルーカス、エアージャッキ、削岩機等各種資器材を駆使して、「屋根や壁に穴を開け、閉じ込められた被災者の救出」、「倒壊した瓦礫の下敷きになつた被災者の救出」等々である。

現場に即した実践的訓練で所期の目的を達成、今後この種訓練を反復、継続的に実施し、平素より災害発生時に備えて、その練度向上の必要性を痛感した。



機能別部隊の強化

徳島県警察機動隊

徳島県警察機動隊は、今年一月に発生した阪神・淡路大震災に際し、いち早く災害救助活動にあたりました。また、一連のオウム真理教事件等、まったく予想しがたい出来事が多発しております。

こうした厳しい状況の中、我々機動隊の任務はあらゆる事案に対応できるよう、日々訓練に励まなければなりません。

そこで、最も出動機会が多い機能別部隊（潜水救助班）の強化を図るため、機動隊経験者の中より潜水救助班九名を編成し、県機動隊と合同で、潜水・船艇訓練を行い、練度の向上を図っています。

今後、県内は勿論のこと、県外派遣活動においても、あらゆる緊急事案に対応できるよう、訓練を重ねていきたいと思ひます。



暑中お見舞い
申し上げます

東 鋼 業 (株)
(学) 嘉悦学園
高周波熱錬(株)
(株) 周東商会
次郎丸 嘉介
杉 尾 榮 俊
(株) スチールセンター
東京テレメッセージ(株)
木 村 政 次
黒 田 一
谷 本 鐵 鋼 (株)
村 上 益 一
丸 定 産 業 (株)
宮 崎 精 鋼 (株)
三和鉄構建設(株)
中 條 鋼 材 (株)
新潟鋼機(株)
ブルマン(株)
不動鋼板工業(株)

(社) 機動隊員等を励ます会
東北 支部

読者の広場

ふる たず
故きを温ねて

岩井 榮三

(監事・東京本部)

◇「サライ」と言う名の雑誌をご存知だろうか？小学館が発行している隔週誌である。「サライ」と言うのはペルシャ語で「宿」と言う意味だそうで、ラクダで砂漠を行く隊商達の移動式の仮りの宿のことである。「オアシス」と言ったイメージであろうか。宣伝になつてしまふので、いさゝか気が引けるが、氾濫する昨今の雑誌群の中にあつて、唯一古き良き時代の伝統や文化の香りが漂う、大人の風格が感じられる雑誌である。旅・風景・味覚、こだわりの紳士小物、昔ながらの道具等々、毎回凝つた趣向で読者を楽しませてくれる。古いものは早く捨て去つて、そしてより新しく、より機能的なものと、ひたすら求め続けてきた現代の消費社会が最近少しづつ見直されようとしている。私達が繁栄の中に忘れてしまつていたもの、それはたとえば、丹精込めて作り上げたモノを、かけ替えのないモノとして大事に使つて、更にまた次の世代に受け継いでいくことの大切さを改めて考えてみたいと思う。祖父が愛用してやまなかつた小道具の数々が、その子や孫達に確実に伝えていくことが出来たらどんなにか素晴らしいことだろう。

◇本紙平成七年二月号、読者の広場欄に鶴川渉理事が「木の匂い」と題する

一文を寄稿されていた。古い木造建築の、その落ち着いた独特のたたずまいを見て、ほのかな木の匂いに懐かしさと、心とらいだ経験を、格調高い文章で述べておられた。永い年月を経て、なお艶と粘りを失わない檜の良さが判る日本人に生まれて良かったと、常々思っている小生としては、大いに我が意を得たりの感があつた。心の持ち方を養えよう。いつまでも同じ尺度で感じたり、ものごとを測り続ける限り、現状を打破出来ないとする氏の論旨に心からの共感の拍手を送りたい。

◇今年、戦後五十年目の節目の年であり、種々な行事、催物が行われている。「きけわだつみの声」や「ひめゆりの塔」等も再映画化され話題となつた。半世紀を過ぎたこの機会に日本人すべてが自分達の過去を振り返り、戦争や、生きることの意味を問ひかけることは決して無駄ではないと思う。

NHKが今、放送七十周年記念番組「映像の世紀」を放映している。世紀の大事業や、世界大戦、あるいはヒトラー独裁の狂気など、実写フィルム迫力が見る者を圧倒し興味を尽きない。特に一九二〇年代のアメリカの繁栄と奈落は、あまりに日本の今日の状況に酷似しているのに驚かされた。林立する摩天楼、溢れる情報、快楽と欲望が渦巻き、バブル投機に狂奔する人々、やがて札幌が紙屑と化してしまう世界大恐慌の到来……。

私達は今、先人達の苦悩、その選択や決断をしつかりと見据えながら、私達自身の行くべき道筋を捜していきたいと思う。



ボーイスカウト 第11回日本ジャンボリー

近江 八郎

(理事・東北支部)

四年に一度行われるボーイスカウトの祭典第十一回日本ジャンボリー(国際野営大会)は平成六年八月三日より七日まで大分県直入郡久住町久住高原を会場に開催されました。私はこの度も宮城県連盟派遣団長として参加することになりました。日本ジャンボリーはボーイスカウトの祭典であり、野外活動を通じて平素培ったスカウトの訓練を基盤に相互の友情を深め、また自発活動を促すと共に参加外国スカウトとの交流を通じて相互理解と国際親善の向上に努め、スカウト運動の一層の発展と躍進を期すことを目的に開催されます。今大会のテーマは「蒼き草原より未来へ」地球にやさしいジャンボリーをめざそうであります。私達はこのジャンボリーを通じて「ちかい」と「おきて」の実践につとめると共に自然に対する畏敬の念を育て、自然環境の大切さを学ぶ実践の場とし、大自らの恵みに抱かれ残すものは「感謝」と思いのこめ」を目標とします。

◇全参加者 ボーイスカウト隊六三二隊二五、〇九七名、ガールスカウト隊四〇一名、外国スカウト派遣団二二カ国四六一名、各奉仕隊、大会本部、各野営区、各県連盟派遣団本部員四、九五五名、合計三〇、九一四名

◇宮城県連盟参加者ボーイスカウト隊七カ隊二七八名、県連本部、大会本部野営区奉仕者六〇名、合計三三八名
◇結団式 七月二十四日仙台市JR宮城野貨物駅に於て山本壮一郎県連盟長、鈴嶋清美宮城県教育長臨席のもとに行われた。
◇出発・往路 第一日 八月一日(月) 仙台駅東口バスターミナル二十二時出発東北縦貫道を走り東京羽田空港に向かった。

◇第二日 八月二日(火) 早朝羽田空港に到着、休憩後に七時五十分より三便に分乗出発し、福岡空港着、合流の後バスにて久住高原ジャンボリー会場に到着し第二野営区内にて設営に入る
◇第三日 八月三日(水) 設営作業。
◇開会式 十六時三十分より花火の合図により行われ国旗団、隊旗団の入場に続き参加外国隊、国内各隊の入場、宇野大会長の開会宣言、大分県知事、内閣総理大臣、文部大臣等の挨拶、励ましの言葉に華やかな中にも厳粛に行われた。

◇第四日 八月四日(木) ジャンボリープログラム活動開始。宮城県連本部は久住町老人ホーム久住荘に行き仙台七夕大飾り(仙台ホテルより寄贈)を飾りつけ、大こけしと共に寄贈しホームの皆様に大歓迎される。

◇第五日 八月五日(金) 大会プログラム実施。十三時十五分よりジャンボリー大集会。皇太子殿下ご来臨。励ましの言葉賜る。

◇第六日 八月六日(土) 大会プログラム実施
◇第七日 八月七日(日) 大会プログラム実施 宗教儀礼、環境整備、野営地撤収準備、夕刻突如大雨があり電光、落雷と会場大空に轟きわたるもその後ピタリと止まる。
◇閉会式 十九時。サーチライト、大花火、コンサート等々心に残る閉会式であった。宮城県連盟参加スカウト全員パオニア賞を受賞しました。各隊長始め指導者のご尽力に感謝します。
◇第八日 八月八日(月) 野営地撤収。七時一〇分発バスにて大観峰(阿蘇山外輪山)休憩朝食・竹田市役所(仙台市と音楽姉妹都市、「荒城の月」作曲家、滝廉太郎の出生地)に後藤昭昭市長を表敬訪問し市職員の案内で市内見学の後、岡城址に到り後藤市長より全員に歓迎と励ましの挨拶があり、竹田

市少女合唱隊の歓迎合唱と全員による「荒城の月」合同大合唱を行い、親善友好を深めた。十五時宿泊所である大分市の新日本製鐵(株)大分製鐵所能力開発センター攻玉寮に着き到着セレモニーの後、夫々各隊ごとに入室し、八日ぶりに暖かい入浴、夕食をとり十分にくつろがせて頂きました。

◇第九日 八月九日(火) 朝礼にて新日本製鐵攻玉寮の皆様へ厚くお礼と感謝の意を表し、冷たい麦茶を水筒一杯に頂いてお別れを告げ大分製鐵所見学に出発し、ビデオによる製鐵所概要の説明の後、所内及び鋼板工場を見学しました。工場内に緑の樹の多いことにも感心させられました。その間に大分製鐵所桑原所長様に派遣団幹部がご面会し心からお礼と感謝を申し上げました。その後市内を見学し十九時十分別府フェリー港発の関西汽船サン・フラワリー号にて大阪へ出港しました。

◇第十日 八月十日(水) 大阪空港より第一便十一時十分発に続き三便に分乗出発し仙台空港に全員無事帰着しました。夫々の便、隊ごとに解団式を行い家族や県連関係者の出迎えをうけ、一人の落伍者もなく元気に帰宅することが出来まして感謝の極みです。関係皆様様に心よりお礼を申し上げ報告とします。

お知らせ

◎七月十日、株式会社経済界様より、五十万円のご寄付を頂戴いたしました。当会の運営のため、有効に使用させていただきます。ありがとうございます。

◎九月二十日(水) 午後五時三十分より、新潟市下大川通「新潟グランドホテル」において、北陸支部総会が開催されます。

電話〇二五―二二八―六一一
多数のご参加をお待ちしております。

中国支部総会

広島県警察横内警備部長殿

千葉県警察造藤本部長殿

担して、計画、準備、実行に關与している。人が人たる所以の人の心の在り方が根柢から覆され、果然とする思いである。

人が他人の心を己が意のままに動かし、おおよそ倫理、道德に沿わぬ凶悪事件を行わしめ、社会不安を惹起せしめること、――マインドコントロール。意図をもつ者は他人の心を己が意のままにコントロールしたいと考える。その方法についても、人道的禁じ手などなく、何でも有りである。生理的強制（充分に眠らせず、食べさせずなど）、恐怖感の付与、催眠術、果ては薬物の注射など。

元来、人の心は自由に羽ばたける状態にあつて社会生活を営むべきものである。また、不当に他人からコントロールされて犯罪を犯したと言ひ訳しても始まるまい。コントロールに抵抗したが故に命を落とすこととなつたかたがたもあつたと聞くので、その処し方にも工夫がいるコントロールされる心を解き放ち、犯罪に加担して行くことに歯止めのかかる強い心を取り戻すことが普遍的に問ひ直されていると解すべきではないか。家庭のあり方、社会のあり方が反映して行く心の荒廃を考えなければならぬと言ふことになるのかも知れない。やつていいこと、これ以上はやつてはいけないことという歯止めが、何時から効かなくなつてしまつたのかそのようになつてしまつた社会的、倫理的事情、理由は何なのかということを、しっかりと見極めて、是正しなければならぬと思う。国民の一人ひとりが受け止めるべき教訓はこの辺にあるのではないかと思う。

頑張れ われらが 新隊員

警視庁第一機動隊

佐藤 英光

私は、六月十五日に警視庁第一機動隊に入隊しました。当時はとても不安で、機動隊でうまく仕事をやっていけるか、先輩や着隊同期と仲良くやっていけるか、沢山の不安を抱え入隊しました。警察署に配置され、二年四か月のうちに甘えと慣れから体内にサビがたくさんついており、新隊員訓練でもちよつと体を動かすだけで汗が出て、いかに暑にいた時に運動してはなかつたが身にしみるほど分かりました。機動隊に来て、初任科の時と同じような気持ちになり、自分の再出発点となりました。

今の私の目標は、車の運転と手入れが大好きなので、大型免許を取得し、中隊の運転担当になり、のちの整備係に入ることです。車の免許だけでなく、色々な資格を取得するとともに署で目標としていた刑事になる為、一生懸命勉強して捜査講習に行かせてもらい、巡査部長試験に合格して幹部になることです。今は新隊員としてやるべきことがたくさんありますが、一刻も早く目標に近づけるよう、日々頑張りたいと思います。そして一機の隊員として、首都東京の治安を守っていくために、一日も早く機動隊に慣れるよう頑張りたいと思っています。

警視庁第二機動隊

上田 大五郎

晴れて第二機動隊に着隊し、早くも一

か月が過ぎた。将来「俺は若い頃第二機動隊に勤務した」という証を残すためにも、それに向けて着実に努力を重ねて行こうと思ひ四つの目標を設定した。

一、自己研鑽に努める

これからの機動隊生活をより有意義に過ごすため、先輩や多くの同年代の同僚と切磋琢磨し、男を磨きたい。

二、体力の錬磨

「機動隊は、体力が勝負である」と言われたことがあったが、実際に各種訓練等を通じて実感した。そこで、この体をもう一度鍛え直し、厳しい勤務に耐え得る体力を身につけるため、日頃から体力の向上に努めたい。

三、昇任試験に挑戦

待機時間、週休等を利用して勉強し、巡査部長昇任試験合格を目指したい。

四、各種資格の取得

積極的に幹部に申し出て、資格を取得したい。そのために、人に負けない努力をして仕事に取り組みたい。

多くの友人を作り、良き先輩方に囲まれながら、立派な社会人を目指して厳しい勤務の中にあつても楽しく、そして充実した悔いのない機動隊生活にしたい。

警視庁第三機動隊

中村 義隆

拝命して初めての転勤、心の不安は隠しきれませんでした。そんな私を温かく迎えてくれた第三機動隊。

転勤前、先輩方が皆口を揃えて「機動隊はいいところだよ」と教えてくれた。

その意味が分かってきました。初めての機動隊勤務で最初はとても不安でしたが、今は仕事や責任の重大さを感じ、身の引き締まる思いです。

今年になり、阪神大震災等の事案が続く、「早く警備現場で活躍したい。」そんな気持ちが募るばかりでしたが、希望していた機動隊の異動は六月となり、初夏の新隊員訓練となりました。

私は訓練にあたり「自分に絶対負けな

い」と心に誓って臨みました。火炎瓶投

擲事案対処訓練では、燃え盛る炎の中、「火傷するのでは」と思うほどでしたが完全装備で出動服姿の自分を見つめると気合が入り、自然と身体が動きだす不思議なエネルギーを感じました。

このような厳しい訓練で自信と同期との絆が深まっていきました。指導して下さった先輩方にも感謝しています。

警視庁第四機動隊

高橋 栄

三月二十日の朝、目を覚ましテレビをつける。あのサリン事件が生々しく報道されていた。その中に多くの機動隊員が、素早い手つきで負傷者を救護する姿に、大変な感動を受け、私もこのように機動隊員として勤務してみたいという思いにかられておりました。そのような思いを胸に、念願の機動隊員として勤務するべく、第四機動隊へと配置替えになりました。一週間の厳しい新隊員訓練を終え、第一中隊員として、右翼対策や上九一色村での警備等、今までは味わったことのなかった、緊張感と興奮を味わうことができました。

現在、着隊してから約一か月が過ぎたところですが、まだまだ不慣れでこれから楽しいことや辛いこと等が数々あるかと思っています。しかし、くじけずに頑張り、苦しい時には上司や中隊の先輩方に相談し、又同期で励まし合いながら乗り越えて行きたい。そして、入隊時の目標でもある各種資格の取得や人間関係の醸成、更に当面の目的である昇任試験合格に向け、初心を忘れて頑張っていきたい。今後も私の憧れであった「強く・優しく・逞しい」機動隊員に一日でも早くなれるよう日々精進していく所存です。

警視庁第五機動隊

内山 正樹

六月十五日付で機動隊に配置替えとなりました。私は今まで警察署の地域係員として勤務していましたが、機動隊は全体的に行動がきびきびしており、こんな行動がとれるか一瞬不安になりました。しかし、新隊員訓練を終え、少しは機動隊員に見えるようになったのではないかと思っています。

訓練を耐え抜ければ後は大丈夫と聞いていたのですが、内心では不安で胸がいっぱいでしたが、「先輩方も苦しい訓練を乗り越えてきているのに俺が出来ない事はない」という気持ちで自分自身に言い聞かせて毎日訓練に励んでいたら、知らぬうちに一週間が過ぎていました。

私がここまでやってこれたのも、技術係の先輩方の励まし、そして着隊同期のみんなが励ましてくれたからです。

私は今、武道小隊員として日夜、柔道の稽古に励んでいますが、一生懸命やれば、必ず誰かが陰で支えてくれるというのを念頭に置き、今後の機動隊生活を大切に過ごしていきたいと思います。

警視庁第七機動隊

藤田 幸也

私が警察官を志したきっかけは、高校在学中、「浅間山荘事件」での過激派と機動隊員の攻防をテレビで観て、卑劣な悪に果敢に挑む姿に感動したからです。

警察官になったものの、実際には機動隊と縁遠く、地域・留置・保安の仕事に携わってました。自分なりに一生懸命頑張ってきたものの、何かやり忘れたようなそんな気持ちの中、上司から機動隊新隊員募集の話が聞かされたのです。

四十二歳という高齢分隊長では採用されないのではという一抹の不安を感じつつも、今チャンスを生かさないければ自分自身後悔すると思い、希望した次第です。

六月十五日、若い隊員の大きな声の挨拶を受け、久しぶりに味わう爽やかさと緊張感の中、第一歩を踏み入れました。

完全装備での駆け足訓練など、体力面では若い隊員にはかないませんが、精神面ではまだまだ大丈夫と、自信を持つことが出来ました。

在隊中私に出来ること、それは今までの警察活動で得たものを生かすこととは勿論、若い隊員の精神的なサポートとなり得るよう努力することだと思っています。

自らを鍛え、和を大切に、機動隊員の誇りを持って頑張りたいと思っています。

警視庁第六機動隊

山坂 英治

私は平成七年六月、希望に胸を膨らませ第六機動隊に入隊しました。入隊したからには、何ごとにも全力を尽くし、特に一緒に着隊した同期には絶対に負けたくないという気持ちを持って取り組んでいくと決心しました。

そして、六月十五日から、いよいよ機動隊員としての通り道である新隊員訓練が始まりました。先輩方からも、新隊員

警視庁第八機動隊

園田 泰弘

今年は阪神大震災に始まり、地下鉄サリン事件等により、現在も厳しい警備が続いていますが、そんな中、不安と期待に胸躍らせながら、初めての転勤で、第八機動隊に着隊となりました。

右も左も分からず、新隊員訓練を実施しましたが、まるで初任科の頃に戻った気分であり、ただがむしやらの知識を吸収しようという組んだような気がします。

第二中隊に命免され、はや一か月が過ぎましたが、資材準備等未だに要領が悪く先輩方に迷惑をかけています。

しかし、機動隊に着隊したからには、大型免許、警備無線、警備広報等各種資格を取得するとともに、子供の頃からの夢であった白バイ隊員を目指し頑張りたいと思っています。

又、昇任試験の資格はまだありませんが、待機車両の中で勉強している先輩を見習い、早いうちから試験勉強に取り組み、昇任して退隊できたらと考えています。今は一にも二にも機動隊を希望して着隊した新隊員として、何事にも積極的にチャレンジし、勤務に、そして資格取得等に頑張っていきたいです。

警視庁第九機動隊

菊地 正樹

私は希望して機動隊に着隊しました。入隊直後に実施された一週間の新隊員訓練は、ハッキリ言って若干太っている私には地獄の苦しみで、毎日の運動がいか

に大切であるかを痛感させられました。また、訓練途中で新入隊員柔剣道大会があり、大会終了後に剣道の先生から「武道小隊に入らないか」と声をかけられた時は正直な気持ち、「自分に武道小隊でやっていける力があるのか」と真剣に悩みました。

聞くところによると、武道小隊は、早朝訓練や非番・週休等を利用した訓練等があり、非常に厳しいということです。

運動不足であった私にとって体力的に不安がないわけではありません。しかし、私には誰にも負けない「根性」があります。武道小隊に入ったからには、自分の力を最大限に発揮し、上段位を目指して頑張っていきたいと思っています。

機動隊の仕事は厳しく、そして学びを得なければならないことが数多くありますが、先輩の皆さんが親身になって指導してくれますので、一つ一つ着実に吸収して、一日も早く「九機の菊地だー」と胸を張って言えるよう努力していく決意です。

警視庁特科車両隊

虻川 誉

私は警察官を拝命し、今年で十年目を迎えることになりました。よく「十年ひと昔」と言うように、今年を私の警察人生の一つの節目としたいと考えています。

さて、最近の機動隊は、多種多様な事案・事象が発生する現状に伴い、勤務内容も複雑多様な時代に突入しています。新任分隊長として、次のことを言い聞かせ意義あるものにしていく決意です。

一、厳しい分隊長
機動隊員は己に厳しくなければならぬ。気力・体力の充実を図り、どんな逆境にもくじけることなく立ち向かっていく分隊長でなければならぬ。また部下に厳しさを植えつけることが必要です。

二、思いやりのある分隊長
隊員同志が互いに思いやる心を持ち、強い絆で結ばなくてはならない。常に相手を思いやることのできる心の広い人間を育てていきたい。

三、物知り分隊長
広く知識を持ち、「あの分隊長に聞けば」と言われる人間になる。これがいかなる事案に際しても素早い判断で対応・好結果を生むと信じるのです。

以上三点を心に刻み、初志貫徹する覚悟です。更に部下は叱つて可愛がることを信条に、特科車両隊に新風を巻き起こす分隊長を目指して努力する決意です。

日本北から南から

北海道警察機動隊

「パトロール中に母子の霊が」

田中 佳豊

当隊の所在する町「函館」には、古くは函館戦争や、台風によって沈没した青函連絡船「洞爺丸」、横津岳に墜落した旅客機「ばんだい号」などの犠牲者の霊にまつわる話がたくさんありますが、私は霊魂とか幽霊とかにはほとんど興味がなく、この体験をするまでは信じていませんでした。

それは、私が交番勤務をしていた去年の夏のことでした。昼間の暑さとは裏腹に、少し肌寒さを感じるくらい深夜一時ころ、私は先輩の運転するパトカーの助手席に乗り、海岸通りをパトロールしていたのですが、その時、通りに立ち並ぶ街灯のうち、はるか前方に見える一本だけが奇妙に青白く光っているのに気付きました。

私は先輩に、「変な街灯ですね」と話しかけると、その先輩は「数年前に退職したU係長という人から聞いたんだけど、この辺りには洞爺丸事故の犠牲者の霊が

佐賀県警察機動隊

「レンジャー訓練を体験して」

中村 五郎

私は、現在機動隊に勤務し、柔道の特別訓練員として稽古などに日々励んでおります。と同時に警備訓練はもとより、機能別部隊のレンジャー班員としても、その技術の修得、向上を目指して訓練に取り組んでおります。

レンジャー訓練といっても色々ありますが、そのほとんどが高所での訓練になります。中でもヘリコプターから地上へ数十メートル降下するリペリングという訓練は、ロープ一本を頼りに不安定な所から行うものであり、その恐怖感に更に倍増します。

出るらしいぞ」と言うのです。私は「どうせ私をからかっているんでしょ」と、相手にしないつもりでしたが、丁度その青白い街灯の横を通過する時、街灯の下に小さな子供の手を引いた母親らしき女の人が全身ずぶ濡れて立っており、ものすごい形相でこちらをにらんだのです。

私と先輩は、恐怖のあまり、その場を逃げるようにパトカーを飛ばしたのでした。私は、あれは幽霊だったと信じています。



生まれつき人一倍の高所恐怖症である私にとって、初めてヘリコプターから降下した時は、手のひらが汗ばみ、足がすくみ、なかなか機体から手を放せず苦勞したのを思い出します。

他にも、底の見えないような絶壁からロープで降下してみたり、谷に張ったロープを渡ったりと、思い出しても血の気の引くような訓練は文字通り「死」を連想させる恐怖であり、最大の緊張をもって挑みました。

人命の救助は、私たちの重大な使命であります。厳しい訓練があればこそ、その使命を果たすことが出来ます。そのために、これからも更なる技術の向上、恐怖感の克服に努めていきたいと思っています。

残暑お見舞い
申し上げます

大野興業(株)

岡 部 (株)

高周波熱錬(株)

光洋商事(株)

山陽特殊製鋼(株)

スカイコート(株)

平和農産工業(株)

高 島 浩 一

西 戸 栄 一

橋 本 尚 吾

明 鋼 材 (株)

加 納 保 成

白 神 賢 志

松 田 鉄 鋼 (株)

堀 口 海 運 (株)

内外運輸(株)

大川トランスティル(株)

金森藤平商事(株)

豊鋼材工業(株)

東北支部
(機動隊員等を励ます会)

読者の場

ゴルフと共に

村瀬 好孝

(東京本部)

今年は何となくひびく年になるのだろうと思っていた。阪神大震災に始まり、地下鉄サリン事件、円高、日米自動車摩擦、仲々先行きに期待の持てない政治、経済の混迷状況等々、すっかり日本は自信喪失に陥っていたのだ。そこにあの野茂投手のオールスター戦を始めとする米メジャーリーグでの大活躍、ウインブルドンにおける松岡、伊達両選手の大健闘である。これ等日本の人達の快挙に久し振りに奮い立つ思いがし、環境の変化に一喜一憂しながら見えないと泣き言を挨拶代わりにしていた己の姿を少し許り反省している。昨今である。自分のペースを取り戻し、初心に帰って困難に立ち向かえば、途は自ら開かれると思ひ直した。人それぞれペースがあるが、自分の場合は週末のゴルフで心身共にリフレッシュして翌週に臨むのが本来のペースなのだ。そこでもっとゴルフにこだわりたい。大切にすることにしたい。私の友人に大変なゴルフ好きがいる。プレーのみならずいろいろな本を読みゴルフに関する蘊蓄も相当のもので、先日もいろいろと面白い話を聞いた。曰く、ゴルフは心臓によくない。特に短いパットはストレスが強すぎると言われてきた。(従ってアイゼンハワールが生まれた)然し動脈のバイパス手術ができる様になった最近の医学の進歩で、むしろ

ゴルフは心臓病患者者に最適のスポーツだそうだ。むしろ適度のストレスがあったほうが、ホルモンのバランスや循環など身体全体の為にはいい影響を与えたとのこと。それにゴルフは速足で歩くから(これが大切)皮下脂肪を取ってくれ動脈硬化を防ぐことになる。動脈硬化の二大危険因子はタバコと肥満とされる。禁煙した上で皮下脂肪がつかない様にすればこの二つの因子は遠ざけることができる。すなわちゴルフは心臓病患者者にも合ったスポーツであるとのこと。又ゴルフで何となくも楽しいことは歳をとってからも上達することができるとある。他のスポーツでは考えられないが嬉しいことに五十才を過ぎてからシングルになったケースもままあることである。熟年になれば体力、視力、集中力などが衰えてきているが総合力を問われるゴルフでは未だ伸びて行く可能性は秘めている。年令と共にゴルフの奥行きを深めて行く、之は何と楽しいことではないか。古くからスコットランドに伝わる「ゴルフフィンギング・マー」というゴルフのざれ歌の一部に次の様うだりがある。「恋はひととき、結婚は我慢、仕事もいつかは引退するが、おれの人生にはゴルフ、最高の伴侶が一緒だ、だから最初に地べたに穴ボコを掘った奴を讃えよう」全く同感!

以上興味深い話を聞き乍ら週末のゴルフに想いを馳せた。又頑張ろう。

古い記憶から

滋岡 長平

(東京本部)

昭和十六年の春、學業を終えて就職、翌十七年一月入営、二十年暮に復員してから五十年が過ぎた。其の後の職場での追憶も捨て難いが、戦時中、一等級将校として、見聞した事を書き残して置きたいと思つて筆を取った。
十八年六月十八日、新品の経理部見習士官の私と吉野君は、命令通り九段

の憲兵司令部に出頭した。高級副官の亀井澄雄少佐は陸軍省補任課に連絡して、兩名が羅南と台南の隊付主計の補充要員である事を確かめて、五日間の休暇を與えた。五日後登庁すると、吉野君は大隊長に、私は司令部付経理課員として残され、傍ら亀井少佐の准士官・下士官教育の助手を命ぜられた。経理課先任部員石原少佐は規則に忠實で、見習士官は営内居住者たるべしと、司令部三階の書庫を取り片付け、私の居室として数カ月起居させられた。當時司令官は加藤治二郎中将、本部長は森越少将であり、私の居室は本部長室の隣であつたから、よくお目に留つて実に窮屈な思いをした。毎日の昼食は高等官食堂で行われるが、見習士官は暫らく所属長官の前に座つて訓育を受ける慣例である。然し衆目の中で、何を問われ、どう答えたかさっぱり記憶がない。余程緊張して居た故かと思う。それよりも最下級者として司令官の出入の際、毎回ドアの開閉をせねばならない。之は任官後も新任が来る迄一年間も続けさせられた。ただ司令部全体の雰囲気は至極和やかであつた。将校團として三十余名、准士官、下士官も優秀な人が選抜されて居た故かと思う。陸軍では身分上の変更に出張等の場合、直屬上官凡てに申告する慣行がある。課長、本部長、司令官と型の如くに申告すると、加藤司令官は黙つて頷かれるのみであつたが、小柄な森少将は微笑を浮かべられ乍ら、「間違ひのない様に」とか「御苦労であつた」とか威あつて猛からず正に慈父の如くに応待された。処が任官後暫らくして電話があり、一階の東京憲兵隊長四方諒二大佐に呼ばれた。部屋に入るなり「貴公は東京隊に兼務である事を忘れたか。先日出張の後、申告に来なかつたのは何故か」等々強く叱責された。四方大佐は東大法学科留學組の切れ者で、東條首相の信任厚い人物であつた。既に加藤司令官は轉出し、大木繁中將が着任されて居た。十八年の初め「戦時宰相

論」を発表しようとして弾圧され、十月下旬の議會登壇も阻止されて、遂に自殺した中野正剛代議士の事件に、四方大佐が深くかかわつて居た経緯を、私が知り得たのは戦後暫くしてからであつた。當時司令部の警務課長であつた温厚な美座大佐を大木司令官に追つて左遷せしめたのも四方大佐であつた。その際憲兵の政治警察化を憂えた森本部長は、大木司令官に直言されたが容れられず、自らも十九年の春先に南方軍の參謀長に轉出された。戦史の研究家であつた將軍は去るに当たり、司令部の書庫に蔵書を寄贈して行かれた。私はその中のカール・ラウ著「佛蘭西革命史」を読んで、感銘を受けた。十九年春のインパール作戦失敗。七月初旬サイパン失陥後の或る日私は四方大佐に呼び出された。彼の頑丈な肩の背後には大きな東欧の地図があり、独ソ戦線の死闘がチョークで記入されて居る。大佐は寛い面持ちで身辺整理をして居たが、「まあ座れ、貴公は独身だつたな」と映画女優のブロマイドの大束を呉れた。「何処かに行かれるのですか」「うん。貴公ともお別れだな」等云われて私は退出した。七月十八日東條首相挂冠。二十日頃某大尉が私の席に来て「今夜少人数で集まりたいので簡単に酒肴の用意を頼む。君も出て呉れ」と云う。夕方集まつたのは若い少佐や大尉、中尉十余名。之が東條退陣を秘かに祝う会であつたのは驚ろかされた。四方大佐轉出の後には大谷敬二郎大佐が着任。大木司令官は轉出、後任に大城中將が着任された。二十三年三月十日、東京大空襲の翌日、惨禍の視察から歸られた大城中將は直接阿南陸相に電話され「陸軍の糧食、被服等を擧げて都民を救恤されたい」と主張され、遂に「民心は軍を離れつつある」と迄直言された事を私は側近から聞いた。

四月初め沖繩戦の最中に森中將が南方より帰還、近衛師團長に親輔され、憲司を訪問された。戦闘機を乗り継いで來られた軍服は焼け焦げただけであつたので、集まつた旧部下はその武運を讃えた。次いで鈴木内閣が発足。五月、ドイツ降伏。七月ポツダム宣言。八月六日広島に次ぎ長崎原爆投下。八日ソ連侵寇と続き、八月九日より十四日迄廟議が行われ、十四日二度目の聖断が下つた。午後省内外阿南陸相から承諾必謹の訓示があつたにも拘わらず、軍務課員畑中、井田、椎崎少佐等は深更近師に赴き、森師團長にクーデターを迫つた。之に対し順逆を説いて断固拒否された森中將は遂に畑中の兇弾に倒れた。憲司でも午後終戦の内示があり、善後処理等を行つて九時頃退庁、詰所で仮眠中、午前三時に非常呼集で司令官室に集合、近師叛乱の状況と対策の示達があつた。一方東部軍司令官田中大將は宮城内に挺身、鎮圧に赴かれ、明け方に終結を見た。十五日正午、憲司でも全員集合、玉音放送を拝聴した。尚当日未明に阿南陸相、田中大將も後事を終えてから自決されたが、森中將の所信を貫かれた尊い犠牲が、事態解決の動機になつたと大方の史家は評価して居る。
翌日から連合軍進駐に備え、円滑な復員と治安維持の為、一時憲兵兵力は増員され、十一月末を以て終了、我々も軍務を解かれたのであつた。



お知らせ

◎九月二十日(水)午後五時三十分より、新潟市下大川通り「新潟グラントホテル」において、北陸支部総会が開催されます。
電話〇二五―二二八―六一―
多数の参加をお待ちしています。

はげまし

発行所

社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都大田区仲六郷4-32-5
〒144
発行人 鈴木 實
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円(送料共)
(但し会費の中には購読料を含む)

大震災を教訓に…

各地で防災訓練行われる

九月一日の「防災の日」に、関東・東海地区を中心とした十一都県において、東海地震及び南関東地震を想定した防災訓練が実施された。

今年は年初の阪神・淡路大震災があり、地震災害の恐ろしさをまざまざと見せつけられた年であっただけに、参加者は一層の緊張感を持って訓練に臨んだ。

都内でも様々な訓練が行われ、東京都府中市が合同で行った総合防災訓練には



▲倒壊家屋からの人命救助訓練



▲車両からの救助訓練



▲ハシゴ車を使つての救助訓練

広域緊急援助隊の参加

九月一日総合防災訓練でデビュー、大規模災害に迅速に対応するため、本年六月一日に全国の機動隊員等から選抜された隊員により編成、設置された「広域緊急援助隊」が、九月一日の総合防災訓練でデビューした。ドイツ・ニールランドにほど近い千葉県浦安市で行われた「七都県市総合防災訓練」には警視庁、神奈川県警察、埼玉県警察からの「広域緊急援助隊」が訓練に参加し、静岡県磐田市で行われた東海地震に係る大震災総合防災訓練には、愛知県警察と新潟県警察の広域緊急援助隊がそれぞれ訓練に参加した。

訓練会場では、自衛隊等と連携した部隊の輸送訓練や、訓練会場における倒壊建物からの被災者の救出訓練等が真剣に行われた。

今後、警察の災害対策の中心としての活躍が期待される。



▲船をつかった輸送訓練

「広域緊急援助隊」とは

阪神・淡路大震災の警察活動の教訓として、大規模災害発生時にこれまで以上に迅速に情報収集を行い、専門的な知識・技能をもった部隊が現場に急行して、救出援助、交通対策等を行うことが痛感された。

このため、六月一日都道府県警察の枠を越えて広域的に活動でき、高度の救出能力をもつ「広域緊急援助隊」が設置され、去る八月八日警察庁で隊旗授与式が行われた。

同隊は、全国の機動隊員・管区機動

今月の言葉

今年は戦後五十年目の年に当たっており終戦から正に半世紀が過ぎた。この節目の年に皮肉なことに何と苛立たしい事件が多いことであろうか。地下鉄サリン事件をはじめとするオウム真理教による一連の事件、八王子のスパーの例などにもみられる拳銃による凶悪事件、或いは今年既に七回にも及んだという人質誘拐事件等、残忍で冷酷な事件が頻発している。事件が陰湿化する傾向があり世界でも治安の良さに定評のあった日本の社会が変質してしまつたのではないかと憂慮される状態である。

それにしても驚くのはオウム真理教の幹部に一流大学で学んだいわばエリートが何人かいるということである。彼等が高いレベルの教育を受けた者なのだから分別をわきまえる善悪の判断力も十分備えている筈である。それにも拘らずオウムの様な特異な宗教を信仰し罪のない人々に危害を加える事件を繰り返すのは何故なのか。

結局は日本の戦後の教育の在り方に問題があるように思われる。戦後の教育は偏差値教育が中心であり調和のとれた人間形成という点がなおざりにされがちであった嫌いがある。オウムの幹部に多い特に理科系の学生は研究に

教育の重要性

(理事・千葉支部副支部長 曾根 貞雄)

隊員・交通機動隊員等のなかから隊員が指定され、各管区警察局・警視庁・北海道警察を単位として約四千名で組織される。

このうち北海道・警視庁・神奈川県・愛知・大阪・福岡の六都道府県警察は合計約千五百名が常時出動体制をとることとなっている。

とくに隊員の指定にあたっては、機動隊員のなかから救出救助技術に優れているとして全国で五百名選抜し組織されている国際緊急援助隊員が優先的に指定されることとなっている。

没頭し、学園を卒業する折には頭脳は進んでいても一般社会とは融合しない人間となつてしまつていく場合がある。自分から社会に受け入れようとするのではなく社会が自分に合わないと決めてかかるところから軋轢が起り、彼等の願望を満たしてくれそうなオウムへと走る結果となつたのではないだろうか。戦後五十年、いま教育の在り方が見直されつつあるとは思ふが、学校にあつても家庭にあつても、はたまた企業にあつても教育の重要性を再認識し調和のとれた人間が形成されるよう努めなければならぬと思う。

オウムの犯罪を究明するため上九一色村のオウムの施設に幾度も機動隊が出動するさまをテレビで見ても、励ます会の一員として隊員の労苦をあらためて痛感させられたが、今までは異質で非道なこの様な事件にまで身を挺して当たらなければならぬのが任務とはいへ誠にご苦勞なことであり、それは社会の安全を守るという使命感なくしてはできないことである。同じ戦後の教育を受けた者の中にこの様に使命感によって世の中の秩序を守ろうとする若者たちと、オウムの幹部の様に秩序を破壊して行く者たちが混在しているさまをみると、人間の方向性を決定する上で重要なのは教育であるといつくづく感ずるこの頃である。

夏休みの 思い出



警視庁第一機動隊

西山 武志

今年の夏、私は四年ぶりに祖母の住んでいる四国香川県を訪れました。

祖母は、瀬戸内海に所在する岩黒島という風光明媚な小島に住んでおられます。島の上を瀬戸大橋が通っており、夜になると橋に明かりがともり、それが夜空にくっきり浮かび上がりとても綺麗です。

岩黒島は、小さな島で一周するのに二十分もかからないほどです。人も少なくゴミゴミした東京と比べると静かで、住むのにはとてもいい環境だと思えます。しかし、買い物をするため、バスで四十分もかけて市内に行かなければなりません。それだけ島には何も無いということです。また、週一回船が、食料等を運んで来ますが、夏はアイスクリーム等の売り切れが多いので、いつも買いだめしておかないといけません。

まだまだ不便なことはありますが、それにも増して私を島に行かせるのは、取れたての魚介類が毎日腹一杯食べられるからです。これがなんと言っても島の魅力です。久しぶりの夏、祖母に会い、おいしい料理も腹一杯食べてもらい、今年上半期の一連の重要な警備の疲れを取り、英気を養って、いざ秋の陣と氣力が充実している現在であります。

警視庁第二機動隊

山西 英樹

私たち夫婦は、昨年八月に待望の子供

を授かりました。北海道にいる父母は、生まれて間がない時の孫の姿しか見ておらず、夏季休暇で帰省する私たちと、もうすぐ一歳になる孫に会えるのを非常に楽しみにしていました。

空港に到着した私たちの姿を見つめるや孫を抱き締め、私たち夫婦をほつたらかしにして、駐車場へと急ぐのです。

その後実家に着いてからと言うものの、父母は絶えず孫を抱き抱え、どんなにいたずらをしても、怒るところか「元氣な子だ」と言う有り様で、孫を連れ廻していました。

今まで私は、父に対して「頑固で、怒りっぽく、子供に対して無関心」という印象が強かったのが、孫の頭を撫でながら、添い寝をしたり、ニコニコしながら孫をあやしている父の姿を見て、父の優しい本物の姿を、今になって初めて垣間見たような気がしました。

帰京の日、父母は悲しい顔をしていて私も辛い気持ちになりましたが、またいつでも会えるよと言いつつ、北海道を後にしました。

また帰省するのが楽しみです。

警視庁第三機動隊

八崎 まゆみ

来る九十七年七月一日にイギリス領から中国に返還される香港。以前から返還される前に一度訪れてみたいと思ひ、今回、旅行に行く決心をしたのです。中国語に堪能な友人と共に、七月上旬、三泊四日、香港の旅に出発しました。

成田から香港までは飛行機で四時間。時差ボケの心配はありませんでしたが、過密な高層ビルの中を離着陸する香港空港、この時だけは私も緊張してしまっただけでした。

香港の町並みは、独特の臭いの中、とても窮屈で、町人も落ち着かない雰囲気でした。

そんな香港も天候に恵まれ、ビクトリアピークの山から、またデイナークルーズで海からと、色々な角度から各種宝石

を散りばめたような素晴らしい百万ドルの夜景を満喫することが出来たのです。

中国の風習を重んじながら国際化・西洋化された都市香港。中国に返還された後どのような変化があるのか、今後注目される国だと感じた旅でした。

余談ですが、返還される年の六月三十日は、歴史的瞬間を過ごすという観光客で、ホテルの予約は一杯だそうです。

警視庁第四機動隊

中野 聡史

「たまには家に帰るか」そんな単純なことから私のハワイへの初めての海外旅行の計画が始まったのです。

正月気分も抜け始めた一月の中旬、千葉の実家へ帰り帰った時の事です。父が、「今年の夏休みは家族でハワイにでも行くか」と言ったのです。私は、「二十六にもなつて家族で旅行なんて行つてられないよ」のひと言。その夜、家に帰った私に母から電話がありました。「今年はお父さんが勤続二十五年、弟が就職をし家を出ることになったの」そんな折りに父が、「もう一度最後に家族水入らずで旅行に行きたい」と言い出したそうです。

私は母の話を聞いて父に言ったあのひと言を後悔し、一緒に旅行に行くことが親孝行なんだと痛感しました。

そしていざハワイへ。マウイ島の夕暮れ時の海岸は何とも言えない神秘的なものでした。そんな時父の背中をふと見た時、「随分年をとったなあ」と感じたのです。自分も将来父親のようになる。その時もし息子が冷たくされたらどんな気持ちだろう。

これからは、自分が父と母に恩返しをしなくてはならない、そんな気持ちにさせられた二十六歳の夏休みでした。

警視庁第五機動隊

花井 詠子

旅から帰って間もなく一か月が過ぎようとしているが、私は今なお素晴らしい

幸福である。旅行中、何度感激し、涙を流した事だろうか。父が、娘がこんなに感激屋だったのかと驚いた程だった。

訪れる先々でミケランジェロに出会いダ・ビンチが待っていた。学生の頃、教科書で見たポッティチエリの「春」、ダ・ビンチの「最後の晩餐」が自分の目の前にある。

これらの素晴らしい表現する言葉は見つからない。だからこそ多くの方々に本物の芸術に触れ、私と同じ、それ以上の感動と幸せを味わって頂きたい。イタリア全体が「MUSEUM」である。

だが、イタリアの本物指向は多面に向いている。大食漢の方、パスタは美味で食べきれない。お酒の好きな方、ビールを低価格でどうぞ。買い物好きな方、ギョー、ブランド物は日本の半額。男女を問わず嗜好を問わず万人を喜ばせてくれる。決して飽きない国なのだ。ただし貴重品はお腹に巻くこと。これだけ守れば、あなたのお腹にイタリアの本物達は刺激を与え、感激を流させることであろう。

そして帰りの飛行機で日本人だけが高そうな紙袋を持っているのを見て「日本の経済力」を考えさせられるのである。

警視庁第六機動隊

細川 忠輝

今年の夏の思い出で、最も印象に残っているのは、七月十九日から三泊四日の「赤城山研修」に参加したことである。

この研修は仕事の上司、同僚等と日々の厳しい勤務を忘れ、親睦を深め合い、最近見直されているレクリエーション活動のリーダーを養成する研修である。

私は、大きな期待を胸に秘めて研修に臨んだが、始めは重苦しい独特の雰囲気の中で、時間だけが過ぎていき、若干不安であった。しかしバレーボール大会、自己紹介を兼ねた親睦会等で緊張もほぐれ、初日が終わろうとする頃には、残りの三日間を楽しく過ごしていけるような予感がした。社会見学、オリエンテーリング、キャンプファイヤー。日が経つにつ

れ仲間という意識が強くなり最終日にはずっと一緒に居た仲間のような気がしてこの研修に参加して良かったと思った。この研修を通して、参加者と親睦を深めあえたのは勿論であるが、日頃考えている事を語り合えたのが大きな収穫であった。特に仲間の一人ひとりが、目的意識をもって仕事をしていることがわかり、私自身に活を与えてくれた。これを期に私も仕事、昇任試験にと全力で頑張っていく覚悟でいる。

警視庁第七機動隊

杉森 康朗

夏の音楽祭を聴くのが目的で、オーストリアのザルツブルグとドイツのミュンヘン、バイロイトに行ってきました。音楽祭といってもロックやジャズではなくクラシックです。八泊十日の日程でオーケストラのコンサートを一回、オペラを六作聴くことができました。

ザルツブルグは作曲家のモーツァルトや指揮者のカラヤンが生まれた街として知られ、音楽祭のシーズンには世界各国からの観光客で賑わいます。

バイエルン州一の都市ミュンヘンは、ビアホールの「ホーフブロイハウス」が有名ですが、私の目当ては唯一バイエルン国立劇場で行われるオペラです。市内には世界最大の仕掛け時計を持つ市庁舎やドーム（大聖堂）等があり、観光しても楽しめる街でした。

バイロイトはバイエルン州の地方都市ですが、ワーグナーが自らの作品を上演する為に建てた祝祭劇場があります。従って夏の音楽祭シーズンにはやはり観光客で賑わい、ワーグナー一色の街なのでワグネリアンにはたまりません。今回の旅行は一人旅でしたが、素晴らしい上演に接し、音楽家とも交流し、大変充実したものとなりました。

警視庁第八機動隊

岩里 昭彦

阪神大震災、オウム捜査を始めとする数々の例年にはないような激務の続いている中、今年はいつものような夏休みに向けての明るい話題も出ないまま、猛暑という形で迎えることとなりました。

今でも、夏休み返上で勤務に就いている多くの職員の方々がいる中で、ありがたいのも私は、長期にわたる有給休暇を頂き、オーストラリア・ダーウィンとケアンズに行かせて頂きました。

オーストラリアは今冬ですが、熱帯雨林のダーウィン、カダドゥはとても暑く、観光客も少なく、手つかずの大自然も多い所です。照りつける太陽、真つ青な空、クロコダイルや数万匹の水鳥が羽を休める川を双眼鏡を手に探検気分です。まさにジャングルクルーズそのものの。地平線に沈む夕日をゆつくりと眺め、時間に縛られない日々を過ごしました。

ケアンズではワラビー、カモノハシ、ポッサム等の動物に間近に触れ、グレートバリアリーフでのシュノーケリングなどで、あつという間の八日間でした。

結婚をして一年が過ぎ、久々に二人でゆつくりした時間を持つことが出来ました。そして、新たなアルバムの一ページを残して、気分もリフレッシュし、今日も残暑の中を勤務しています。

警視庁第九機動隊

小池 孝行

オウム真理教に対する捜査及び警戒警備が続く中、ちよつと一休みして夏季休暇を頂いた。今年の夏は、私自身、一つの目的を達したことの喜びと、家族への感謝の気持ちでこめた一石二鳥のさやかな伊豆旅行であった。

一時は海外旅行も考えたが、計画が急過ぎて準備不足のため、夢を来年の楽しみにすることとした。伊豆の遊びは子供が主役、食べることは大人が主役の場所が近くにあるのが有り難い。

バナナ・ワニ園、バイオパークに海水浴、おまけに海の幸。昼は子供が喜び、夕食は妻が喜び、私はそんな家族の姿を見て喜び、と言いたいところだが、荷物持ちや海水浴の相手でくたくたの三日間であつた。家に着いた夜、私が一番先に深い眠りに落ちたのは言うまでもない。

翌日、子供たちの騒ぐ声で目を覚ました。下の娘が私の目の前で白い紙を開いた。学校の夏休みの宿題の図画、家族の海水浴の絵であつた。しかし、そこに描かれた男性は、バイオパークで見たチンパンジーのように異常に足の短い人であり、娘の説明を聞くまでもなく……とりあえず、「心からの夏休み万歳」であらう。

警視庁特科車両隊

古賀 穂高

今年の夏こそは旅行に出掛けようと思つていました。それは、趣味であるにも関わらず、ここ数年旅行が出来なかつたこと、また阪神大震災やオウム真理教事件等で、かつて経験したことのない仕事を自分なりに一生懸命にやり、自分自身に褒美でもやろうと思つたからです。

弟が仕事の関係で沖繩におり、以前からいい所だと聞かされていたので、思い切つて沖繩旅行を決心しました。

沖繩に着いて二日間は、首里城や守礼の門に代表される琉球の歴史や文化を訪ねました。三日目には待望の渡嘉敷島に渡りましたが、一時間のフェリーの旅は白い波飛沫がマリンブルーの太平洋を真つ二つにし、私は大変感動しました。

ホテルに着くや海岸を目指すと、マングローブの林を抜けた瞬間、目映いマリブルーの大海原が視界に飛び込んできました。シュノーケルをつけて海中を覗くと色鮮やかなサンゴや魚達が出迎えて、龍宮城にでもいるよう、時間を忘れた浦島太郎の気持ちがあつた気がしました。また、満天の星空は東京の煩雑さを忘れさせてくれました。

私は、「心の洗濯とゆとり」を目的に旅行を趣味としています。また心に鋭気を与えてくれるような綺麗な海を求めて何処かへ行きたいと思つています。

日本北から南から

自ら考え行動する

「遊撃支援活動」

北海道警察機動隊

機動隊員が広い視野に立ち、治安警備実務のみならず、日々生起するあらゆる警察事象に的確に対応できる実務能力を養うことは、今機動隊に課せられた重要な課題である。

北海道警察機動隊では「要請を受けて初めて動く」といった守りの機動隊から自ら考え、行動する攻めの機動隊として

仙台駅白煙事件

宮城県警察機動隊

年があけて間もなく、兵庫県を中心とする大地震が発生し、わが機動隊も応援派遣出動となった。

結婚式を控えた隊員もいたが、式を延ばすわけにもいかず、慌ただしく新婚生活、そして息つく間もなく地下鉄サリン事件の発生、ゴールデンウィーク中は、連日仙台駅の警戒勤務が続いた。帰省客や行楽客などでごったがえす駅構内は、みんな楽しそうでもあり、東京のサリン事件の事など、所詮他の国で起きた出来事のように思っているのであらうとも感じた。

暗闇の訪問者

三重県警察機動隊

私たち、三重県警察機動隊は、警備警備が近づく、伊勢神宮での重防警戒に従事する。

伊勢神宮の周囲は広大な森林で、夜になると時が止まったかのように虫や獣の声だけが響き、恐ろしさ、孤独、緊張感との戦いである。これはそのような中で隊員の体験した怖い話の一つである。

それは、深夜二時頃だったろうか、配置場所が警戒していると、森の奥から「そぞろ」と物音がした。「不審者」かと灯を照らすやいなや、その「不審者」の足音は、動きを急速に速め、徐々にこつ

札幌市内及び近郊で発生する事件事故等を主管部門と連携を図り、分析、検討を加え、派遣警察署を決定し、独自の活動を展開することによって側面から警察署を支援する「遊撃支援活動」を実施している。

中でも、最近実施したススキノ・カジノバー摘発にかかる遊撃支援活動では、機動隊で事前に捜査書類の作成訓練、捜索・差押え訓練等を実施し、摘発現場では、機動隊員で被疑者十七名を現行犯逮捕するなどの成果をあげ、主管部門から高い評価を受けています。

しかし、その思いは、ある日の白煙事件によって覆された。仙台駅の中央改札口付近に急に白い煙が立ち込めたのである。私たちは、「ついに仙台駅でも」と思い、背筋の凍る思いであつた。乗降客は心配そうに私たちに問いかけてくる。「お巡りさん、この煙は何ですか。大丈夫なんですか」と。私たちは原因がわからず、「今調べてますので、近づかないで下さい」と警戒体制を厳しくしたが、駅員の答えは、あっさり「これはディーゼル列車の排気ガスが、風向きによつてこままで上がってくるんですよ」だつた。

私たちは、その言葉を聞いて、ほんとに胸を撫で下ろした事は言うまでもありません。

ちに向かつてくるのである。「だれだ」と叫んでも全く返事がない。すると茂みの中から大きな猪が姿を現した。彼は、腰をぬかしそうになりながらも猪の鋭い視線にはじかれるように逃げ出した。それと同時に猪は、隊員に向かって突進してきた。「ヤバイー」しかし、これが火事場の馬鹿力というのであるうか、とつさに目の前にあつた高さ二メートル位の石垣にかけ上り、危うく難を逃れたのであつた。

猪は人間と一戦交えたいかのごとく、しばらく石垣の下をうろろろしていたが、しばらくすると茂みの中に帰っていった。それ以来、かすかな物音も聞き逃さないよう神経を集中し、今まで以上の緊張感の中、重防警戒勤務に従事している。

鍛錬耐え抜く
精強機動隊

鈴木 實

愛知産業(株)

青山特殊鋼(株)

草野産業(株)

高周波熱錬(株)

小川運輸(株)

株上野百貨店

西野 公庸

浅田 隆司

竹之上 誠剛

豊田通商(株)

東海レベラー鋼業(株)

日鐵物流(株)

丸橋 哲彦

南部建材工業(株)

藤田 金屬(株)

三星金屬工業(株)

自見産業(株)

北海鋼機(株)

東北 支部

(社)機動隊員等を励ます会

読者の場

防災の日に思う

天野東和
(東京本部)

小松左京氏のSF「日本沈没」は、日本列島の地殻変動や地震のメカニズムを扱った小説で、おもしろく一気読みした記憶があるが、一方今年の夏休みに読んだ同じ地震を扱った建設省建築研究所地震学室長 石橋克彦氏の「大地震動の時代」は、いささか恐ろしい本だった。

これによると、関東大地震以来約七十年間にわたって静穏だった関東地方は、最新のプレートテクトニクス理論や過去の地震データの分析からすると、地震活動の活発な動乱期を迎えつつあり、東海地震の発生を例にとれば、「五十二枚のトランプを三年に一枚ずつめくって四十一枚目まできた、残り十二枚のうち一枚にジョーカー(大地震)が含まれている」という状況にあり、また、関東地方、特に湘南地方の直下型地震発生は、かなりの確率で高まっているというのだ。さらに世界地図にプロットされた一九七〇年から十六年間に世界中で発生したマグニチュード四以上の地震、五四、七、一四個の震源図を見ると、ユーラシアプレートと太平洋プレート、フィリピン海プレートがぶつかり合う日本列島付近は、真黒な点に埋めつくされていて、世界で一番地震が多い場所に位置しているという事実、背筋が冷たくなるものを感じた。

確かに日本は世界有数の地震国として地震に対する研究開発が行われ、建造物の耐震技術や防災体制は世界一と信じられてきたが、自然の力の前ではいかに脆弱なものであったかは、一月の阪神・淡路大震災で最悪の形で露呈してしまったように思う。我々は地震や台風等の自然災害から、それらを克服する術を学んできたはずだったが、今回の事態は技術に対する過信、慢心がもたらしたのではないのだろうか。自然は常に人間の知恵を越える力を持っていると言ふことを、あらためて謙虚に反省しなければならぬと思った。

一方であの時に、身を挺して救援活動に従事された機動隊の方々の活躍には本当に頭が下がる思いがしたが、同時に二度とこのような惨事を招いてはならぬと皆が思ったはずだ。国や行政が地震予知や防災機能の充実に向けて取り組むのは当然のこととしても、私達一人ひとりこの問題を自らのものとして真剣に考えなくてはならない時期にきたようだ。

この夏休みを機に、私は先ず自分のできることとして、家族の連絡方法を始めとする家庭の備えから手をつけることにした。

高木兼寛と森鷗外

滋岡長平
(東京本部)

瑞穂の國と讃えられて来た我國も、世紀末に近づいて米に関わる諸問題に揺れて居る現状である。さて江戸時代の初期迄、國民の多くは玄米や半搗米に雑穀を加えて食べて来たが、元禄から享保にかけて精白の技術や嗜好の変化で三都では白米食が流行し、その結果脚気患者が多発するに至った。医学の進歩で大正末期以降脚気は急速に消滅したから、現在國民の大半は知らないと思うが、我々の子供の時は恐ろしい病気であった。これに罹ると疲れ易く、手足に麻痺が起り歩行が困難と

なり、視力が衰え心臓が冒され、遂には死亡に至る。特に東アジア米食人種の風土病とされた。

維新後白米を兵食の基本とした陸海軍在営兵に、この病気が流行したのは当然の事である。嘉永二年(一八四九年)宮崎生まれの高木兼寛は薩摩藩の蘭医石神良榮に学び、軍医として戊辰戦争に従軍し、英国公使館付医官として有名なウィルスの教えを受け、明治五年海軍に出仕、明治八年ロンドンのセント・トーマス医学校に留學、十三年抜群の成績で卒業帰朝し、海軍病院長となる。明治十一年から明治十四年までの統計に依ると、海軍總員平均四、八〇〇名中脚気患者平均一、五七五名、死者平均一四六名であり、更に明治十五年七月壬午政変の際、朝鮮派遣の五隻の軍艦に多数の患者が出て辛うじて帰投した事実がある。高木は此等の事例を知って憂慮して居た。明治十六年秋帰國した軍艦「竜驤」の遠洋航海では、乗員三七八名中一五〇名が脚気に冒され、その中二三三名が死亡した事には衝撃を受け、委員会を特設し、対策樹立を図るべく川村海軍卿に建議する。明治の初期我國の医学は幕末迄の蘭學を引継ぎ、その源流たるドイツを規範と考える東京大學及び陸軍が主流となつて居り、特に脚気は細菌に依る傳染病であると推定し、環境・季節に関連ある基礎理論の研究が経験主義に優先するかの如く考えられて居た。従つて臨床経験と実證主義を尊ぶ英國で教育を受けた海軍軍医達は少数派とされた。高木は過去の事例を調査、部署・環境・季節には関係がないと、兵食のみに要因があると考え、委員会でも討論周到な準備のもとに大規模な航海実験に依つて解決を図ろうとした。その為次回派遣の「筑波」の航程は「竜驤」に等しく、兵食献立は脂肪、蛋白、含水炭素を適正配分、主食は漢方の意見も容れ、白米を偏重せずパン・麦を増し、豫算増加に就いて伊藤總理、松方蔵相に直訴までした。筑波は十七年二月出航、ニュージ

ーランド・チリ・ペルー・ハワイを経て十一月十六日品川に帰港。乗員三三三名中脚気患者は軽症三名に止まる大成功であり、天聴にも達した。

この結果に依り、海軍は兵食を改善し、明治十九年總員六、九一八名中入院患者二十五名死亡〇となり、脚気をほぼ克服し、日清・日露両戦役中その戦闘能力が殺される事はなかった。然るに、ドイツ基礎医学を信奉する陸軍軍医團の中枢部は細菌説に囚われ、海軍の実績を無視し、白米偏重の兵食を改善する意図はなかった。その中心人物は軍医總監石黒忠恵と森林太郎であった。石黒はベルツの親友であり、森は北里と共に碩學コッホの弟子であった。特に森はドイツ留學中より「日本兵食論大意」を発表し、栄養と嗜好の面に於いて米食至上論を主張し、明治二十一年帰國後も、高木初め海軍の脚気対策に對し、やや牽強附合の論旨で偏屈學者と誹り、永年に亘つて批判を續けた。然し大阪・近衛第一、廣島等の各師團軍医部等では、脚気の惨害に對し麦混食を実施し予防に成功して居たが、その為有為の軍医で中央に認められず、職を賭した者も少なくなかつた。然も戦時の補給は白米六合とした為、日清戦役では三四、七八三名の脚気患者と同等死者三、九四四名、十年後の日露戦役では患者二一、六〇〇名、戦病死者八四二〇〇名中脚気病死者二七、八〇〇名の多きを数えた。(皮肉にも両役共森軍医部長官管轄下の部隊が多かつた)。寺内陸相は明治三十七年十一月の記者会見で、この事態に關して遺憾の意を表明せざるを得ず、翌年三月全陸軍に麦混食を指令したと傳えられる。森は明治四十一年十一月待望の軍医總監となつたが、輿論に押されて漸く翌年五月陸軍中心の臨時脚気調査委員会を設立した。この会は森の退官後も續いたが、彼は終生コッホに殉じて細菌説を捨てなかつた。

然し乍ら明治三十五年のエイクマンの米糠研究や、四十五年鈴木梅次郎のオリザニン抽出その他によりビタミンB理論が確立して、結果的に高木の業績は世界の認める所となつた。彼は森に先立つこと二年、大正九年に七十一歳で逝く。

森林太郎即ち鷗外は、その愛弟子木下左太郎が評して「テエス百門の大都」と稱せられる博識多才、大山脈の如き業績を残した文豪で、私如きが論評するのは沙汰の限りかも知れない。また陸軍衛生行政の功勞者として認めるに吝かではないが、先達である高木兼寛の研鑽に對し、何故謙虚に評價しなかつたかと惜しまれる。人格者と敬われた鷗外も所詮は人間であつた。彼の恩師で大きく人類に貢献したロベルト・コッホすら神でなかつた如く。(以上は吉村昭、山田弘倫、及び森家一族の著作を参考にした。)

全教関係警備実施で任務を完遂

京都府警察機動隊

八月二十二日(二十四日、全日本教職員組合(全教)第八回定期大会が京都教育文化センターで開催された。これに伴い、右翼団体が「全教定期大会粉碎」をスローガンに街宣車両で暴騒音を撒き散らすことが予期されたため、京都府警察では警備本部を設置し、府機、管機、第二機動隊等全ての部隊が出動し会場周辺の警備の万全を期した。

今回は、(1)市民生活の安全と平穩の確保、(2)交通の安全と円滑の確保、(3)街宣活動に伴う違法行為の徹底取締り、を基本方針とし、警戒活動を開始した。

初日は、約百団体、約二百台の街宣車がパレードを行い、一部が基準外の大音量を發したため、「拡声器による暴騒音の規制に関する条例」に基づき立ち入り調査を行おうとしたところ、これを拒否したため、一名を同条例違反の現行犯として逮捕した。これは、同条例の施行後初めての逮捕となつた。

残暑厳しい中での警備であつたが、一糸乱れぬ活動により任務を完遂した。



発行所

社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都大田区仲六郷4-32-5
〒144
発行人 鈴木 實
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円(送料共)
(但し会費の中には購読料を含む)

秩序ある社会の確立を目指して

第十八回北陸支部総会開催される



「第十八回北陸支部総会」が去る九月二十日(水)午後五時三十分から新潟市内の新潟グランドホテルにおいて盛大に挙行されました。総会には、来賓として公務

平山新潟県知事殿



浅川新潟県警察本部長殿



会が警察と住民のかけ橋として発展するよう一層努力する。」と挨拶を行いました。次に本部を代表して鈴木理事

は、二十一世紀に向けた県政の重点施策に関連し



「治安の維持」を前提として進められるものであり、機動隊員の皆さんには、治安維持の中核として一層の

今月の言葉

今年は年初から阪神大震災、次いでオウム真理教の数々の凶悪事件が起きて、人々を恐怖の思いに駆り立てた。

思えば阪神大震災は何百年に一回起こるかどうかの確率であるし、現に大震災を教訓として災害対策が検討され、種々の対策が全国的に実施されつつある。

今年、安全神話に寄せて (理事・東京本部 麻生 博)

安全神話に寄せて

人は一般に宗教心は少ないが信仰心は極めて厚いと言われている」という基本的問題を真正面から取り上げ論議して、国民的コンセンサスを得ることが大切であると思ふ。

中堅隊員としての抱負

複雑な警備情勢の下、例年より二カ月遅れて新隊員を迎えた機動隊。今回は、先輩となつた隊員の方々に今後の抱負をお聞きました。

中部管区機動隊

廣上 豪

「よろしく願います」
今春、新隊員十一人の張りのある声が隊舎に響いた。

私は、彼らの一人ひとりの表情の中に、緊張と不安と期待とを一杯にして入隊した一年前の自分の姿を重ねていた。決して要領の良い新隊員ではなかった私にとつて、入隊して一年間は、先輩隊員等から大目玉を食らうことも多々あった。

そんな私を支えてくれたのは、九人の機動隊同期生であつた。

そして、隊員相互のこうした支えが一つになって、全員のチームワークとなり、これが当初は困難と思われた仕事上の「壁」をも乗り越える大きな力となつていった。

これは、ごく自然の流れのようだが、新隊員を含めた全隊員が、体で理解するのは、なかなか容易ではない。

元氣一杯の新隊員を迎え、私は中堅隊員として、チームワークの大切さを先輩に教えながら、自らの行動の指針としていく考えである。

近畿管区機動隊

鈴木 智之

私が、この近畿管区機動隊に入隊した

のは、平成六年六月一日である。早いもので、もう一年が過ぎてしまつた。

入隊当初、何をすればいいのか分からず、不安のままで訓練入校を経験した。まさに右も左も分からない状態であつた。

そんな中、何も分からない私たちに優しく、時には厳しく指導してくれたのは中堅隊員である先輩たちだつた。その先輩たちは私にとって尊敬でき、信頼できる存在で、常に私たち新隊員の見本となり、管区機動隊員とはどういうものかを教えてくれた。

一年たった今、私は中堅隊員となり、新隊員が入隊し後輩もできたのだが、管機の事が全て分かつた訳ではない。

中堅隊員として、先輩として、これから私がすべきことは、私たちが今まで先輩たちから教えてもらったことを、後輩たちに指導することだと考える。今までの先輩がそうしていたのと同じように、それが、代々受け継がれてきた管機の伝統を守ることになる。

「つらい苦労は誰のため、国の治安を守るため、若い命をかけてゆく、向かうところに敵はなし、その名も高き直轄の警ら隊と人と言う」。

これは、先輩たちに教えてもらった管区機動隊の歌である。この歌の中に管区機動隊員とは何か、その答えが書かれていて私は考える。その意味を深く考え、管機のよき伝統を伝えていくのが中堅隊員であり、その立場にある私の責務と感じている。後輩たちを指導していくからには、中堅隊員として自分自身を律していかななくてはならない。

現在の管機を育ててこられた先輩たちのように。そして中堅隊員の名に恥じぬように。

近畿管区機動隊

中谷 貴志

私が、管区機動隊員として近畿管区警

察学校に訓練入校中の本年一月十七日、阪神淡路大震災が発生し、私たち奈良県小隊も直ちに出勤し、被災地で行方不明者の捜索等に従事し、震災から五か月たった現在も復興支援の為、交通規制に従事しています。

被災地では、復興の為の大型トラック等がひっきりなしに行き交ひ、慢性的な渋滞が続いております。

ところが、ドライバーのマナーはと言えば、これは関西人の特性でしょうか、決して良いとは言えません。

そんな中で、ある日、交通整理をしていた交差点で、トラックが横断歩道を横断中のお祖母さんに気づかず、左折しようとしたのです。

私は咄嗟に警笛を鳴らしながらお祖母さんと車の間に割って入り、何とか交通事故を防ぐことができたのですが、運転手は「コラ婆、トロトロ歩くな」と罵声を浴びせるや、猛然と走り去ってしまったのです。

しかしお祖母さんは、「ああ怖かった、やつと仮設住宅に入れたのに交通事故に会つたら大変な事になる所でした。本当にありがとう」と何度も頭を下げてくれたのです。

私は、常々機動隊は弱者の味方だと思つています。

特に私たちのように、他府県に出勤する事が多い管区機動隊員は、所詮応援だからという気持ちで捨て、常にその地の人たちの事を思い、「オールジャパン」の精神で任務を遂行していかなければと思つています。

北海道警察機動隊

谷島 拓人

私が機動隊へ赴任してから早いもので二年が過ぎました。

楯の構え方さえ満足に出来なかった新隊員の頃とは違い、今では周りから中堅隊員と呼ばれるようになりました。入隊当時は、先輩方から指示されたこ

とを確実にやり遂げるのが役目でしたが、中堅隊員としての私には新たな役割が要求されてきます。

その一つ目は自己の技能能力の向上です。特に特務小隊に所属している私としては、レンジャー、山岳、スキューバと各種技能が自分の命、更には第三者の命をも左右するといつても過言ではありません。

この技能レベルを先輩に抜かれることなく、また、一日も早く先輩に追いつき、追い越すことが求められております。

その二つ目は、後輩の指導、育成です。後輩を早く一人前にするため育成、指導をすることはもとより、生活面でも良き相談相手となることが求められています。

その三つ目は小隊のバイブ役、潤滑剤であるということです。

小隊という組織の中では、小隊長、分隊長の考えを隊員に、そして隊員の意見、要望を分隊長、小隊長に伝えるバイブ役となり、小隊のムードメーカー、円滑な活動のための潤滑剤であることも中堅隊員として要求されております。

これからも、自分の立場をよく認識し、先輩を補佐し、後輩を引っ張り、自分に甘えることなく、更なる努力をしてプロの特務小隊員となることを目標に頑張ろうと思ひます。

青森県警察機動隊

鈴木 貴彦

平成五年三月一日、時おりみぞれが降るまだ肌寒い時期に、私は機動隊の門をくぐった。沖繩県での全国植樹祭警備警備に向けた早期体制づくりを踏まえての早い人事異動であつた。

当時を振り返り、右も左も分からぬ新隊員の私の眼に映つたのは、先輩隊員の強い姿であつた。

私にとっては地獄のような新隊員訓練、管機入校でさえも、彼らは平然と一

糸乱れぬ行動をとり、その中で新隊員を叱咤激励し引っ張っているのである。これは、沖繩県での全国植樹祭警備警備でも変わりはない。

沖繩県下でも、戸惑うことなく任務を全うし、しかも私たち新隊員に対する確かな指示、指導をしている姿は正に治安のプロの集団そのものであつた。

あれから二年余りが過ぎ、私は管機三年隊員として、日々訓練、出勤に励んでいる。自らの任務を全うし、後輩を指導育成する立場にあるのである。

しかし泣き言は言つてられない。プロ集団の最先端に在ることは事実である。

常に「初心」を忘れず、これからも機動隊を修練の場として自らを鍛え続け、後輩に模範を示すことができる存在でありたい。

山梨県警察機動隊

渡邊 研一郎

今年に入り、兵庫で大地震が発生、それに伴いわが山梨県警察機動隊も災害派遣により出勤した。

さらに、何回目かの災害派遣に備えていた三月中旬、一連のオウム関連事件捜査により、長期出勤を命ぜられ、現在も続いている。

我々機動隊は常に精強な部隊を目指し、平素から訓練に励んでいるのであるが、出勤当初は定期異動の発令も重なり、隊員の入替えで引つ越しも終えていない隊員もいたほどで、とても新隊員を戦力と考えることはできなかった。

しかし、先輩隊員の責任感ある指導と、新隊員の緊張感で実戦に対処していくうちに、なんとか精強部隊としての機動隊が誕生したのである。これも、いきなりの実戦に投入された緊迫感から身についたものと思う。

今年は何年になく厳しい勤務であるが、オウム真理教警備警備を継続中の今、病氣等で一人も欠けることなく、この長

期出勤を乗り越えてきたことは、隊員の団結力と隊員一人ひとりの向上心であると思う。

そして、機動隊は正に「強い警察」としての象徴である。治安のプロとして各種装備資器材に精通することはもちろんだが、事件等発生時における素早い対応と、練度が要求される。

私は先輩隊員として、更に自己の気力、体力、それに能力を高めていくと同時に現在の状況におおることなく、日々鍛錬し、これからも精進していきたい。また、今後起こりうる警備事象に対し、積極果敢に邁進する所存である。

愛媛県警察機動隊

門田 睦志

機動隊に入隊し、しかも剣道特練部員という過酷な道を選んだから一年が過ぎました。

二年目を迎え、自分自身、「心にゆとりができてきたな。」と思うことも多くなってきました。

機動隊の一日は、早朝のトレーニングから始まって、午前の術科訓練、午後からの機動隊本来の様々な訓練で一日が終わり、年間を通してみても春は新隊員訓練、夏は水難救助訓練、夏が過ぎると柔剣道の全国大会が近づくと術科訓練というように充実した日々が過ぎて行きます。

私は今、機動隊に入隊してからの自分を振り返り、この充実した日々の流れに流されかけている自分に気づきました。二年目に入り、自分のペースもつかんで来ているこれらの一日一日の精進が、機動隊のプロ、剣道のプロを目指すためには大事になってくるのです。

機動隊員として剣道部員として、これからも日々同じことの繰り返しになると思います。しかし、その中身は違ったものになるよう考え、工夫して行かなくてはならないのです。私たちはどんなに辛く苦しい訓練にも流されてはいけません。

ん。踏み止まらなくてはならないのです。そして、この耐えてきた自信が自分自身を大きく育て、最後の砦としての機動隊の強さにつながるのです。

長崎県警察機動隊

永田 寿志

現在、治安を取り巻く内外の情勢は、激動の中にあつて、地下鉄サリン事件をはじめとするオウム関連事件、多発する銃器犯罪、また、阪神・淡路大震災や、今なお活動止まぬ雲仙普賢岳の災害警備等厳しいものがありますが、機動隊員として、また駆伝特練員として思うことは、第一に

「自信と誇りを持つ」ことです。宮本武蔵の遺作である「五輪書」の中で、「千日の稽古を鍛え、万日の稽古を練」といっています。

プロとしての自信を持つには、今の自分の立場を自覚した上、継続して自らの仕事に意欲を燃やし、失敗に懲りず、成功におごらず、一步一步確実に進歩していくことが必要です。そして、その中で得た自信は、誇りにつながるものだと思っています。

第二に「チャンスは自分のものにする」ことです。

機動隊は、組織人としての必要不可欠な協調性を身に付け、自己の人格、知力、体力を高めることのできる絶好の場所です。「人生に消しゴムは使えず」という意味をかみしめ、色々なチャンスを自分のものでし、これからの警察官人生に活かしていきたいと思っています。

これからも、長崎県警察機動隊の伝統を守り、常に前向きに努力していきたいと思っています。

日本北から南から

『アクアラング部隊大活躍』

宮城県警察機動隊

当隊のアクアラング部隊は、水難による行方不明者の捜索を始め、証拠品の捜索を含め例年三十件以上の出動実績があります。今年は、既に二十四件にも達し、昨年同期の出動件数をはるかに超えている現状にあります。

また、今年の出動内容を見ますと、証拠品の捜索が大幅に増えたことが特徴の一つに挙げられます。特に殺人事件等凶悪犯罪が発生すると、証拠品が発見されるまで何日も潜水活動をしなくてはなりません。また、例年同様水難事故等での出動においても行方不明者の発見と活躍しているところです。このように、アクアラング部隊は、目立たぬ場所でも、しかも昼夜を問わず

『死海に挑むアクアラング部隊』

三重県警察機動隊

三重県警察機動隊のアクアラング部隊は、水難救助及び犯罪捜査支援の充実に強化の為、昭和五十二年五月、隊員六名で発足した。また機動隊機別訓練の重点課題の一つとして、現在精鋭十五名の隊員が、日夜、訓練・出動に活躍している。

その努力の成果として、バラバラ殺人死体遺棄事件被害者の発見、河川増水による行方不明者の捜索、その他各種事件事故捜査のスピード解決の担い手となっている。

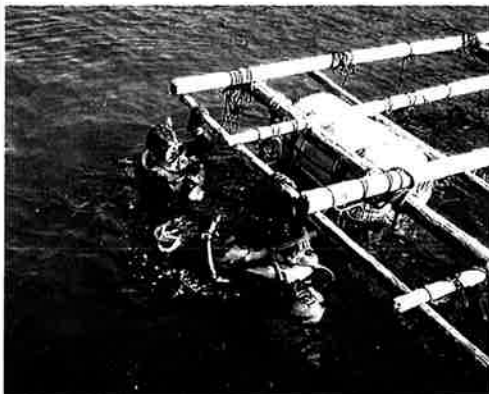
各方面からの要請により、出動回数も年ごとに増え、作業現場にも危険極まりない状況も多々遭遇する為、個々の隊員には練度の高い訓練が要求され、潜水作業に対する誇りと使命感は、まさに死と隣合わせの緊張感の積み重ねから生み出されるものである。「死海の中の静寂」という言葉も経験豊富な熟練員のみぞ知る無名無音な未知の世

要請に応じて出動し、活動しており、その陰には潜水事故の絶無を期すという強い決意、技術の向上のため、アクアラング隊員個々人の努力、更に装備資器材の常時点検、整備及び現場を想定した厳しい実践的な潜水訓練があるわけであり、今後ともより良い結果を生むために更に邁進努力致しておるところです。



界なのである。

先輩隊員達の十数年に亘り培ってきた地道な努力が評価を得、「無名無音の死海」を少しでも解消できるようにと、水中通話装置や水中ロボット等最新鋭の潜水機器も購入され、ソフト・ハード両面を充実した同隊アクアラング部隊は今後も多方面にわたる活躍が期待されることである。



任務の完遂
光れ機動隊

(学) 嘉悦学園

高周波熱錬(株)

(株) 周東商会

大洋製鋼(株)

東京テレメッセ(株)

(株) 日鐵流通センター

村山鋼材(株)

大東港運(株)

木村利秋

橋山和正

(株) クボタ

国見山(株)

岡谷鋼機(株)

(株) テクノ・タジマ

東海鋼材工業(株)

宮崎精鋼(株)

太陽シャーリング(株)

広島シャーリング工業(株)

早達運送(株)

北越メタル(株)

読者の広場

南欧随想

草野泰太郎
(理事・東京本部)

数年前に南欧視察の機会を得たので、その時の思い出を回想してみる。

スペインは「ピレネーを越えたら、そこはヨーロッパではない」と言われ、それほどアラブの文化を多く受け、その文化、天文や数学のおかげで大航海時代を迎え、植民地より多くの富を蓄積することができた。

スペインは物価が安く、それに家賃はタダ(過去の償却資産)それにアングラ経済が発達しているので高失業でもなんとかやってゆけるとのことである。

スペインは観光資源に際立って恵まれている。南欧特有の柔かい陽光と長く美しい海岸線を有している。それに加えて多くの民族、文化が融和した地であるため、歴史的遺産にも富み、しかもフラメンコ、闘牛といった民族芸能やスポーツも盛んであり観光客を引きつける魅力にあふれている。

スペインの人はそれぞれ多くの顔をもっている。例えば、彼らは自分の出身地に深く根ざしたアイデンティティを有している。カタルーニヤ、バスク、ガリシア、アンダルシアなどは特にその傾向が強いようである。

これはスペインが歴史的に群小国家であったことによるといわれる。また民族的にはイベリヤ人、ケルト人、カ

ルタゴ人、アラブ人などが同居しており、それぞれの特徴を形成している。しかし彼らはスペイン人としての共通の帰属意識も有している。これはオルグジョン(Orgullo)と呼ばれるが、彼らは大変誇り高い。これは彼等がもつ優越感と劣等感のためであろうといわれる。

スペインの人は、ラテンアメリカに対しては、かつての宗主国としての優越感と、北隣のフランスに対しては、前述したように「ピレネーを越えたら、そこはヨーロッパではない」とよばれた昔からの劣等感をもっているといわれるらしい。

ある国の社会状態を評価するには基準が三つあるといわれる。その一つは国民の所得水準であり、今一つは生活水準であり、そして一番大切なことは幸福水準である。

スペインでは高級料亭というほどの店ではないにしても、最高級のワイン、おいしい御馳走も充分すぎる程で、十数人分の飲食代が日本人の一人分以下である。日本では所得水準と生活水準がうまく結びついていないようである。どちらが幸福であろうか?

マドリッド、バルセロナ、セビリヤ、グラナダなど、いずれの都市も美しく、建物も公園も美術館も立派、文化の香りが高く、遠く日本は及ばない。しかし現地でする資料によれば、盗難事故などが多く、定年後の海外移住も、スペインでは一戸建住宅には猟銃を持ったお客さんが見えるので駄目、集合住宅でなくてはならないとのこと、これは頂けない。

それにしても日本の治安状況は最近いろいろと言われているが、まだまだ世界諸国の中では優等生である。ありがたいことである。

マドリッド

王城に世界の富や夏の宮
フラメンコ ドレスさばきや夏の夜

バルセロナ

オリブの花咲く畑や空港路
異様な教会立てり夏の空

アンダルシヤ
(聖家族教会)

虹立つやオリブの丘 麦の丘



複雑な私の八月十五日

西田鐵男
(理事・東京本部)

一九九五年という年は、年初から大変な現象・事件が続いて悪い意味での特筆すべき年であろう。

先ず記憶にも生々しい一月の関西大震災に続き、三月の地下鉄サリン事件に始まるオウムの数々の凶悪犯罪事件、国松警察庁長官に対する拳銃狙撃事件、全日空機ハイジャック事件等前半の出来事はいづれも「世界一安全な国日本」という国際的な評価に傷を付けたばかりでなく、折角の景気回復気運に冷水を浴びせる結果となったことで残念でならない。

後半に入ってからコスマ信金問題有り、兵庫銀行再建問題有りで金融不安が一気に吹き出した格好でこれまた「経済大国日本」に水を差す事件であった。今年も余すところ数カ月だがこれから先何が起きても不思議ではないと国民の誰もが厭な予感がする今日この頃である。

今年にはまた戦後五十年という一つの節目の年であり各国が思い思いに記念行事を開催した。ハワイのパールハーバーではなんと日米の当時の軍人達が恩讐を越えて記念式典に同席したこと

が報じられたが、五十年というのが大きなわだかまりを消し去るのに必要な年月なのであるうか。

私も八月中旬に社用でハワイに一日だけのトンボ帰りをしたのだが、パールハーバーを身近に感じて五十数年前に子供心ながらに真珠湾攻撃に興奮したことを思い出した。

八月十五日の終戦記念日は丁度父の命日と娘の誕生日に当たり、また母の郷里が原爆の広島であることも重なって、私にとつて今年の八月十五日は特に複雑且つ感慨深いものがあつた。

今回、ハワイには私共の経営するマイリ・スカイコート・ホテルにこの度アメリカで評判のT・G・I・フライデーというチェーンレストランが開店したのでそのオープニング・セレモニーのため行ってきたのであるが、そのセレモニーが日本の神主さんと呼んでする起式や祈願祭と良く似ていて大変興味深かった。レイの樹から摘んだ花で作った本物のレイを首に掛けた関係者一同の前に、同じレイを掛けて現地人の司祭さんが恭しく登場してハワイ語で声朗々と「のりと」をあげてくれたのである。

どうやらアメリカでもハワイだけの風習らしいのだが、外国で店の繁盛を神に祈願できるとは思いがけないことであつた。

財界人の来賓挨拶の中で、かつて豪邸五十戸をまとめ買いするなど、あれほどハワイの不動産を競って買い求めた日本の企業だが、バブルがはじけてからは全く音沙汰なかったのにこの三年間で初めてスカイコートの西田がレストランをオープンして景気づけてくれた、と持ち上げられくすぐったい思いをしたが、耳の痛い話でもあつた。

いかにもアメリカカンムードそのもののレストランは雰囲気がよくお客様にも必ずや満足していただけたと思うし、今後のホテル経営に大きく寄与してくれるものと期待している。
ハワイから帰ってきて感じることは

は、それでもやっぱり日本は平和で豊かな住み良い国であるということである。幾つかの忌まわしい事件はあつたが、機動隊をはじめとする治安関係の方々の日夜を分かたぬ活躍のお陰でこれが保たれていることを、感謝の念と共につくづく実感した次第である。一日も早く関西地区が復興し、数々の凶悪な事件が速やかに解決されることを祈りたい。

今後も日本の治安を脅かす犯罪は益々多様化すると思われるが、皆さんが尊い使命感のもとに断固として対処され、「世界一安全な国日本」を更に確固たるものにするために日々活躍されることを期待して止みません。



お知らせ

◎APEC会議開催にともなう警備激励
十一月十六日から四日間、大阪市において、APEC会議が開催され、また同会議非公式首脳会議に出席したアメリカ大統領は、十九日から二十一日まで国賓として東京都に滞在されることとなったので、これにともなう長期かつ困難な警備を激励するため、
○十月十二日鈴木理事が警察庁長官・警視総監
○十月二十日木村副理事長・西野大阪支部長が大阪府警察本部長をそれぞれ訪問して激励いたしました。

はげまし

発行所

社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都大田区仲六郷4-32-5
〒144
発行人 鈴木 實
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円(送料共)
(但し会費の中には購読料を含む)

激動の一年をしめくくる

APEC警備見事に完遂

十一月十六日から十九日まで、大阪において、アジア太平洋経済協力関係会議及び非公式首脳会議(APEC)が開催された。この会議は十八の国・地域の首脳らが出席し行われた大会議であったため、全国の機動隊が大阪に集合、出勤し、警備を行った。

そのため全国の機動隊は、七月から本格的に訓練を開始し、その準備にあたった。日頃からの訓練に加え、沿道警備、検問突破車両の検挙、シグナル検問、要人警護、デモ対策などの訓練が総力をあげて行われ、来るべき時に備えた。(写真)

十一月月上旬からは実際に大阪での任務に当たり、十六日から十九日のみならず、全ての要人が来日から帰国されるまで警備を実施し、その数は特別派遣(他県からの派遣)で一万二千名、最大時には一日で大阪、他県を含む二万五千名の機動隊が出動し、年初からの最大関心事であったその任務を無事に終了した。

今年には年明けから本場に様々な事件が起こった。一月には戦後最大の被害をもたらした阪神・淡路大地震が起こり、天災の恐ろしさをまざまざと見せつけられた。そして三月には決して許すことのできない地下鉄サリン事件が起こって、日本国中を震撼させた他、国松警察庁長官狙撃事件や、全日空機ハイジャック事件等が発生するなど、まさに日本の安全神話を根本から覆す



▲検問突破車両の検挙状況(神奈川県警察機動隊)

ような大事件が次々と起きた。

そんな様々な事件の現場に、いつも真先に駆けつけているのが機動隊なのである。一般には決して大きく報道されないが、いつでも我々の近くで、生活を支えてくれているのは他ならぬ機動隊なのである。それを思うと、微力ながらもこうして声援を続けていることを本場に誇りに感じ、また今後さらには大きな応援を続けることを誓い、来年は平和な年でありますことを願って止まないものである。

警視庁SP発足二十周年



警視庁は今年、SP(セキュリティ・ポリス)制度を発足して二十周年を迎えた。それを記念して十月三十一日、東京・迎賓館前庭で「SP部隊警視総監査閲」が行われた。

現在警視庁には約二百名のSPがいるが(内女性性は五名)、査閲はそれらに加えて普段は機動隊や警察署に勤務する指定警護要員ら約二百四十名が参加、航空隊のヘリコプターや警察犬も加わって行われた。訓練内容は、排除要領などの基本ワザに加えて、けん銃狙撃訓練、街頭演説における不法者のとりおさえ、更には来日が予定された米大統領が狙撃犯に狙われそうになるのを上空のヘリコプターが発見し、直ちに連絡を受けた警護車両が瞬く間に大統領専用車を囲み、沿道に紛れていたSPが見事に不審者を取り押さえる」という、緊迫した様々な訓練も実施された。

そもそもSPは、一九七五年九月に発足し「極左学生」のテロ・ゲリラ活動が活発になり、これに右翼も危機感を高め、テロ・ゲリラ志向を強めた時期であり、同年六月の三木首相が右翼に殴られる事件がきっかけとなった。それまでは目立たない「影」の警護であったが、警護員が前面に出る「威圧型」に切り換えられた。以来、数々の要人を警護してきたSPであるが、今月のAPECでもその任務を無事終了し、名声を確固たるものとしている。

今月の言葉

毎年八月になると、決まったように「戦争責任」に就いて様々な議論が展開する。単に歴史観の違いと言って済まして良いものだろうか。

私が始めて戦争を体験したのは、昭和十五年七月東京大学二年の時のことだ。学徒勤労動員隊に参加して、北京から山西省大原まで行った。大原で共産八路軍の包圍攻撃を受け一カ月籠城、ほうほうの態で帰国した。日本の占領は「一点と線」と言われ、主要都市とそれを結ぶ鉄道だけで、これを維持するに汲々としていた。戦闘で負ければ死があるだけ、躊躇は敗北、先手必勝、彼我共に勝つため生きるため全力を傾倒していた。正義のため平和のための戦争と言われていたが、戦争は残酷非情な側面を持たざるを得ない事を知らされた。

卒業後直ちに近歩五連隊に召集され、マレー・スマトラと転戦した。帰国後、戦友から「インド洋殉難録」が送られて来た。インド洋上に浮かぶ離島アンダーマン・ニコバルの戦犯者の詳細な記録である。或る死刑囚が「冤罪報復なら報復手段らしく、死刑を課するに最も残酷なる虐殺方法をもつて、死刑されん事を希望する。」と言っているのが頭にこびりついている。当初私は英印軍の裁判の非条理、獄中の残酷な取り扱い等々に共々怒りの念さへ持った。戦争裁判・勝った国が負けた国を裁く事の当否が、戦後論議を呼んだが今日では誰も取り上げず風化している。

戦争裁判は国際法に従って公正に戦争犯罪をABC級に分け、徹底的に摘発して裁判で多数の戦犯者を処罰したと言ふ。勿論一般住民に対する罪も摘発され、ささいな罪まで取り上げられた。その内死刑者の数(ソ連・中国は未発表)だけでも国別に見ると、連合国(東側)十四人、米国二七人、中華民国一七五人、蒙

(理事・東京本部 麻生 博)

「戦争責任」についての一考察

州二五人、フィリピン十七人、英国二四人、仏印三人、オランダ二七三人、計一、〇二七人で、多くの人々が絞首台の露と消えている。戦争は組織的に行われる。上層部に強く戦争責任が求められた。階級別死刑者の数がこれを物語る。将官五七人、佐官一八八人、尉官二六八人、準尉・兵曹長八九人、下士官一六八人、兵二八六八人、民間人・文官一六八人となっている。

戦争側は国際法違反を楯に徹底的に摘発している。冤罪も多かったであらう。取扱に不条理なこともあったであらう。人が、死刑或いは獄中生活を送ることによりその償いを求められ、甘んじて刑罰を受けたのは厳然たる事実である。敗戦のため、苛酷なまでに課せられた戦争責任を甘んじて受けた人々を今一度思い起こして頂きたい。今、私は従来と違った「戦争責任を課せられ、それを果たした」と言う立場から戦争裁判を考えるようになった。とすればこれ以上何の責任を負えと言うのであろうか。

戦争裁判に就いての様々な意見も風化しつつある。当時の世界の世論として、戦勝国側の秩序回復のための要求を、日本は受入れにその責めを果たして来た。半世紀もたち、事実関係を証明出来ない時、何故戦争責任の問題が出るのか理解に苦しむ。五十年前、敗戦の責めを負って牢獄の苦に耐えた人々を今一度思い起こして欲しいものだ。戦勝国は償いを充分求めた筈だ。

戦争は残酷なものだ。二度と繰り返してはならない。戦争で失った日本人は六〇〇万人と言われている。直接戦闘での戦死者だけ挙げても、ソ連一、〇〇〇万人、中国一、〇〇〇万人、ポーランド六〇二・八万人、ドイツ六〇〇万人、日本二六〇万人、ユーゴ一七〇・六万人、フランス六五万人、アメリカ四〇・七万人となっている。

戦争体験者のささやかな意見である。

『印象深かった今年の警備活動』

警視庁第一機動隊

西内 貴胤

沖縄植樹祭、皇太子御成婚、サミット警備と大警備の連続を新隊員で体験した私も、着隊から早一年半を迎えた。しかし、今年は年初から阪神・淡路大震災に伴う神戸派遣、そしてオウム真理教事件に伴う山梨派遣と関連連防等の警備など予想すら出来なかった突発的な警備の連続で、まさに激動・多忙な年であった。

この一年を振り返ると、機動隊員として成長することのできた一年であったと思う。着隊当時は、ただ無我夢中で、先輩・上司に言われたことをやるだけであったが、今年は助言を頂きながらも、中堅隊員として、「自分は今、何をすべきか」と考えながら勤務に従事することができたと思う。これは着隊当時と比べて非常に大きな進歩であったと思う。

また、これら一連の警備を通じ、機動隊の任務の重要性を改めて痛感した。廃墟と化した神戸の街を、「警視庁」と書かれたヘルメットをかぶって警らしたことが、霧深く立ちこめる上九一色村で、東北管区や近畿管区の機動隊員と連携して検問を行ったことなど、首都警察の枠を越えての勤務は自分にとって貴重な体験であった。この年、機動隊員としてこれら警備に従事できたことを誇りに思いたい。

今、APEC警備の真っ最中である。私もこの警備を支える一機動隊員としての自覚を持ち、警備完遂に向けて全力を尽くす覚悟である。

警視庁第二機動隊

高橋 正行

私は昨年十月に機動隊に勤務となり、

その一か月後に結婚し、公私共に充実した生活の中で、平成七年を迎えました。

一月十七日早朝、寝ている私を妻が真剣なまなざしで揺り起こしました。その様子から、ただならぬことが起きたなとは思いましたが、とりあえずテレビを見ると、倒れた高速道路や、あちこちで発生している火災の状況が映し出されており、啞然と見ているうちに、それが阪神・淡路大震災による兵庫県内の被害の様相であることが分かったのです。この状況から、兵庫へ派遣される可能性があるなと思いましたが、程なく、神戸に派遣されることとなり、被災地での救助、救援活動に従事することとなりました。

新年早々の兵庫県派遣、その後もオウム真理教関連事件に伴う警戒警備、米国大統領来日及びAPEC大阪会議に伴う警備など、重要な大警備が相次ぎ、気がつけばいつの間にか年の瀬を迎えようとする「あつ」という年の一年でした。

この間、いつも笑顔で送り出してくれた妻が私をいかに励ましてくれたかわかりません。多忙とはいえ、二度と経験できないような意義ある仕事に従事できたうえ、妻との絆をより一層強めることのできた一年だったように感じています。

警視庁第三機動隊

村瀬 彰

私は、隊本部の通信係員として五年在籍し、この間数多くの警備現場に出動しているが、今年三月二十日の出動は、私にとって忘れることのできない日となった。それは、地下鉄サリン事件の現場です。

事件当日、当隊は、全員教養訓練日のため三個中隊が在隊指定されており、出勤早々各種訓練に向けて準備をしていたところ、突然無線機から「原因不明なるも地下鉄構内で多数の人が倒れている」との情報が流れた。

一瞬、事務室内が静まり返り、全員が無線機に集中、情報収集に努めるも、全体が把握できないまま直ちに出勤命令が

下り、緊急出動したのです。到着すると、私の目の前には、歩道や車道一杯に倒れている人々の姿がありました。

私は直ちに各隊員からの情報を速報するとともに、現場で活動する隊員に対して「装備を付けたレスキュー隊以外は、不用意に駅構内に入らないように」等、命令や指示の無線通話を必死にこらえて続けたのです。

本年は、阪神・淡路大震災、都庁爆弾事件等一連のオウム関連施設捜索、APEC警備等に従事でき、機動隊員としての誇りを感じると共にこの経験を活かし、どのような事案にも対応出来る無線担当として頑張る覚悟です。

警視庁第四機動隊

古屋 幸一

「気をつけてよね、私を未亡人にする気」三月二十日、地下鉄サリン事件発生現場に到着した私は、何の防衛策もなく危うくサリンの渦巻く地下鉄構内へ飛び込むところでした。

写真担当として勤務している私は、未曾有の事態に直面し、早く現場で写真を撮らなければ、という一心で気が急いだのです。

帰隊後、上司に「匹夫の勇」だと諷められましたが、まさしくその通りで、多くの人が口から泡を出し、倒れていたというのに、私の頭の中はサリンのサの字も思い浮かばなかったのです。

帰って妻からも叱られて深く反省すると共に、事件発生直後の間もない現場の証拠写真を撮るどころか、一歩間違えれば、被害にあわれた方々のように病院へ運ばれていたかもしれず「匹夫の勇」という言葉の意味を肝に命じた次第です。本年は、一月十七日に発生した阪神・淡路大震災警備に始まり、オウム真理教関連警備、APEC警備など予想だにしない警備が相次ぎました。

地下鉄サリン事件の反省を踏まえて、「賢者の知恵」で今後の大警備を完遂していきたいと思っています。

警視庁第五機動隊

久保田 修弘

なんといつても一番印象深かった警備は、阪神・淡路大震災に伴う警備です。一月十七日当日の私は、テレビを通してしか情報を知ることができず、ただ「大変だなあ」と、まるで人ごみのようでした。しかし、その日の昼には各隊のレスキューが招集され、私自身も現場に行くことになったのです。十六時間をかけて着いた現場は、見るも耐えがたい光景であるとともに、私の心をかき立てるものがありました。それは、被災者の方々のためになることならいかなることもやり遂げ、一日でも早く震災前の笑顔をとり戻して欲しいというものでした。

被災された方々に対し何か手助けをしてやろう、激励してやろうと思っただけでも与えられた担当をくまなく歩きました。寒い時もあり、いつも冷たい食事でしたが何にも苦になりませんでした。

時には逆に「御苦勞様です」と声をかけられたこともあり、心にジーンとつまるものがありました。

二十日間という短い派遣でしたが、あれほど感謝されたのは初めてのことです。この仕事を選んで本当に良かったと感じるとともに、出発前言われた「人の為に何が出来るか」の内容がわかった気がしました。この尊い経験を、私の警察官人生に大きく生かしていきたいと思います。

警視庁第六機動隊

上村 豊

連休の初日、深い眠りに入っている時、寮直室から「在寮員は寮待機」との一報を聞いた。起きると同時にテレビのスイッチを入れると、画面からささまじい光景が生中継されていた。この日からオウム真理教に対する警備が始まり、翌日には富士宮総本部への捜索支援であった。五月十六日、この日最大の目的である麻原逮捕のため午前二時に本隊を出発。パ

スの中では、小さい頃からの思い出が頭の中に浮かんで来た。部隊が到着、扉を壊し、防弾帽、防弾衣、防弾盾、出動服の下には防護衣の完全装備で中へ突入した時は頭の中は真っ白になり、何をしたらよいかわからず余り余りなかつた。

中に入ってから、いつどこから毒ガス、又は武器で狙つてくるかもしれないと思ひながらも表情には出さず、強気な表情を出すようにしていた。

捜索支援からどれ位の時間が経過したか覚えていないが、捜査員のあわただしい行動で逮捕されたことが分かった。

まだまだオウム真理教関連施設捜索支援警備は続きサティアンに行くたびに色々なことが思い浮かんで来る。二度とこんな残酷な事件が起こって欲しくないという願いながら今日も首都東京を守っています。

警視庁第七機動隊

北原 由和

今年一年を振り返ってみると、今までに体験したこともない非常に様々な事件等に遭遇した年であった。阪神・淡路大震災に始まり、地下鉄サリン事件、警察庁長官狙撃事件、オウムの一連の事件など立て続けに起こり、それに私事ではあるが、出産予定日を前に心待ちにしていた子供を亡くし、妻と共に悲しみにくれてしまった時もあつたのです。しかし、勤務に支障をきたさぬよう、精一杯頑張る。今年もあと二か月余りとなりました。

その仕事の中で最も印象に残ったことは、突発に備える勤務に従事しているときに起こったことです。待機場所に着いた途端、受命機が鳴り響き、「警察庁長官が狙撃された」との一報が入りました。直後、「七機一中隊長あて緊急転進せよ」との命令が入り、現場へ急行したのでした。資器材を活用し、中隊長の指揮の下、付近の検察にあたり、その時の緊張感は今でも味わったことのないものでしたが、皆整然と部隊活動に従事し、検挙することこそ出来なかったが、訓練で言われる「自信」を持って警備に当たったというこ

と

とを身を持って体験できたのでした。
最後に、この一年間頑張れたのは、子供のことや落ち込んでいた時にも、私に心配をかけまいとして、笑顔で接してくれた妻のお蔭と感謝し、妻の愛情に応えるべく、来年も頑張りたいと思います。

警視庁第八機動隊

松本 哲夫

気がつけば肌寒い季節になった。今年も冬が近づいている。

振り返れば、阪神・淡路大震災警備に始まり、オウム関連事件等、私たち機動隊の活躍の場が多く、忙しさに追われた一年であった。

私個人として特に印象に残ったことは、兵庫県への派遣中、尿管結石で入院したときのことである。夜中に倒れた私を背負って病院に運んでくれた小隊長、腹痛にもがいていた私の背中を何時間もさすってくれた先輩の優しさは今でも忘れな

い。また、オウム事件の山梨派遣では、サリンに対する緊張感と、夜中の寒さの中で同僚達と互いに励ましあい任務を遂行した。

このような予想もしなかった警備に従事でき、この一年で私たち機動隊員は大きな成長を遂げているのではないだろうか。これから先、何が起るかわからない時代だが、何が起るかわからない自信と、やらなければならない使命感を私は得た。激動の平成七年を警視庁第八機動隊員として、「生の現場」で活動できたことを誇りに思うと共に、この経験を明日につなげていきたい。

警視庁第九機動隊

谷本 美和

機動隊に着隊して早いもので一年半が過ぎました。特に平成七年は忘れられない年となりました。

新年早々に発生した阪神・淡路大震災、今も続く地下鉄サリン事件に伴う警戒警備。このような中で、婦人警察官と

して、機動隊員として警備に従事できたことは私の心の中で大きな糧となりました。

阪神・淡路大震災警備では、「のじぎくパトロール隊員」として被災地で一生懸命に頑張つて避難所生活を強いられる人たちに出会えたこと、そしてその被災者から「パトロールありがとう」という温かい言葉を聞き、心の傷の「アフターケア」という意味で、数多くの人々を救えたことを確信しています。

また、地下鉄サリン事件や、オウム真理教に関連する様々な事件では、上九一色村等の重防警備を経験している訳ではありませんが、地下街女子トイレ検索等で今世紀最大とも言えるべきこの警備に今でも従事していることは、警察官として誇りに思うことでもあります。

まだ厳しい状況は続きますが、都民の治安を守る警察官として日々努力し、新たな年に向かって進んでいく覚悟です。

警視庁特科車両隊

民部田 秀

今年の警備は、なんと言っても年明け早々発生した阪神・淡路大震災に伴う救援警備、三月二十日に発生した地下鉄サリン事件に伴うオウム真理教施設への捜索支援警備、そして十一月の APEC 警備だと思っています。

残念ながら私は、この震災警備、オウム施設捜索支援警備には従事していません。というのも丁度その頃、地域係員として交番勤務だったからです。

テレビ等で機動隊員の活躍を目にするたびに「機動隊に行きたい」と強く思いました。その念願もようやくかない、今年六月、特科車両隊に入隊することができました。

入隊後、上九一色村への警戒警備には数回従事することができました。また、十月の成田現地闘争警備にも部隊員として出動し、機動隊員の実感を強く持つとともに、特に印象深いものになりました。成田警備に関しては、ビデオ等を警察学校や警備対策会議等で見たことがありま

したが、まさか自分がその警備現場に行くとは夢にも思っていませんでした。現地闘争が近づくにつれ、先輩隊員にも緊張感が出てきているのを感じました。そして当日は私の緊張感も頂点に達し、これが本当の機動隊の仕事だと感じました。天候は最悪だったものの、現場は特

日本北から南から

『念願の国体成年一部出場』

埼玉県警察機動隊 山田 紀明

私は、現在機動隊に勤務し、剣道の特別強化訓練員として日々稽古に励んでいます。

今年は、阪神・淡路大震災の応援出動、オウム事件の各種警戒警備等に多忙な勤務の中、充分な訓練ができませんでした。が、気持ちだけは負けまいと予選会に臨みました。

昨年は、成年二部の中堅として、愛知国体に出場し、第三位に入賞することができ、ある程度満足できましたが、どうせ国体に出場するならば、一度は成年一部の選手として出てみたいと思っていました。

私は、宮城県の出身で、埼玉県の剣道レベルの高さを知っていましたので、自分が埼玉県の選手として国体に出場することを、ひとつの「夢」と思っていました。

予選では、「自分の夢」のひとつをかなえるべく、必死に戦えたと思います。今年三十五歳、花の咲くのがかなり遅かったように思いますが、更に「自分の夢」の実現に向かって努力していきたいと思っています。



▲写真は試合終了後の本人

に荒れることもなく、任務を完遂でき、「ホッ」としました。

この警備で学んだことは、事前の詰めと部隊行動の大切さでした。APEC 警備では、成田での経験を生かし、警備を成功させることができました。これからも治安維持のため全力を尽くしたいと思います。

『夏の合同訓練で得たもの』

熊本県警察機動隊 生源寺 琢也

八月二十一日、暦の上ではもう秋。しかし、連日連夜の記録的な暑さ。残暑というより猛暑の中、管区学校において九州管区機動隊第三期合同警備訓練が始まった。

とにかく暑い。じつといても暑い。汗が吹き出してくる。装備を一つひとつ身体に着けると、一枚一枚汗の服を重ねているようで、グラウンドに出る頃には、既に下着が絞れるほどだ。

そんな中で訓練は、心身ともに消耗が激しく、自分が何をやっているのか分からなくなるくらいである。

駆け足訓練では、グラウンドの一周がとても長く感じられ、身体も重い。心臓が破裂しそう、深呼吸してもなかなか鼓動がおさまらない。大声で掛け声をかけていても、だんだん出なくなり、意識も薄れかける。でも、気を抜くと遅れをとるようになり、必死についていく。

そんな中、ふと言葉が頭によぎる。「なぜ、こんな思いをしているのか」と。しかし、答えは出ないまま、訓練が終わる。一日、一週間と過ぎていった。

入校も終わりに近づくと、少しづつではあるが、体力と気力がついてきているのを感じ始めた。「昨日できたのだから今日もできる」と。

そこに少しばかりの自信も生まれた。今まで体力が全くなかった自分にとって、この自信が訓練の答えだと私は思っている。

誇りと使命感 充実の機動隊		東 鋼 業 (株)	栗 田 工 業 (株)	高 周 波 熱 鍊 (株)	山 陽 特 殊 製 鋼 (株)	(株) 三 榮 商 会	杉 尾 榮 俊	(株) スチールセンタ	ツ ツ ミ 金 属 (株)	木 村 政 次	黒 田 一	谷 本 鉄 鋼 (株)	村 上 益 一	明 鋼 材 (株)	丸 定 産 業 (株)	中 京 製 線 (株)	三 和 鉄 構 建 設 (株)	堀 口 海 運 (株)	中 越 通 運 (株)	(株) 辻 さ く	高 橋 重 廣	東 北 支 部 (社) 機動隊員等を励ます会
------------------	--	-----------	-------------	---------------	-----------------	-------------	---------	-------------	---------------	---------	-------	-------------	---------	-----------	-------------	-------------	-----------------	-------------	-------------	-----------	---------	------------------------

読者の場

「ごまめの歯軋り」

堤 直人
(東京本部)

敗戦後五十年。兵役体験者にとって、付録の人生をよくもまあ生き抜いてきたものと感慨深いものがあります。

それにしても、節目の年に、阪神大震災、オウム事件、超田高、五年にわたる不況に加えデフレ経済など、五十年の垂みが多発しました。

最近某銀行の調査によれば、完全失業者が三百二十二万人（失業率三・三％）特に若年層ほど失業率が高くなっている、これから先が憂慮されます。

しかし、新聞の求人広告、求人雑誌を見ると、どうも変だなどという気持ちを禁じ得ません。人間、出来るだけ楽をして良い生活をしたいのは、本能であり、この本能をどうセーブしていくかが、教育の大きな使命であると思います。

デフレは、人間性を破壊する副作用を伴います。「デフレ繁栄論」の一本を刊して、他人の不幸は自分の幸福を地で行く人まで現れるに至っては、是非はともかく、その過しさを習うべきでしょう。これまでの物質面を重視して、精神面が疎かになっていった教育に復讐されている時代となりました。自分は安全地帯にいて、声高に主張する風潮が瀰漫しており、眼光紙背に徹し、本当の真意を読み抜く力を養う広い意味での教育が肝要と思います。情

報が巷に充ち充ちているなかで、情報に依存しないで勝負出来る人材の育成がどの組織・家庭でも大切だと思います。確かに便利な道具が次々と出てきています。が、頭の構造まで、ロボット化させない教育が望まれます。コンピュータは正確に間違えず。至言です。良い結果を出せなかった場合に、コンピュータが間違っているという言い訳を理論整然と述べる者に対しては、嫌な役割と自覚しながら、愛情をもって叱ることにしております。これが、社員、その家族を預かる私の責務です。

ポツダム随想

滋岡長平
(東京本部)

昨年九月末ベルリンを訪れた際、ポツダム会談の行われたツェツィリエン邸を見物した。同邸はフリードリヒ帝の「無憂宮」の北方にあり、湖と森に囲まれた風光明媚な庭園の中に、プロイセン王家の別邸として皇太子妃の名に因んで建てられた英国風の二階建カントリーハウスである。一九四五年五月、ドイツ降伏の後、継戦中の日本を含めて米英ソ三国は戦後処理を協議する為、破壊を免れたこの地を会談の場所に選定し、七月初旬から道路や各国代表団の宿舎の整備を行い、七月十七日の十七時に開会したのである。

現在、階下の各部屋は当時のまま保存公開されており、我々はスタアリン、トルーマン、チャーチル（後にアトリー）等夫々の執務室を見て歩いた。吹抜のホールの会議場には直径三米余の丸テーブルが置かれ十五人の代表が着席した。スタアリンの執務室は壁、床共に赤く、ソ連随員の室はもと皇太子の居間でホワイトサロンと呼ばれて居たのが印象に残った。各部屋を廻り乍ら我々一行は我々の運命を決めた場所、所は此処だと云う感慨を分かち合った。

た。

その後東欧を駆け足で観光して帰国したが、関連の史料を渉猟した上で私見のあらましを述べることにした。

会談開始に先立ち十七日正午、スタアリンはモロフ外相他二名を伴い、ポツダム市内のノイパーベルスブルクのアメリカ代表団の宿舎を訪ね、ルーズベルトに代ったトルーマンに初めての表敬訪問を行った。その上、ヨーロッパ戦の終了三ヵ月後に日本との中立条約を破棄して参戦すると云う密約を再確認して、午餐を共にした。この件に就いては、五ヵ月前の二月、ドイツを東西より狭撃する体制を確立した機会に、スタアリンが主催して米英を招待したヤルタ会談に遡る。その会談場は、善美を尽くしたツァーのリヴァディア離宮で、特に起居に不自由なルーズベルトには宿舎として提供した。主たる議題はドイツと東、南欧の処理であったが、スタアリンは病弱な大統領を籠絡し、チャーチルを牽制して東欧全体をソ連の勢力下に収める成果を得たのである。その上スタアリンは、ソ連の民衆が未だに日露戦争の復讐を熱望していると欺き、サハリン南、千島全島及び満州に於ける諸権益の獲得を条件にして、中立を破棄、対日参戦すると云う密約を結んだのであった。それが十七日午後、米ソのみの会談だったのである。翌十八日から本会談は、毎日、小委員会、外相会談、首脳会議と三回に分けて行われ、主題はヨーロッパ全体、特にポーランドとソ連の国境、ドイツの戦後処理等であったが、国境問題がオーデル、ナイゼの線に決着した他は、事毎にソ連と米英は対立した。二十五日から二日間、英閣下院選挙の為休会した。選挙の結果、英代表はアトリー首相、ベヴィン外相に変わり、本会議を再開したが、度々決裂、再開を繰返す八月二日になって妥協し、漸く三國の調印を終えた。争点はソ連の東欧支配とドイツの抹殺に対する米英の反論であり、特にトルーマンは譲らなかつた。先の

ヤルタ会談と異なり、米英とソ連は次第に同床異夢となり、その後起こった「鉄のカーテン」や冷戦の予兆すら既に現れて来たのである。

休会中の二十六日、米英華三國は対日ポツダム宣言を発表した。三國とは云え主体は米國であり、中立のソ連は全く無視された。

之に對し我國は一旦、之を黙殺したが、和戦を廻る論議を重ねている中に広島、長崎に原爆投下更にソ連の参戦を見、八月十日及び十四日のご聖断に依つて十四日、同宣言を受諾するに至つた経緯は一般に周知の通りである。

沖繩戦のさ中、四月十二日ルーズベルトは死んだが、彼のみならず米國も兵力損耗を憂えていた。本土決戦の我兵力は五百万、特攻機は五千とカウントされ、米軍の損耗は百万とも想定されていた。國務次官のグルーは大使として滞日十年、生粋の外交官で、ソ連を好まず、日本の政情を熟知しており、彼我の一日も早い和平を願っていた。トルーマンには、副大統領時代から、昇任後も、グルーは所管の外交情報詳細に報告しその信頼を勝ち得ていた。また國務省の日本課長ドウマンは日本育ちでよくグルーを補佐した。五月三十日、グルーは日本に対する終戦提案に当たっては、天皇制の維持を明示する事が最も重要であるとの意見をトルーマンに進言し、陸軍長官スチムソンの同意も取り付け、七月、國務長官に就任してポツダムに赴くバーンズにも根拠しを行つていた。

暗示した心利きたるものであった。然しその中の「サブジェクト・ツ」の解釋を廻つて二日も紛糾し、その解決には更なるご聖断を仰がねばならなかつたのである。

終りに、重臣達や陸軍の要望で、政府はソ連に和平仲介工作を働きかけて居た。この成功の見込みのない企図で、最も苦勞したのは練達にして剛直な佐藤駐ソ大使であった。スタアリンはポツダムで米英にこの件を打明けたが、参戦する迄我國を翻弄し続けたのである。尚、米國の原爆投下の経緯に就いては稿を改めて述べることにしたい。

龍彦ちゃん、安らかに！

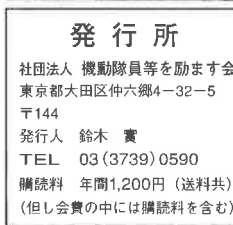
神奈川警察第一機動隊

九月六日早朝、我々は坂本弁護士一家失踪事件解明のため、龍彦ちゃん搜索の現場に到着した。



生後一歳二ヵ月という小さな身体、重機などは使用できず、搜索は手作業で進められた。場所が湿地帯のため水は湧き溢れ、大石がゴロゴロと露出して大きな障害となつた。三日、四日と日が経つにつれ肩・腰は痛み、立ち上がることさえ容易ではなくなつてきた。しかし「俺たちの手で家族と一緒にやろう」と極限状態の体に鞭を打ち、爪を真っ黒にし、泥まみれになりながら作業を続けた。

五日目夕刻、にわかには信じがたいが、かけよる隊員らの目に焼きついたのは、あの可愛らしい龍彦ちゃんではなく、変わりはてた姿で横たわっていた龍彦ちゃんであった。翌日、龍彦ちゃんの冥福を祈つて全員で献花を行ったが「龍彦ちゃんを見つけたことができた」という思いが「最悪の事態になった」という思いが交差し、改めてオウムに対する怒りが込み上げてきて、いつしか目からは涙が溢れ出ていた。



したものに対するものであるが、当会としても大変名譽なことであり、今後ますます機動隊員等の警察官と国民を結ぶ「かけ橋」としてはげましの輪を大きく発展させる決意である。



激動の時代の「最後の砦」

名譽理事長 大内俊司

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年は、例年になく大警備が連続し、機動隊員の皆様におかれましては一日とて気持ちの休まる日はなかったのではないかとお察し申し上げます。

阪神・淡路大震災で幕を開けた平成七年は、地下鉄サリン事件、国松警察庁長官狙撃事件など、話題がオウム真理教一色となった年でもありました。これら凶悪極まりない犯罪が一般市民を狙って行われたことは、真に恐ろしく、残念なことでありました。

しかし、阪神・淡路大震災での迅速なる救援活動、それと前後して行われた山梨県上九一色村のオウム真理教施設の捜索、その後各地で起こった異臭騒ぎや、六月・函館での全日空機ハイジャック事件等、いずれの時もプラウニングを通して凛々しい機動隊員の方々の活躍がうかがうことができました。

また、十一月に大阪で開催されたAPEC

閣僚会議等、各種の大規模警備活動も無事完了されたことは、機動隊員等を励ます会の会員として非常に頼もしく、また誇らしく感じることです。

そういった意味では、激動する時代の中で陰湿化、潜行化が進みつつあった各種犯罪を未然に防ぐための、機動隊員の皆様の日頃のご努力が報われる形となった一年でもあったのではないのでしょうか。

犯罪者層の若年化や密輸による銃器犯罪等、今後、機動隊員の皆様にかかる責任はますます厳しく、重要なものとなっていくことと思えますが、微力ながらも機動隊員等を励ます会会員として我がが中心となり、更なるご支援をお願いして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



心のかけ橋として

機動隊員等を励ます会

理事長 鈴木 實

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年平成七年は、歴史上稀に見る大事件が続いた年でありました。年明け早々の阪神・淡路大地震では、多くの方が天災という自然のもたらす脅威の中で、多大な犠牲を払われ、三月には大勢の罪のない人々が、カルト宗教団体によって、命を落とすという凶悪な地下鉄サリン事件がありました。この宗教団体は、その後次々と暴かれる事実上、日本中が揺れ動きました。そして六月の全日空機ハイジャック事件、十一月にはAPEC大阪会議が開催されるなど、こうして振り返ってみても、まさに大規模の事件・事案の連続であり、我々市民にとっても目まぐるしく様々な思惑の入り交じる一年でありました。

ましてや平成六年の約五倍にあたる延べ四十七万人の機動隊員の方が他の都道府県に特別派遣され、事態収拾、解決に当たられたこと苦労たるや、想像を絶する任務であったこと

は察するに余りありません。阪神・淡路大震災では、いち早く現場にかけつけたのも機動隊の方々でしたし、地下鉄サリン事件では、果敢に乗客の救助に向かったのも隊員の皆様でした。そしてハイジャック事件では身の危険を省みず機内に突入して乗客全員を無事に保護し、犯人を見事逮捕したのも機動隊の方々でありました。また、APECでは各国要人の警護と、まさに静と動の入り交じる活動の連続であり、その姿には心から感動をおぼえ、日本国民としての誇りさえ感じる毎日でありました。

そのような皆様の活躍ぶりを見るにつけ、当会といたしましては機動隊員と国民を結ぶ心のかけ橋を強固にするべく、少しでも皆様のお力になれるよう、会員一同全力で声援をおくり続ける所存でございます。

1996年 全国機動隊隊長「新年の決意」

関東管区機動隊連隊長 治にいて乱を忘れず



高橋 博

輝かしき新年を迎え、誠にありがとうございます。

我が関東管区機動隊の昨年は、振り返ってみると、年初の阪神・淡路大震災で、現地派遣され、被災者の救援、救護や被災地の警戒活動に従事したのを皮切りに、犯罪史上かつて例を見ない極悪非道なオウム真理教関連事件に際して、長期にわたる連日連夜に派遣され、山梨県上九一色村に派遣され連日連夜の警戒に当り、また秋には国の威信をかけたAPEC大阪会議に現地派遣され、警戒、警備に従事するなど、まさに席の暖まる暇もなく東西奔走を続けた一年でした。

この間、隊員一同は、広域警備部隊の中核としての誇りと自信を胸に秘め、皆様の温かいご支援とご協力を糧に、幾多の困難を克服し、その任務を果たして参りました。

本年も何時、何処で、何が起きるか分かりません。我が関東管区機動隊は、「治にいて乱を忘れず」をモットーに、実戦的訓練を積み重ね、気力、体力を養い、皆様の期待に副える広域警備部隊となるよう努力して参りますので、何卒これまで以上にのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年も何時、何処で、何が起きるか分かりません。我が関東管区機動隊は、「治にいて乱を忘れず」をモットーに、実戦的訓練を積み重ね、気力、体力を養い、皆様の期待に副える広域警備部隊となるよう努力して参りますので、何卒これまで以上にのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年も何時、何処で、何が起きるか分かりません。我が関東管区機動隊は、「治にいて乱を忘れず」をモットーに、実戦的訓練を積み重ね、気力、体力を養い、皆様の期待に副える広域警備部隊となるよう努力して参りますので、何卒これまで以上にのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年も何時、何処で、何が起きるか分かりません。我が関東管区機動隊は、「治にいて乱を忘れず」をモットーに、実戦的訓練を積み重ね、気力、体力を養い、皆様の期待に副える広域警備部隊となるよう努力して参りますので、何卒これまで以上にのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年も何時、何処で、何が起きるか分かりません。我が関東管区機動隊は、「治にいて乱を忘れず」をモットーに、実戦的訓練を積み重ね、気力、体力を養い、皆様の期待に副える広域警備部隊となるよう努力して参りますので、何卒これまで以上にのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年も何時、何処で、何が起きるか分かりません。我が関東管区機動隊は、「治にいて乱を忘れず」をモットーに、実戦的訓練を積み重ね、気力、体力を養い、皆様の期待に副える広域警備部隊となるよう努力して参りますので、何卒これまで以上にのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

的に確固たる地位を築き上げた部隊であると確信しています。

昨年は、阪神・淡路大震災から始まり、特別派遣として過去最大でありました。この間隊員は、厳しい警備の中、愚痴をこぼさず、弱音を吐かず、与えられた任務を完遂してきました。APEC大阪会議警備では、警察の力すなわち機動隊の底力というものを強く感じた次第でありました。これも、ひとえに旺盛な士気と強い責任感を持った隊員一人ひとりの努力の結果であったと思います。

これから我が管区機動隊は、昭和四十四年の創設の趣旨を継承しつつ、社会情勢の変化を踏まえ、さらに内外に期待と信頼される部隊としての実力を蓄えて、警察の「最後の砦」として今年も活動していく決意であります。

昨年は、年初から阪神・淡路大震災の災害警備、これに引き続く山梨県上九一色村のオウム真理教対策、そしてAPEC大阪会議開催に伴う警備と、未知の警備事案が多く、現場自体が即訓練場になったような気がした。

兵庫の震災現場では、埃にまみれながら瓦礫の山を何度も何度も掘り起こし、被災者や遺族から、「これだけやってもまだ何かあるんじゃないか」と抱きつかれんばかりに謝意を表され、現場の隊員達ともにこみ上げてくるものがあったことが思いだされる。オウム対策では、徹底した検問の中で、どうしたら心を開いてくれるかと、粘り強く信者を諭す隊員の姿は、真摯そのものであった。また、APEC警備では、長時間にわたる全体配備や突発事案にに対し、隊員個々が責任感と創造性を発揮し、臨機応変に職務を処理している姿は、正に心丈夫のかぎりであった。

このように、隊員達が、厳寒

の中、酷暑の中そして降雨の中、どんな状況にあっても、黙々と任務をこなしている姿に見るにつけ、改めて頼もしくもあり、いじらしさすら感じたものであります。

私は、警察の危機管理は、機動隊の存在自体にあると思っております。そして、出動を通じて学んだ貴重な経験を、単に私だけの経験に止めず、これからの機動隊の目標である精進であらゆる事象に対応できる部隊作りに生かせるよう努力していく所存である。

関東管区機動隊第三大隊長 年頭にあたり

昨年は、甚大な被害をもたらした一月十七日発生の阪神・淡路大震災に伴う災害警備特別派遣にはじまり、オウム真理教信者による地下鉄サリン事件に伴う警戒警備、さらにはAPEC大阪会議に伴う特別派遣等と多忙な一年でありました。訓練もままならぬ状態での特別派遣の連続で、果たして任務の完遂ができるか不安を抱いたこともありますが、一人の事故者を出すこともなく、その任務を果たすことができました。

本年の警備情勢も依然として厳しいものがあり、管区機動隊の果たす役割は一段と強まるものと思えます。いかなる事態に對しても、昨年の数多くの特別派遣で学んだ教訓、反省を生かし、任務を完遂すべく精進な部隊づくりをめざし、国民の期待と信頼にこたえていく覚悟であります。

中部管区機動隊連隊長 年頭所感

昨年の出動状況を見ますと、従来の治安警備はもとより、天皇皇后両陛下の行幸啓をはじめとする警備警備、阪神・淡路

大震災の災害警備、オウム真理教関連の捜査活動等、その態様は様々であり、みなごにその任務を果たした隊員諸君には、改めて敬意を表する次第であります。

部隊は、常に精進であることを求められるわけでありますが、このような様々な事案に對して的確に対処できたことは、何より日頃の訓練の成果であると言っても過言ではないと思っております。

若い隊員諸君が厳しい訓練に耐え、常にイメージトレーニングを重ねることに、その集合体として精進な部隊が作り上がるのです。

今後、今までも増して、多種多様な事案が発生することも予想されるところですが、さらに訓練と実戦を重ね、精進な中部管区機動隊となることを祈念します。

中部管区機動隊第一大隊長 継続は力なり

昨年は、前半は一月十七日発生の阪神・淡路大震災やオウム真理教関連事件等への対応、後半には最重要課題であった「APEC」警備に伴う大阪府警察への派遣など、いずれも全国規模の警備事案がありました。

いづれも厳しい環境下での警戒警備ではありましたが、隊員の士気の高さと責任感に満ちた活動により、与えられた任務を全うすることができました。

阪神・淡路大震災警備派遣では、直後に予定していた海外旅行を急遽キャンセルしたり、所属の親睦旅行先から部隊集結場所へ直行した分隊もありましたが、管機隊員としての使命感から、全隊員が「有事即応」に対応することができました。

私が新任大隊長として日頃の訓練や特別派遣にあたって配慮していることは、「基本に忠実」と及び「旺盛な士気の継続」ということであります。

訓練では、「すべての道も第

「歩から」を信念に、隊員に基
本の大切さを繰り返し教えて参
りました。

また特別派遣の際は、目的を
明確にして、具体的な任務を付
与すること、そして、隊員個々
の悩み等を把握し事前に解消す
ることを心構えとしております。

さらに、派遣期間中の留守を守
るご家族の後方支援も、隊員の
士気高揚の大きな要因ではない
かと思っております。

本年も、突発を含む特別派遣
が予想されますが、「継続は力
なり」を合言葉に訓練に励み、
県民や国民にとって頼りがいの
ある精鋭な誇りを有する警備隊
の育成に努力して参りたいと思
っております。

中部管区機動隊第二大隊長
頼もしい菅区機動隊長

「亥年は過去の例にも見られ
る如く天変地異の年。予想もで
きない災難が突然振りかかる恐
れがあり、気を引き締めて頑張
りましょう。」

年賀状にそう記して全国警友
宛に送ったのが、つい昨日のよ
うに思い出されます。

指揮官専科入校中に発生した
阪神・淡路大震災では、研修先
の成田第一空警隊から深夜帰県
し、部隊と合流したことや、春
まだ寒い小雪舞う上九での児童
保護、訓練入校中の兵庫や山梨
への度重なる特別派遣、さらに
は、全国機動隊がAPEC成功
を合言葉に一枚となった大阪
での警備等、困難かつ苦しい
警備の一つ一つを隊員は見事
なまでの連携プレーで完遂して
くれ、菅区機動隊の素晴らしい
伝統を十二分に発揮してくれ
ました。

当面、広域緊急援助隊としての
合同訓練や、新隊員を迎える
ための準備等を進めなければな
りませんが、今年もより頼もし
い菅区機動隊の育成に心血を注
いで行きたいと考えております。

「歩から」を信念に、隊員に基
本の大切さを繰り返し教えて参
りました。

近畿管区機動隊連隊長
新たな挑戦を求めて

新年おめでとうございませう。
昨年は、年初の一月から阪神・
淡路大震災が発生し、その余震
が納まらぬ三月以降は、東京で
の地下鉄サリン事件が相次いで
発生し、未だその捜査は続い
ています。

また、年末の十一月には、
「APEC大阪会議」が開催され
、本警備には全国からの投入
部隊では、過去最高の一万二千
人が動員されました。この間
にありまして、銃器犯罪は新た
な展開を見せるなど複雑、凶悪
化する事件事故は、枚挙にいと
まがないほど発生しました。

また、事件事故は、これまで
の経験だけでは対処し得ないよ
うな複雑、困難な状況を示し、
全国警察が組織総合力の発揮と
連携の重要性を強く求められた
一年でもありました。

こうした中であって、近畿管
区機動隊は、前述の事件、災
害警備のほか警備警務で文字
通り東奔西走して、その任務を
遂行し、菅区機動隊の存在感を
示してくれました。

さて、今年一年を展望してみ
ますと、政治・経済・社会など
の国内外情勢はいずれを取りま
しても樂觀視できるものは少な
く、これらが国内治安に及ぼす
影響も昨年以上に厳しくなるこ
とが予想されます。

犯罪は、オウム真理教事件に
代表されますように、全く予想
だにしない形態で発生すること
も懸念されます。

こうした治安情勢に、菅区機
動隊員としての確に処していか
くためには、本年は、これまでの
集団警備力確保のための訓練
に加えて隊員個々の能力を高め
ていく新たな教養、訓練に工夫
を凝らしていかなければならな
いと考えております。

文字通り精強な部隊となるた
めの「新たな挑戦」を新年の誓
いと思っております。

「歩から」を信念に、隊員に基
本の大切さを繰り返し教えて参
りました。

近畿管区機動隊第一大隊長
年頭所感

「戦後五十年」という節目の
年であった平成七年が過ぎ、平
成八年を迎えました。「戦後五十年」
に当たる平成七年は、政治・経済
等色々な分野でこれまで歩ん
できた道を振り返り、様々な評価
や反省がなされた。

しかし、自分自身、警察官と
して平成七年を省みると、拝命
以来二十数年の中で、市民生活
の安全を守るという職責を果た
すことの大切さや、難しさを最
も考えさせられた年となった。

一月には、「阪神・淡路大震災」
の発生に伴う災害警備、三月に
は、「地下鉄サリン事件」をは
じめとするオウム真理教による
一連の組織的犯罪の発生、発覚
に伴う警備活動等、いずれも長
期に亘る警備実施が行われた。

また、十一月には、東京以外
の都市で初めて開催された大規
模国際会議の「APEC大阪会
議」警備等、まさに大変な年であ
った。その平成七年も全国警
察の一九となった取り組みによ
り、なんとか切り抜けることが
出来た。

この数年、官・民とも「危機
管理」が叫ばれていた中で、
「阪神・淡路大震災」や「地下
鉄サリン事件」は、まさにその
試金石となった。

年頭にあたり、常に、いかな
る事象が発生しようとも、動じ
ることなく、的確に対応でき
よう、知識・技能の錬磨に励み、
真に精強な部隊作りに取り組ん
でいく決意を新たにしていると
ころである。

近畿管区機動隊第二大隊長
誇りと使命感

菅区機動隊は激動時代の要請
で生まれ、先輩諸氏の血のじ
む経験の積み重ねで、現在の輝
かしい歴史と伝統を築いてきた。
学園紛争、成田闘争警備に明

く、頼もしく思ったものであり
ます。紙面をお借りしまして厚
く御礼申し上げます。

震災時の機動隊の活躍につい
て、私の知人の話を紹介させ
ていただきます。「私の家の
周辺全てが全壊しました。そこ
へ旗を持った機動隊が掛け声を
かけながら駆け足で来て、倒壊
家屋の中から人を救出すると、
「二人救出」と大きな声を出し、
また駆け足で次の倒壊家屋の方
に向かわれました。今までも余り
警察に関心がなかったのです
が、機動隊については考えを新
たにしました」と興奮気味に語
っております。

今回の大震災では、国民の一
人ひとりが機動隊に対する認識
を新たにし、信頼を高めたので
はないかと思えます。私は、昨
年春、かねてから希望していた
菅区機動隊の大隊長に命ぜら
れ、二度目の菅区機動隊勤務と
なりました。

本年は、この国民の期待と信
頼に応えられ、更に精強な管
区機動隊にするため、部隊の団
結、即ち「和」の涵養と個々の
隊員が「考動」できる能力のア
ップに努め、危機管理部隊とし
て与えられた任務の完遂を目指
す決意であります。

九州管区機動隊連隊長
年頭所感

昨年は、九州管区機動隊にお
いても、阪神・淡路大震災の災
害警備をはじめとして広島、長
崎、宮崎等の各県下における警
備等やAPEC警備等に出動し
、それぞれ、その任務を全う
することができました。

ところで、東洋思想研究家と
して知られる故岡田正篤氏は、
国家(国家以外の組織等を含む)
興亡の原則に「創業垂統」「保
業守成」「因循姑息」「衰乱滅亡」
の過程を上げている。

九州管区機動隊も、発足後二
十七年目を迎えます。この間の
隊の運用や集団警備のあり様を
見ますと、多くは集中運用から
分散運用に移行し、また、警備

のあり方も大規模単位から小規
模単位の集団警備に変わってき
ております。今なお、隊の規律
は厳正で、高い士気を保持して
います。が、興亡の原則から見れ
ば、「保業守成」期に入った感
もありません。

混迷を深めている最近の社会
情勢の下にあって、大規模な自
然災害や銃器使用犯罪、オウム
関連事件等の特質、重大な事
件、事故が続いて発生しており
ます。事故が続いて発生してい
るに向かわれています。今までも
一層菅区機動隊の存在価値を高
めることになると思います。

私は「菅区機動隊一同は、こ
うした意識を持って、日頃から
訓練と研鑽を重ね、足腰を強め
なければならぬ」と思います。

九州管区機動隊第一大隊長
年頭に寄せて

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム事件等をはじめ、APEC
大阪会議、各種警備と年間九
回、九十日以上の東奔西走で、危
急管理対応組織の中核としての
菅区機動隊の存在が誇示され、
機動隊不要論的な妖怪も吹き飛
んだ一年であった。

機動隊は青春の故郷、男を磨
く道場と称して私が出勤服を着
たのが二十数年前。今も昔もい
かなる社会変化事象が発生して
も的確に対応できる有事即応力
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

東北管区機動隊大隊長
年頭所感

新年明けましておめでとうござ
いませう。

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム真理教による地下鉄サリ
ン事件等、まさに機動隊の集団
警備力が必要とされた一年であ
った。

わが隊にあっても、三度にわた
る兵庫県下における災害警備
出動をはじめ、広島県での植樹
祭警備等、そして昨年の最大
の警備と言われたAPEC大阪
会議警備に出動し、また、
管内内における行幸警備等と
、菅区機動隊の真価が問われ
る多忙な年であった。

これら特別派遣において、目
的達成に向け、全隊員が一丸と
なり、きびきびと、深刻と
任務を遂行する姿を見るにつ
け、誠に頼もしく、隊員個々が
日々成長していることを痛感し
るところである。

若き隊員は優れた吸収力と未
知の可能性を秘めており、これ
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

中国管区機動隊大隊長
年頭に寄せて

新年明けましておめでとうござ
いませう。

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム真理教による地下鉄サリ
ン事件等、まさに機動隊の集団
警備力が必要とされた一年であ
った。

わが隊にあっても、三度にわた
る兵庫県下における災害警備
出動をはじめ、広島県での植樹
祭警備等、そして昨年の最大
の警備と言われたAPEC大阪
会議警備に出動し、また、
管内内における行幸警備等と
、菅区機動隊の真価が問われ
る多忙な年であった。

これら特別派遣において、目
的達成に向け、全隊員が一丸と
なり、きびきびと、深刻と
任務を遂行する姿を見るにつ
け、誠に頼もしく、隊員個々が
日々成長していることを痛感し
るところである。

若き隊員は優れた吸収力と未
知の可能性を秘めており、これ
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

中国管区機動隊大隊長
年頭に寄せて

新年明けましておめでとうござ
いませう。

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム真理教による地下鉄サリ
ン事件等、まさに機動隊の集団
警備力が必要とされた一年であ
った。

わが隊にあっても、三度にわた
る兵庫県下における災害警備
出動をはじめ、広島県での植樹
祭警備等、そして昨年の最大
の警備と言われたAPEC大阪
会議警備に出動し、また、
管内内における行幸警備等と
、菅区機動隊の真価が問われ
る多忙な年であった。

これら特別派遣において、目
的達成に向け、全隊員が一丸と
なり、きびきびと、深刻と
任務を遂行する姿を見るにつ
け、誠に頼もしく、隊員個々が
日々成長していることを痛感し
るところである。

若き隊員は優れた吸収力と未
知の可能性を秘めており、これ
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

中国管区機動隊大隊長
年頭に寄せて

新年明けましておめでとうござ
いませう。

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム真理教による地下鉄サリ
ン事件等、まさに機動隊の集団
警備力が必要とされた一年であ
った。

わが隊にあっても、三度にわた
る兵庫県下における災害警備
出動をはじめ、広島県での植樹
祭警備等、そして昨年の最大
の警備と言われたAPEC大阪
会議警備に出動し、また、
管内内における行幸警備等と
、菅区機動隊の真価が問われ
る多忙な年であった。

これら特別派遣において、目
的達成に向け、全隊員が一丸と
なり、きびきびと、深刻と
任務を遂行する姿を見るにつ
け、誠に頼もしく、隊員個々が
日々成長していることを痛感し
るところである。

若き隊員は優れた吸収力と未
知の可能性を秘めており、これ
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

中国管区機動隊大隊長
年頭に寄せて

新年明けましておめでとうござ
いませう。

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム真理教による地下鉄サリ
ン事件等、まさに機動隊の集団
警備力が必要とされた一年であ
った。

わが隊にあっても、三度にわた
る兵庫県下における災害警備
出動をはじめ、広島県での植樹
祭警備等、そして昨年の最大
の警備と言われたAPEC大阪
会議警備に出動し、また、
管内内における行幸警備等と
、菅区機動隊の真価が問われ
る多忙な年であった。

これら特別派遣において、目
的達成に向け、全隊員が一丸と
なり、きびきびと、深刻と
任務を遂行する姿を見るにつ
け、誠に頼もしく、隊員個々が
日々成長していることを痛感し
るところである。

若き隊員は優れた吸収力と未
知の可能性を秘めており、これ
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

中国管区機動隊大隊長
年頭に寄せて

新年明けましておめでとうござ
いませう。

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム真理教による地下鉄サリ
ン事件等、まさに機動隊の集団
警備力が必要とされた一年であ
った。

わが隊にあっても、三度にわた
る兵庫県下における災害警備
出動をはじめ、広島県での植樹
祭警備等、そして昨年の最大
の警備と言われたAPEC大阪
会議警備に出動し、また、
管内内における行幸警備等と
、菅区機動隊の真価が問われ
る多忙な年であった。

これら特別派遣において、目
的達成に向け、全隊員が一丸と
なり、きびきびと、深刻と
任務を遂行する姿を見るにつ
け、誠に頼もしく、隊員個々が
日々成長していることを痛感し
るところである。

若き隊員は優れた吸収力と未
知の可能性を秘めており、これ
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

中国管区機動隊大隊長
年頭に寄せて

新年明けましておめでとうござ
いませう。

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム真理教による地下鉄サリ
ン事件等、まさに機動隊の集団
警備力が必要とされた一年であ
った。

わが隊にあっても、三度にわた
る兵庫県下における災害警備
出動をはじめ、広島県での植樹
祭警備等、そして昨年の最大
の警備と言われたAPEC大阪
会議警備に出動し、また、
管内内における行幸警備等と
、菅区機動隊の真価が問われ
る多忙な年であった。

これら特別派遣において、目
的達成に向け、全隊員が一丸と
なり、きびきびと、深刻と
任務を遂行する姿を見るにつ
け、誠に頼もしく、隊員個々が
日々成長していることを痛感し
るところである。

若き隊員は優れた吸収力と未
知の可能性を秘めており、これ
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

中国管区機動隊大隊長
年頭に寄せて

新年明けましておめでとうござ
いませう。

昨年は、阪神・淡路大震災、
オウム真理教による地下鉄サリ
ン事件等、まさに機動隊の集団
警備力が必要とされた一年であ
った。

わが隊にあっても、三度にわた
る兵庫県下における災害警備
出動をはじめ、広島県での植樹
祭警備等、そして昨年の最大
の警備と言われたAPEC大阪
会議警備に出動し、また、
管内内における行幸警備等と
、菅区機動隊の真価が問われ
る多忙な年であった。

これら特別派遣において、目
的達成に向け、全隊員が一丸と
なり、きびきびと、深刻と
任務を遂行する姿を見るにつ
け、誠に頼もしく、隊員個々が
日々成長していることを痛感し
るところである。

若き隊員は優れた吸収力と未
知の可能性を秘めており、これ
を最大限に引き出した隊員個
々の能力向上を目指すとともに、
菅区機動隊として有事に際して
力を十分に発揮できる精強な部
隊づくりに努力していきたい。

を経験しました。息子のようない隊員と起居を共にし、警備現場や訓練で汗を流し、若さを取り戻した一年でした。

警備活動が終わる度に、「諸君は出動の度に心に強く、そして遅くもなっている」と偉そうに訓示をしましたが、本当は、若い隊員から教えられることが多く、旧隊員から新隊員に引き継がれていく警備の伝統が根づいているなど、改めて感じました。

警備隊員は、大いなる可能性を有する若い時期に隊員になります。その大切な期間を平々凡々と無為に過ごすことなく、友との友情を育み、体力を鍛え、技術を錬磨し、逞しい機動隊員として成長する必要があると思います。そして、何年経っても、充実したこの青春の一時期を懐かしく思い出せるような、そんな中国管区機動隊を作りたいと思います。

四国管区機動隊大隊長 年頭所感



多賀 憲司

昨年は「阪神・淡路大震災」「地下鉄サリン事件」等の重大事件が連続し、十一月には「APCC大阪会議」が開催され、全国的に機動隊の存在を通じて活躍し、機動隊の存在を全国に示した年であり、四国管区機動隊も、全国の隊友同様、合計八回の特別派遣に恵まれるなど、充実した一年であった。

近年、管区機動隊の活動が日常的に行われ、その範囲も全国的に拡大されているが、昨年発生した事案の中には、われわれ

れの想像の範囲をはるかに越え、従来の警備手法では十分に対処出来ない事案も散見されている。これからの機動隊には、「見えるざる敵」「想像を絶する事案」に対する分析力、想像力を身に付け、適切に対処する能力を備えることが要求される。

四国管区機動隊の課題として、柔軟な発想と創意工夫により、「想像力」分析力を備えた部隊作りを掲げて努力したい。



渡辺 政則

阪神・淡路大震災の災害警備に始まった昨年は、全国的にも重大な事件事故等が多発した。北海道においても、函館空港で全日空機ハイジャック事件が発生し、強行突入により事件の解決を図ることが出来た。

「機動隊」の存在意義、あるいは重要な訓練をはじめ、事前準備の重要性について再認識させられた一年でもあった。

ところで、機動隊といえは集団警備力ということで運用が図られてきたように思う。しかし、現下の警察事案や、警察組織の現状を考えると、集団警備力というものに加え、各隊員が一警察官として、十分に職務執行が出来るようにすることが、喫緊の課題であると思う。

そこで、昨年は、当隊では一線警察署の警察力の不足をカバーしながら、隊員の実務能力の向上を図ることを目的として、札幌市内の警察署を中心に、「遊撃支援活動」を積極的に実施した。その内容も、オウム真理教対策のための多目的検閲、連続犯のコンビニエンスストアへ被害にかかる特因強盗事件への張り込み捜査、カジノバへの強制捜査支援、交通死亡事故多発に伴う交通取締り等々の活動を実施した。

活動に際しては、徹底した事前教育を実施し、各隊員が自信をもって仕事出来るようにしたつもりであるが、必ずしも十分でないと思っている。

二十世紀もあと四年を残すばかりとなり、日本全体が大きく変動する中、今、機動隊に求められているものは、警備部隊としての活動能力はもろろんのこと、これに加えて、個人としてのあらゆる警察事案を迅速、的確に処理出来る能力である。

本年も、各方面から必要とされ、頼りにされる「力ある機動隊」を目指し、一歩、一歩着実に前進したいものである。



佐藤 正機

昨年は全国の機動隊が、予想だになかった災害や事件に遭遇したことが、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮し、多くの国民の方々から絶大な信頼と期待を受けることができた。このことは、長い間、伝承されてきた技術と日頃の訓練の賜であります。

国民の方々は、本当にいざという場合の機動隊の重要性を改めて認識した一年ではなかったかと思っております。

さて、本年も国民の方々から機動隊に対し多くの期待が寄せられることになろうかと思えます。これまでの経験から「他人から押さえて」は力を発揮するに過ぎない。自らの汗と涙で得た技術を自らの道を開いてくれる。隊員が最後には自らを助ける。部隊としての力を発揮する。このことを肝に銘じて、本年は、「訓練」と「努力」を合言葉に国民の期待に十二分に応えて行くつもりであります。

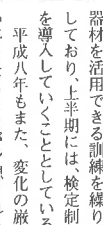


千葉 俊夫

わが隊の隊員は「強く、明るく、頼もしい」機動隊であるが、本年はさらに「尊敬される」を加え隊員一同決意を新たに「頑

張ろう」としたところである。所属に昇格して十八年目、全国一の小規模部隊であるが、シンボルマーク「岩手大地の虎」のもと、まさに岩手県警察の「トラ」の二、部隊として各分野で活躍・成果をあげている。

今、隊員は「もう一歩頑張ろう」という合い言葉で「ツアアップ運動」を展開し、全隊員が実務能力向上を目指して目標を設定し、取り組み中である。とりわけ広域緊急援助隊は、何時でも、どこでも、誰でもが装備資器材を活用できる訓練を繰り返しており、上半期には、検定制度を導入していくこととしている。

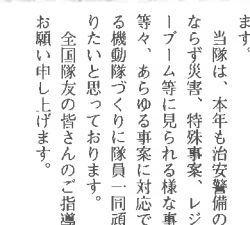


本田 量太郎

昨年は、阪神・淡路大震災の災害活動にはじまり、警察におけるとは、経験のない事案等も発生し、世界で最も治安が安定している日本が、国際的に不安がられた年であったようにも思えます。

しかし、APCC大阪会議においては、全国警察の威信にかけた警備により、満足した完全警備であったと警備に参加した一人として胸を張り、国際的に誇れることを嬉しく思っております。

当隊は、本年も治安警備のみならず災害、特殊事案、レジャーブーム等に見られる様な事案等々、あらゆる事案に対応できる機動隊づくりに隊員一同頑張りたいと思っております。

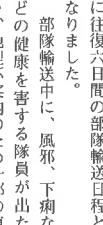


川口 絃司

お願い申し上げます。

民の機動隊に対する期待の内容に大きな変化が生じてきたように思われる。すなわち、国民の生命、身体、財産の保護にかかわるあらゆる場面において、機動隊の出動を期待する風潮が強まってきたというのである。

そしてこれこそ、これまでの既成概念を超えたスーパーマン的な活躍を期待する内容となつていようと思えてならない。



安島 隆雄

このように時勢が、機動隊に身を置くことができることを人の生への無上の喜びとし、国民の求めるところに、期待に十分に応えられる機動隊作り（運営）に微力ながら力を尽くして参りたい。

「強靱で心から信頼される機動隊」、それは我々機動隊員にとつては永年の目標である。そのため多くの先輩方が血を流し、汗を流してこられた。

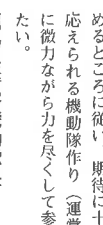
この血と汗とで築いてきた治安を守る最後の砦としての使命、感、旺盛な士気、不屈の精神は今や我々が隊にしっかりと根をおろした伝統であり、誇りである。我々はこの伝統をしっかりと継承し、更にたくましく育て、後進に確実に引き継ぎ、我々にとつて極めて厳しいものがある。しかし、たゆまぬ訓練によって、剣道の教えにある「四戒」をなげき、備えの万全を期さなければならぬ。

「情熱」「忍耐」「剛健」のわが隊訓のもとで、永年の目標に向かつて限りなく前進を続けたいと思う。私の好きな言葉に「知行合一」がある。

情報化時代という言葉が慣用化し、ともすれば、評論、理屈が先行しがちな昨今、我々が必要とするのは、行動の中に真理を求め、行動実践こそが第一である。この精神こそ機動隊魂と直結するものである。古き伝統を守るとともに、新たな伝

統を作るため汗を流したいものである。

警視庁第一機動隊長 この道



吉崎 良宏

警視庁機動隊は、警視庁予備隊として創設されて以来今年で四十八周年を迎える。そして我が第一機動隊は、その前身である「特別警備隊」にさかのぼり、昭和八年の創設から数えて六十三年になる。この間、動乱混迷として激動の時代にあつて、ひたすら治安維持のために血と汗と涙を流して来た。まさに歴史と伝統を感じるところである。昨年、いかなる事態にも対応できるための強靱な体力、不撓不屈の精神力を養うと共に、高度な警備技術を修得し、有事に備えるところにある。

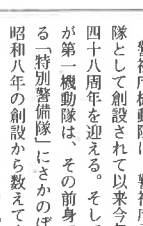
機動隊の持つ使命は大きい。特に予備隊大規模事案の対応には不可欠の存在である。そしていかなる事態にも勇猛果敢、的確に対処する高度の知識技能を、強い精神力を保持していくことが強く要求される。

「強い機動隊」、それは平時から先を見据え育成する努力を継続する以外方法はない。

隊員の結婚披露宴のフィナーレで披露される「この道」、私も隊員の仲間入りをして大声で合唱する。参列の方々から「素晴らしい若者たち」「機動隊が素晴らしい」等の賛辞を頂く。この時、自分がこの若者達と共にいる喜びと、機動隊やこの若者達に大きな責任を負っていることに思いを新たに、震えるような感激と感動を覚えるのは私一人であろうか。今年も「頼りになる機動隊」になるために隊員共々頑張っていきたい。

本年も全ての治安が昨年の延長線上にあり、然る、諸情勢は極めて厳しく様々な事案の発生が懸念される。

警視庁第二機動隊長 警備訓練と武道の奨励



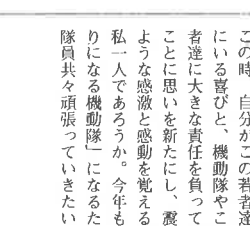
清家 春夫

警視庁第二機動隊は昭和二十五年九月第七方面予備隊として創設されて以来、本年で四十六周年を迎える。この間、諸先輩達は浅間山莊事件警備を始め多くの重要警備等に従事し、血と汗を流しながら幾多の苦難を乗り越え、警備部隊の中核として首の治安維持の重責を全うしてこられた。

機動隊の歴史は、警備訓練と警察武道の発展の歴史でもありますが、これら訓練の目的は、何時、いかなる事態にも対応できるための強靱な体力、不撓不屈の精神力を養うと共に、高度な警備技術を修得し、有事に備えるところにある。

機動隊は強い職務執行を行い、勇敢に実力を行使するために、全隊員が個々に資質の向上を図り、全体としての組織の水準を高めていかなくてはなりません。本年もより厳しい治安情勢が続くものと予想されますが、我々は何時、いかなる事態にも対応できるように、決意を新たに一人ひとりが警備訓練と警察武道に励みながら、心身の鍛錬と技術の向上に努め、より精強な組織づくりに邁進したいと思ひます。

警視庁第三機動隊長 治にいて乱を忘れず



松尾 昭洋

昨年は新年早々、阪神・淡路大震災、衝撃的な前代未聞のオウム真理教関連事件など未曾有の警備が続き、当隊もその活動の一翼を担った。かくして我々は機動隊の合言葉である「治にいて乱を忘れず」を身を持って体験し意味の深さを実感したのである。

本年も全ての治安が昨年の延長線上にあり、然る、諸情勢は極めて厳しく様々な事案の発生が懸念される。

従って寸暇を惜しんだ柔剣道などによる体力、気力の錬磨は無論のこと、次々と開発される装備資器材の活用、技能の習得など、全隊員がいかなる事態に遭遇しようとも冷静的確に対応できるように教養訓練の強化に努めた。

また、特に幹部は全隊員の平均年齢が二十八歳という警視庁の将来を担う無限の可能性を秘めた前途有望な集団であることに思いを馳せ、親身になって昇任試験対策、各種技能の習得などの指導教養を強化し、その目標達成の為、協力助言を惜しまない。

機動隊が集団警備力と治安の要としての評価のみならず警察学校に次ぐ第二、第三の成年警察官の育成の場としての存在価値を更に高めていきたい。

警視庁第四機動隊長 池田 道彦

「仕事を通じて人間の絆を作ろう」「仕事を全力で厳しく、且つ、明るさを忘れずに」をモットーとしている。隊員の諸君にも随分浸透しているものと自負している。隊員の多くが二十代であり、学び、鍛え、若るる時期にある。安逸な風潮の中では、学び、鍛え、蓄えることに集中するのは苦しいことに違いない。しかし、苦しいからこそ達成した時の喜びが清々しく、そして大きい。前向きに取り組むからこそ悩まも生じる。

隊員の一人ひとりが、確固とした目標を持ち、失敗を恐れず前向きに取り組むこと、それは、隊全体が伸びようとしている証でもある。機動隊の魅力は何と云っても「若さ」と「強さ」を備えた個々の隊員の目標と、隊組織の目的が一致していることにある。隊員が学ぶこと、鍛えること、修養して蓄える場としてこそ機動隊はある。

「一年の計は盤を樹るに如くはなし。終身の計は人を樹るに如くはなし。」(管氏)

多面的な警備活動が要求されている。機動隊には、時代の要請に応え得る、精強且柔軟な組織、人材を備えることが求められている。長期の交戦野に立つた人づくり、組織づくりに向けた意志と知恵が必要とされている。活き活きとした我が隊員と共に、魅力ある第五機動隊の一層の充実と発展のため、不断の努力を続けていきたい。

警視庁第六機動隊長 自己研鑽 北崎 健二

平成七年は「阪神・淡路大震災」「オウム真理教に係る一連の事件」「APEC大阪会議」等々全国的機動隊が活動する場面が多岐にわたった年である。今年も、何時・何処・何が起るかを予測できない情勢にあると思う。

我が機動隊員は、何時・如何なる任務を付与されても、その目的を達成しなければならぬ。任務の完遂は、従事する部隊全員がその内容を完全に理解し、それぞれの立場で工夫をこらし、真剣に取り組んでこそ成しえるものである。

その為には平素から「自己研鑽」に努めることが肝要である。機動隊員としては、法に基づいた強執行力が必要であり、〇訓練の強化

今年、我が第六機動隊の隊員は、わが第六機動隊の隊員を以て「強く」「頼もしく」を目指し、隊員と共に努力し、「機動隊は、治安のバックボーン」であるとの信念を持って、国民の期待に応え得る機動隊でありたいと思う。

警視庁第七機動隊長 伝統と創造力 釜野 郁夫

わが第七機動隊は、七十年代前半の最盛期に「若獅子の七機」の名のもとに誕生。首都治安の要として歴史に残る幾多の大警備を乗り越え、この一月で創設二十七周年を迎えた。

この間、歴代の先輩が汗と涙と努力を傾け、今日の輝かしい歴史と伝統を築きあげてきた。昨年は阪神・淡路大震災警備からオウム事件捜査支援、天皇皇后陛下の行幸警備、APEC警備等、全国を駆け巡り、極めて多岐にわたる一年であった。

機動隊の使命は、いつの時代いかなる状況においても「不変」であり、治安の根幹にかかわる重大な警備事項は勿論、通常の警察力では対処し得ない事態に「機動力」を持ってこれを早期に鎮圧、収拾、解決していくことである。

そのような存在としての機動隊ではあるが、時代の要請、国民意識の多様化、社会の国際化、複雑化の中にあつて、機動隊を取り巻く環境や警備事業、機動隊自体を構成する隊員の意識の変化等もまた多岐にわたる事実である。

我が第七機動隊は、先人が築きあげた「伝統」の確固たる基盤の上に更なる飛躍を目指し、今後いかなる困難に臨み、事態に直面しようとも、柔軟かつ迅速、的確に対応できる「実力部隊」としての自覚と誇りを持ち、任務を達成しなければならぬ。その為には、隊長以下隊員の一人ひとりが、より一層の「創造力」を発揮し、その「伝統」と「創造力」の力を以て国民の期待に応えるべく、全力を傾注する覚悟である。

警視庁第八機動隊長 平成八年を迎えて 高尾 弘

新年あけましておめでとうございませう。昨年は、年初からの阪神・淡路大震災警備、地下鉄サリン事件等オウム真理教にからむ警備警備、全日空機ハイジャック事件、宮崎県下での全国豊か海づくり大会警備、APEC大阪会議に伴う警備など、多種多様な重要警備が連続し、まさに「常任戦隊」の日々であったが、その任を完遂することができた。

今年、我が「国策」米国大統領の来日警備や植樹祭に伴う警備が予定されている他、総選挙も取り沙汰されている。順に厳しき年になることが予想されるが、隊員一同、一九九一年に成るべく、ご発展を心から祈り申し上げます。

警視庁第九機動隊長 素晴らしい若者 加藤 芳文

明けましておめでとうございませう。昨年は機動隊に於いても、多岐多岐な年でありましたが、隊員の皆様の温かい励ましを頂き、お陰様で何とか乗り切ることが出来、誠に有り難うございませう。

博報堂生活総合研究所の調査によると、日本の若者たちの特徴は、無理しない、我慢しない、対立しない、自然体でかつの生意気な若者とは違ふ、いわゆる「良い子」であるという。

機動隊も、若者の集団である。入隊間もない隊員にはこの傾向を垣間見ることもあるが、月日を経ると自分の時間を削って訓練をするなど、少し無理をするようになる。そして、何目標を達成した時の人生の感動を知り、苦しさや罵声を浴びせられた時などの怒りをじっと我慢できるようになる。

時には積極的な何かやうという善と善のぶつかりあいの対立が生まれ、仲間や他人の痛みを気にするようになる。そして、いつまでも何にでも即対応出来る心身共に強さを内に秘めた自然体になって行く。そんな若者の成長の姿を見るにつけ「何があっても大丈夫」と意を強くすると共に、この素晴らしい若者と共に仕事が出来ることが無上の喜びである。今年も隊員の皆様のはじめ皆様の励ましを心の糧として、「頼りにする機動隊づくり」を目指して、共に汗を流していきたいと心に誓うものであります。

皆様のご健勝、ご発展を心から祈り申し上げます。

警視庁特科車両隊長 年頭所感 田村 肇

昨年は、年初から阪神・淡路大震災の発生や、その後オウム真理教に関わる一連の凶悪事件の発生、発覚、そして銃器犯罪や外国人犯罪の増加など、まさに「激動の年」という表現に相応しい異例の一年でありました。

今年もまた、不安定な政局と長引く経済不況を背景に、治安情勢は更に厳しさを増していくものと思われまふ。何が起るか予想困難な危機的要素をばらまいて、いとも過言ではあありません。こうした今日の状況に於いて我々機動隊員は、「治安の閉止」として、いかなる事態をも正面からしつかりと受け止める、誤りなくさばくことの出来る実力を養っていかねばならない。激動の日々はやがてまたやってくるであろう。その時には更に強靱な組織を以て役に立てよう、日夜努力しての所存であります。

茨城県警察機動隊長 精強な部隊の育成 宮下 秀一

昨年は未曾有の阪神・淡路大震災、オウム真理教関連連発、APEC開催に伴う大規模警備等々、機動隊にとって正に激動の一年であり、機動隊が有する集団警備力と専門的技術の真価が問われた年でありました。特に、阪神・淡路大震災、オウム真理教関連連発は我々の予想を超え、「安全な国、日本」という国民の評価、信頼を揺るがし、かつて我々の経験もしえない困難な時代の到来を認識しづけるものでありました。

こうした情勢の中において、機動隊があらゆる事態に即応出来る集団警備力としての存在意義を十分に発揮するためには、強靱に於いて精強な部隊づくりが緊急の課題となっております。

従って、国民の期待する治安維持に真に添えてゆくため、〇起り得るすべての事実を想定した訓練

〇機能即部隊の充実強化

〇有事即応態勢の確立と実戦的訓練

等、効果的かつ実効性のある訓練を行い、また、部隊を有機的に機能させるため、その部隊に血を注ぎ、「治安のプロ」としての指揮官の育成と指揮能力の向上を図るとともに、隊員相互間の連携を深めながら、危機管理意識の醸成及び隊員の指導教養の徹底を期して、精強な部隊の育成を目指してゆく所存であります。

栃木県警察機動隊長 阪神・淡路大震災を振り返り 竹原 正義

明けましておめでとうございませう。皆様には、ご健勝のうちに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年二月、機動隊の隊長として、おりしも「阪神・淡路大震災」発生直後の赴任となりました。世界中の人々を驚かせた第一級の地震災害でありました。

しかも、先進国の中でも特に耐震対策の進んでいるハイテク国家、日本の大都市である神戸を中心に発生したものであるだけに全世界を震撼させることとなりました。

これは私たちが、経験したことのない大惨事である。県警にも出動要請は必ずくるであろうと直感した我が隊では、即刻出動準備に取り掛かりました。

我が隊の出動は、一月二十一日夜から三回延べ二十九日間、延べ五八四名であったが、劣悪な勤務条件にもかかわらず、立派に任務を達成した多くの市民に感謝されたのである。

今回の出動によって隊員は、得たい多くの教訓を学ぶことができた。これらの人生に大いに役立つものと信じるところである。

また、今次災害を「他山の石」として、有事即応態勢の確立に努め、機動隊の装備、訓練状況の再点検、真に実効性のある災害警備訓練計画等の策定を行うなど、危機管理の徹底を図りたい所存であります。

なお、昨年は、皇太子同妃殿下の御用邸並びに御料牧場御滞在に伴いまして三回、延べ十八日間わたるお泊まり所として御官邸を賜るなど多岐にわたる名譽ある年でもありました。

群馬県警察機動隊長 隊員を鑑として 大澤 博

イチ、イチ、イチ、イチ、ソリー、今日も隊員の元気、深淵とした、しかも気合いの入った頼もしい掛け声が隊員から聞えてくる。機動隊には、アクアラング、レンジャー、爆発物の処理等々代表されるような常に危険と隣り合わせの仕事が待っている。しかも、これらの任務を遂行するに当たっては、常に高度な専門的な知識及び技術と強靱な精神力が要求される。また、一朝有事の際には、いかなる困難な条件下においても、これを迅速的確に処理しなければならぬ。

従って、機動隊は、常にプロ集団としての存在意義が強く要求されることである。

現代は、まさに不透明、不確実な時代と言われ阪神・淡路大震災やオウム真理教による地下鉄サリン事件にみられるように、いつ、どこで、どんな事故が突然発生するかと全く予測がつかないところである。

このため、近時、機動隊のあり方が改めて問われているところであるが、このような時代背景の中にあつて、より高度に機動的な活動できるような環境づくりと隊員間のチームワークを醸成することが何よりも増して肝要である。当隊においては、隊

員全員が柔道、剣道、けん銃、駅伝といった術科の指名選手である。いずれも個性豊かな強者ばかりであるが、明るい職場環境こそ自主性や創造性を育み、プロとしての集団を作る原点と考えらる。

本年も、警備情勢は昨年にも増して大変厳しいものがあるが、先人が営々と築いてきた機動隊の伝統を汚すことのないよう、隊訓である「融和団結」「創意練成」「有事即応」を鑑とし県民から期待され信頼される機動隊に優れた「真のプロ集団」を育成すべく努力していききたいと考える。

埼玉県警察機動隊長 成田 定昭



成田 定昭

十五年ぶりに機動隊勤務となり、感ずることは、当時と現在の機動隊とは、業務面において大きく変わっていることである。

当時の機動隊の業務の大半は、成田現地闘争をはじめとした各種治安警備であった。

現在は、警備情勢も大きく変わり、警察業務全般の中で「部隊活動を要する業務」「特殊な技術・装備を活用して対処する業務」が主である。

国際化社会の進展等により、今後益々複雑多様化する治安情勢の中で、我々機動隊の任務は一段と重要となり、その責務を全うするためには、実戦的訓練の徹底が必要不可欠である。具体的な案を想定し、指揮官は指揮官として、隊員は隊員としての「現場で動ける」実戦的な訓練を徹底して能力を高め、指揮官はもとより、隊員個々が「自己の判断で的確に対処する」判断力、決断力を習得することが大事である。

すなわち、出勤が予想される各種事案の中で多くの部隊員の一員としてではなく、警察官個人として瞬時に判断し、決断・実行しなけりばならない場面も時としてあるものと思われるか

らである。「現場で動ける」実戦的訓練に励み「頼りになり、あてになる機動隊」として頑張っていきたい。

新東京国際空港警備隊長 決意新たに

昨年、成田空港をとりまく情勢は「成田空港地域共生委員会」が発足、更に小川グループの一部同盟による闘争終結宣言や、「梅の木共有地（二坪共有地）」の空港公園への売却など、空港問題の解消に期待を抱かせる動きが相次いだ一年でありました。



鈴木 康久

「現場で動ける」実戦的訓練に励み「頼りになり、あてになる機動隊」として頑張っていきたい。

昨年の成田空港をとりまく情勢は「成田空港地域共生委員会」が発足、更に小川グループの一部同盟による闘争終結宣言や、「梅の木共有地（二坪共有地）」の空港公園への売却など、空港問題の解消に期待を抱かせる動きが相次いだ一年でありました。

しかしながら、極左暴力集団各派はこれらの一連の動きに対して一層の危機感・焦燥感を募らせて、過激発言を強めております。

このような情勢下にあつて我々は、空港警備隊の使命である「空港の安全と平穏」を確保するために、隊員一人ひとりと与えられた任務を忠実に遂行しているところであります。

本年も、これまで先陣が築き上げた伝統を堅持し、空港警備隊の隊訓にあつて

〇融和団結
〇積極果敢
〇不撓不屈

の下、「決意新たに」全国からの特別出向隊員とともに、一五〇名が一丸となって「空港の安全確保」のために頑張っていく覚悟であります。

千葉県警察第二機動隊長 「激動の一年を振り返る」

阪神・淡路大震災は、今振り返ってみるとその後の一年を象徴する「序章」的な突発的重大事案であった。以後、地下鉄サリン事件、長官狙撃事件、銃器使用凶悪事件等、連続的に日本警察の根幹を揺るがす重大事件



田中 榮作

が相次ぐこととなった。我が第一機動隊もこうした厳しい情勢に連動して、一時たりとも手を緩めることのない成田警備に加え、オウム関連施設への捜索差押作業の補充、さらに主要鉄道駅等での警戒警備に従事することとなったが、オウム犯人の検挙はもとより、とにかく多くの市民のオウムに対する不安感を払拭し、安全で平穏な市民生活の確保を強く願って懸命にそして全力を挙げて警戒に当たった隊員の姿を思い出す。オウムによる一連の凶悪事件は、全容解明に向け大きく前進しているが、さらに新手法の凶悪犯罪の発生も今後十分に予想されることである。これらに迅速・的確に対処し得るよう普段からしっかりと足腰を鍛えておきたいと思う。

一方、昨年十一月にはAPEC大阪合議開催に伴い、我が千葉県警察機動隊が実に二十三年振りに他県に特別派遣されたが、全国から一万余の派遣部隊員共々、名誉ある大警備に従事し貴重な経験を積むことができた。さらに日頃の成田警備への全国警察からの支援に対し、ささやかではあるが恩返しにできたのではないかと自負しているところである。

この激動の一年を振り返る時、機動隊がいかに「警察力の伝家の宝刀」たるに相応しいかをいまでも再認識をさせられたが、我々はこのことに驕ることなく、かかる事案には一丸となつて誠実に全力で対処していきたいと思ふ。

千葉県警察第二機動隊長 年頭にあたり

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方には輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平素は、機動隊の活動にご支援協力をお願い深く感謝を申し上げます。昨年は、混迷する政治情勢の

もとで参議院選挙が行われたり、東京都と大阪府では無党派層の新しい知事が誕生しました。また、経済的にも、景気は停滞期からの明らかな上昇がみられ、大震災「サリン」「オウム」「長官狙撃」「ハイジャック」等世界的にも注目された事件が発生し、一方でAPECの大警備もあり、まさに機動隊にとって激動の一年でありました。全国の機動隊が、これほどまでに駅頭等へ出て国民の身近で活躍し、注目され、感謝された年はなかったことと感謝します。

本年も、揺れ動く政治・経済の諸情勢の下でクリントン米大統領の来日警備をはじめ、オウム特別手配者の追跡捜査、あるいは、認識を超えた新型犯罪の発生も予想されることである。引き続き厳しい治安情勢の中で多忙な年となりそうであり

ます。当隊では、情勢の変化に迅速に対応する装備資材の整備を図るとともに、日々の訓練を怠ることなく、気力・体力・知力の錬磨に励み「県民生活の安全確保」のため、全隊員が機動隊のスペシャリストとして、皆様方の期待と信頼に応えられるよう努めなけりばならないと決意を新たにしているところであります。

千葉県警察第三機動隊長 強く逞しい機動隊を目指して

昨年一年を振り返ると、経済の低迷が続き、治安的には阪神・淡路大震災、オウム真理教事件、あるいは銃器使用犯罪の多発など、悲しく苦しい出来事が多い年であった。

二十一年世紀に向かい一段と厳しさを増すであろう治安情勢は、まさに「霜を履いて堅氷に至る」の思いを一層深め、このような時代にこそ、全隊員が気持を奮い立たせ、何時代にかん事態において「治安の要」としてその崇高な職責を全うできるように一層の研鑽に努めなければならぬことを痛感した年でもあった。

当隊の出動も、兵庫、山梨、長野、新潟、富山そして大阪と広範囲に及び、また、その出動回数を著しく増した。出動の折々に実感したことは、集団警備力の中核部隊として誕生した機動隊も、特殊な技能・専門技術、装備資材等による、いわゆる機能別部隊の充実強化がまさに時代の要請であったこと。更に、有事即応態勢の確立が再認識された年であった。

機動隊に対する内外の期待は、ますます高まるばかりである。何時どのような要請にも応えらるる切れ味のよい正義の剣。機動隊づくりは、不断の訓練努力と「砥石」にかけられることによつてのみ実現可能であると確信する。先ず自己が、そして隊員と共に。

神奈川警察第二機動隊長 年頭所感

機動隊に就任して、まもなく一年になつております。もともとが、若く多くの隊員の優秀さに、驚きの毎日です。この機動隊でも同じだと思いますが、当隊の私以下全隊員の平均年齢は二十六・九歳で、隊員のみでは二十四・五歳です。警察全体の高齢化が進むなかあつて、機動隊は極めて若い警察官の集まりであり、彼らの優秀さは格別であり、彼らのようにより警察の自慢でもあります。

機動隊は、機動隊の持つ「集団警備力」、機能別部隊の持つ「特殊技術」といった持味を生かした現場で出しかつて、何にでも即応し、県民のために忠実に職務を全うしております。

若くは、自分や国の将来などは全く考えず、その日の快楽のみを求めて生活しているような苦勞を知らない若者が溢れているなかで、彼らはちゃんと自分の考えをもち、厳しい勤務にも愚痴もこぼさず頑張っており、その姿に頭の下がる思いです。そして、数多くの出動の度に、一歩ずつ確実に成長しているのが肌で感じられます。二十年、三十年後の日本の治安維持を担う、この若き隊員が色々な経験を積んで更に成長することを願うと同時に、その手助けをするのが私の任務との信念で、本年も頑張るつもりです。

この若き隊員に対し、本年も励まして隊員の皆様のご理解とご指導を切にお願い申し上げます。

新潟県警察機動隊長 持ち味を生かして

昨年、災害警備年でした。阪神・淡路大震災被災地への応援出動に始まり、新潟県内でも四月一日の県北部地震、七月中旬から八月にかけての上越地方を中心とした大水害と、隊を率へての災害警備に追われ、アツという間に一年が過ぎてしまった感じがします。

隊員は、不眠不休の勤務にも愚痴一つこぼさず、黙々と任務を遂行してくれました。

集団警備力を誇る機動隊の持ち味を生かし、出動現場ごとに工夫を凝らした活動をしてください。

よく入はさまざま、十人十色といわれるように、その持ち味はさまざまです。

警察組織も「治安を守る」という目的は同じでも、実現過程の戦術はさまざまで、各々の持ち味を生かした取り組みをしていきます。

機動隊は、機動隊の持つ「集団警備力」、機能別部隊の持つ「特殊技術」といった持味を生かした現場で出しかつて、何にでも即応し、県民のために忠実に職務を全うしております。

若くは、自分や国の将来などは全く考えず、その日の快楽のみを求めて生活しているような苦勞を知らない若者が溢れているなかで、彼らはちゃんと自分の考えをもち、厳しい勤務にも愚痴もこぼさず頑張っており、その姿に頭の下がる思いです。そして、数多くの出動の度に、一歩ずつ確実に成長しているのが肌で感じられます。二十年、三十年後の日本の治安維持を担う、この若き隊員が色々な経験を積んで更に成長することを願うと同時に、その手助けをするのが私の任務との信念で、本年も頑張るつもりです。

この若き隊員に対し、本年も励まして隊員の皆様のご理解とご指導を切にお願い申し上げます。

新潟県警察機動隊長 持ち味を生かして

昨年、災害警備年でした。阪神・淡路大震災被災地への応援出動に始まり、新潟県内でも四月一日の県北部地震、七月中旬から八月にかけての上越地方を中心とした大水害と、隊を率へての災害警備に追われ、アツという間に一年が過ぎてしまった感じがします。

隊員は、不眠不休の勤務にも愚痴一つこぼさず、黙々と任務を遂行してくれました。

集団警備力を誇る機動隊の持ち味を生かし、出動現場ごとに工夫を凝らした活動をしてください。

よく入はさまざま、十人十色といわれるように、その持ち味はさまざまです。

警察組織も「治安を守る」という目的は同じでも、実現過程の戦術はさまざまで、各々の持ち味を生かした取り組みをしていきます。

機動隊は、機動隊の持つ「集団警備力」、機能別部隊の持つ「特殊技術」といった持味を生かした現場で出しかつて、何にでも即応し、県民のために忠実に職務を全うしております。

若くは、自分や国の将来などは全く考えず、その日の快楽のみを求めて生活しているような苦勞を知らない若者が溢れているなかで、彼らはちゃんと自分の考えをもち、厳しい勤務にも愚痴もこぼさず頑張っており、その姿に頭の下がる思いです。そして、数多くの出動の度に、一歩ずつ確実に成長しているのが肌で感じられます。二十年、三十年後の日本の治安維持を担う、この若き隊員が色々な経験を積んで更に成長することを願うと同時に、その手助けをするのが私の任務との信念で、本年も頑張るつもりです。

この若き隊員に対し、本年も励まして隊員の皆様のご理解とご指導を切にお願い申し上げます。

新潟県警察機動隊長 持ち味を生かして

昨年、災害警備年でした。阪神・淡路大震災被災地への応援出動に始まり、新潟県内でも四月一日の県北部地震、七月中旬から八月にかけての上越地方を中心とした大水害と、隊を率へての災害警備に追われ、アツという間に一年が過ぎてしまった感じがします。

隊員は、不眠不休の勤務にも愚痴一つこぼさず、黙々と任務を遂行してくれました。

集団警備力を誇る機動隊の持ち味を生かし、出動現場ごとに工夫を凝らした活動をしてください。

よく入はさまざま、十人十色といわれるように、その持ち味はさまざまです。

警察組織も「治安を守る」という目的は同じでも、実現過程の戦術はさまざまで、各々の持ち味を生かした取り組みをしていきます。

機動隊は、機動隊の持つ「集団警備力」、機能別部隊の持つ「特殊技術」といった持味を生かした現場で出しかつて、何にでも即応し、県民のために忠実に職務を全うしております。

若くは、自分や国の将来などは全く考えず、その日の快楽のみを求めて生活しているような苦勞を知らない若者が溢れているなかで、彼らはちゃんと自分の考えをもち、厳しい勤務にも愚痴もこぼさず頑張っており、その姿に頭の下がる思いです。そして、数多くの出動の度に、一歩ずつ確実に成長しているのが肌で感じられます。二十年、三十年後の日本の治安維持を担う、この若き隊員が色々な経験を積んで更に成長することを願うと同時に、その手助けをするのが私の任務との信念で、本年も頑張るつもりです。

この若き隊員に対し、本年も励まして隊員の皆様のご理解とご指導を切にお願い申し上げます。

新潟県警察機動隊長 持ち味を生かして

昨年、災害警備年でした。阪神・淡路大震災被災地への応援出動に始まり、新潟県内でも四月一日の県北部地震、七月中旬から八月にかけての上越地方を中心とした大水害と、隊を率へての災害警備に追われ、アツという間に一年が過ぎてしまった感じがします。

隊員は、不眠不休の勤務にも愚痴一つこぼさず、黙々と任務を遂行してくれました。

集団警備力を誇る機動隊の持ち味を生かし、出動現場ごとに工夫を凝らした活動をしてください。

と強くなる。全隊員が、我々なしでなれた機動機動力を、わじむやらねば誰かがや。そういう気概を持って、お互いに切磋琢磨し、限られた機動機動力を、極限の残らずにすべて完全燃焼してほしい。「機動隊で同金銭の鉦を食った」と言う仲間意識が今後の繁栄生での大きな財産となりかつ精神的に大きな支になることを信じて。

隊訓である「限りなき前進よき伝統を培うために」「知性を高めよう。使命に情熱と感激を高めよう。使命に情熱と感激を高めよう。堅固団結を誇ろう。」を念ひ言葉に、致知努め、さらに強い全部隊の育成に努めた。

をみて、頭の下がる思いであった。新隊員曰く「体重が二十キロ減った、懸垂三十、腕立て伏せ五十回は軽い」等々。入隊時には、ひ弱かった隊員が、短時間のうちに、精悍な一人前の運動隊員に育っていく。頼もしい限りである。

をモットーに、日々訓練に励んでいる。これは過去の貴重な教訓から導きだされたものであり、この伝統をさらに発展させ、後輩に引き継ぐ責任がある。

昨年は、部隊としてまとまった訓練ができない厳しい勤務条件下であったが、非番・公休日まで利用して、黙々と体力の錬

京都府警察機動隊長
知性、情熱、団結



岩上 國夫

我が隊は、精強な部隊を目指して「厳しく鍛え、温かく育て

に応えていきたい」と決意を新たにしております。

てメンタル部分とフィジカル部分を兼ね備えた精強な整備部隊の育成に努めたい。なお、かつ専門的知識、技能に基づく機能別スペシャリストに対し、技能の修練と研鑽・各種資器材の効果的活用方策に励んで新しい時代の要請に応える部隊づくりを推進し、県民の期待と信頼

大阪府警察第一機動隊長 年頭所感



河盛 進

新年あけましておめでとうございませう。APEC警備に

は、全国の警察の協力のもと、心から深く感謝いたします。おかげで無事に開催地としての責任を全うすることができました。

昨年は、機動隊の存在を力強く感じさせる様々な事態が発生し、文字通り、一年を過ごしたというのが実感です。多忙な年でしたが、この一年を、縁あってお互いに機動隊の一員として勤務していることに満足を感じています。

さて治安情勢は、年を追うごとに不透明さが増え、これまで想像もなかったような事態がいつ起きてもおかしくない時代へと確実に進行しています。この様な中であって、我々機動隊も、従来とは違った、さまざまな形態の部隊活動が要求されることとなります。

言うまでもなく機動隊は集団警備力が中心となりますが、結局、集団を構成する「人」ひとりの隊員の技量が部隊活動を左右すると言えます。「隊員一人ひとりが考え行動する」ことを目指し「一休感」「緊張感」「挑戦」を合い言葉に切磋琢磨していきたいと考えています。

大阪府警察第二機動隊長
新たな挑戦を！

昨年は、阪神・淡路大震災警備を皮切りに、オウム真理教による一連の事件に伴う警備等の諸活動、「APEC大阪会議」開催に伴う警備等が相次ぎ、歴史に残る重要な警備が相次ぎ、機動隊、管区機動隊にとつては正に試練の年でありました。

とりわけ「APEC大阪会議」開催に伴う警備等については、クリントン米大統領の突然の

来日中止は残念でありましたが、日本警察の威信をかけ、文字通り全国警察が一体となってこれに取り組み、所期の目的を見事に達成したのです。

国民にとつて、機動隊員の姿がこれほど頼もしく輝いて見えた年は、かつてなかったと思います。

一方私どもは実戦の警備現場から機動隊のあるべき姿など数々の課題と教訓を授けられました。

〇機動隊の使命は、いついかなる事態に直面しても迅速的確に対処し、その実力を備えた「プロ集団」であること。

〇活動の基礎は、国民の理解と協力と信頼にあること。これらのことは、平素当然のこととして考え、訓練に励んでいくつもりでしたが、生じた警備現場から改めてその重要性を教えられたのであります。

今年、私は自分自身もより隊員一同、従来にもまして効果的にかつ実戦的な訓練に励む心意気であるが、とりわけ訓練を通じて「日々学ぶ心」を養い、訓練効果を向上させ、如何なる事態の発生に際しても「拳銃一心堂々」の陣を張れるよう頑張りたいと念願している。

兵庫県警察機動隊長
大震災警備を体験して

昨年は阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件、全日空ハイジャック事件など、重大特異な事件が連続して発生し、我が兵庫県においては未曾有の大震災を体験し、全国の機動隊員等のご支援を得て、各種災害警備活動に従事してきたところでありましたが、隊員自身の多くが被災者であったという中であって、我が家族、我が家、我が親族を顧みず、寸刻を争う必死の救出救助活動に奔走した。

発生から三日間は正に戦場の如く、寝食を忘れ眠る暇もなく、余震が続き止まないガレキの中に入り、また倒壊マンションから助けを求める声を指して僅かの隙間にもぐり込み、強い余震があれば我が身もろともと思いつつの決死の救出救助活動であった。

ひたすら機動隊を發揮し汗と血と涙にまみれ黙々と救助活動に当たる隊員の姿をみて、心強く、誇らしげに感じたことはなかった。

数少ない資器材と人員で十分な活動ができず、全ての被災者の期待に応えられなかったのが残念であるが、隊員が一人となつて多くの被災者を極限状態の中で救出活動ができ、職責と使命感を果たせたという充実感と、何にもかえがたい貴重な体験と経験を得たことを、今後に活かしていきたい。

最後に、全国の機動隊員の献身的な温かいご支援に対しまして、衷心より厚くお礼を申し上げます。

奈良県警察機動隊長
年頭にあたり

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、兵庫県淡路島北部を震源として発生した「兵庫県南部地震」による阪神・淡路大震災災害派遣に始まり、オウム真理教関連事件、一斉捜索、APEC大阪会議警備等まさに進取の気概を持って事にあたったのであります。

警備部隊の中核として、どのような事態にも対応できる実力と、何事にも動じない訓練の積み重ねの重要性をひしひしと痛感した次第であります。

さて、本年も治安をめぐる諸情勢には、依然として厳しいものがあり、機動隊は、訓練による団結力と日頃の厳しい訓練によって培った不撓不屈の闘志と積極果敢なる行動によって、その任務を果たす決意であります。

現場へのパワースhiftは勿論のこと、隊員の更なるプロ化を促進するとともに、組織の力を最高度に発揮できるよう努力していきたい。

〇「和」をもって研鑽に努め、職務執行は「全力投球」の姿勢を堅持し、心新たに全隊員が一丸となって県民から信頼され、頼りにされるよう取り組んでいく決意であります。

和歌山県警察機動隊長
頼り甲斐のある部隊

昨年は、阪神・淡路大震災に始まり、APEC大阪会議の終了まで東西奔走し、一面、機動隊の存在価値が見直された年でもありました。

さて、今年、本県機動隊は昭和三十一年八月二十日に発隊して以来、満四十年を迎える節目の年であります。しかし、昨

の機動隊の出動状況を振り返りますと、従来の「動の警備」から、重防の警備、警備、警備、捜査活動の支援等個々を対象とした警戒警備に従事する「静の警備」が中心となつていくのが現状であります。

この様な時こそ「治にいて乱を忘れず」の心構えが強く要請されるもので、歴代諸先輩方の血と汗と涙と喜び等によって培われた機動隊訓練「誠実、融和、練成」をモットーに、今年の基本方針の重点を「集団警備力のプロ部隊の育成」として頑張る所存であります。

更に、今年、サブ重点を設定し、日常業務を通じての「隊員個々の実務能力の向上」に努めるとともに、機動隊員でなければできない任務、いわゆる機動隊の練度の向上と強化を図ることを加え、部内外から頼り甲斐のある部隊としての位置付けが得られるよう努力精進して行きます。

鳥取県警察機動隊長
年頭所感

新年明けましておめでとうございます。

平成八年の新春を迎え、「プロ集団」の機動隊として、隊員一同気分を新たにしております。

昨年夏のインターハイ警備警備におきましては、各府県から機動隊の皆様の応援をいただき、無事に終了できましたことを感謝申し上げます。

この警備活動は、阪神・淡路大震災警備活動に始まり、APEC警備活動まで本当に忙しかった一年でありましたが、機動隊の存在を強くアピールできた年であったと思います。

本隊では、〇「プロ」としての知識、技能の向上

〇一枚岩の団結の保持をモットーに隊員一同が一丸となつてまい進しており、アクアラング出動等において多くの成果をあげております。

本年も一層訓練を充実させ、県下最強部隊として実力を向上させていきたいと思います。

たいと考えております。

島根県警察機動隊長
年頭に思う

昨年は、県内の治安情勢は比較的平穏に推移したが、全国的には、重大、特異な事件が相次ぎ、APEC大阪会議の開催に伴う大警備もあつた。この様な情勢の中で機動隊員もこれらの事態に対する特別派遣を通じて、他の府県警察の「いところ」をいろいろ勉強して帰った。特別派遣で学んだ多くの事柄を、今後の訓練、出動に生かしていかなければならない。

「島根県警察」をひとりでとみると、古くは死者五七七名を出した明治五年の「浜田大地震」、近くは死者一七七名を出した昭和五十八年の「山陰豪雨災害」など、これまで幾多の自然災害に見舞われてきた。この数年比較的平穏に推移しているが、当県の治安情勢ではあるが、災害はいつ起こるか分からない。

当然でも各種災害警備対策の検討がなされ、「対応マニュアル」も策定され、必要な装備資器材も着々と整備されてきた。われわれ機動隊員は、特に阪神・淡路大震災で体験した教訓をもとに実戦的訓練を積み重ね、有事に備えなければならない。

今年も警備実施の中核部隊として集団警備力の充実策に努めるとともに、隊員の業務能力の習得、向上という観点もつ、県警察全体の実績挙揚のために機動隊は何をなすべきか、何ができるのかを考えながら、隊員と心を一つにして頑張っていきたい。

岡山県警察機動隊長
プロ集団としての力量アップ

新年明けましておめでとうございます。

昨年は阪神・淡路大震災警備に明け、そしてAPEC警備に暮れるという機動隊史の一ページを大きく飾る一年でありました。私自身も第一機動隊の大隊長として兩大警備に出動し、微力ながら心血を注ぎ、また数々の貴重な経験と教訓を得た年となりました。

迎えた本年は、昨年の経験と教訓を生かし、前例のないいかなる事態に対しても迅速、的確に対応し得る実力部隊の育成に当たるべき年であると思う。特に「広域緊急援助隊」についての練度向上と装備資器材の充実等その軌道化に努めなければならない。第二機動隊においては、昨年の現場で示した高い士気と練度を決して下げることなく、恒常的訓練等に取り組まなければならない。

また、サリン事件や函館ハイジャック事件等が示すとおり、専門的技術を備えたプロ集団への強化、充実を図っていくかねばならぬ。そのために、各種事件、事故の可能性を幅広く追求し、これらに対する研究と訓練を重ねていかなければならない。

不可能を可能にするのは「発明と訓練である」との格言に思いを致し、汗の匂いで結ばれた団結をもつて、県民に頼もしくと安心感を与え得る精強な機動隊づくりに邁進したいと考えている。

広島県警察機動隊長
年頭にあたり

明けましておめでとうございます。

平素は機動隊業務に深いご理解と暖かいご支援を頂いております。ことに厚くお礼申し上げます。

昨年は、年明けの阪神・淡路大震災に始まり、一連のオウム事件、ハイジャック、APEC警備等予想を超えた大事件、大警備の連続で、多事多難の年でした。

当県においては、震災に伴う兵庫県下の特別派遣、植樹祭および西宮市の慰霊の旅に伴う警備活動、APEC警備に伴う大阪府内の特別派遣等大警備の連続で、多忙ではありましたが活躍の場に恵まれ、機動隊としてまさに面目躍如の一年でした。

本年は、当県で「ひろしま国体」が開催されます。アジア大会、植樹祭に続いて、三年連続の大警備となりますが、これまでの警備を通じて蓄積した実力を十分に発揮して国体警備の万全を期したいと思っております。

ポスト国体にも思いを馳せ、平時でも役に立つ実務能力を兼ね備え、真に頼りがいのある機動隊の確立を目指して頑張る所存でございますので、励ます会の皆様の変なご指導ご指示を宜しくお願いいたします。

山口県警察機動隊長
年頭にあたり

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、年初から阪神・淡路大震災の災害警備、引き続き地下鉄サリン事件等を始めとするオウム真理教関係事件に伴う警戒警備、さらには十一月のAPEC警備活動に派遣活動など、機動隊としての職責を十二分に果たした意義ある一年であったと思えます。

また、これら活動を通じて末端隊員に至るまで「機動隊の機動隊たる所以は何か。」を改めて肌で感じた貴重な一年でもあったと思えます。

さて社会の変化は、機動隊の運営、訓練の在り方にも問題提起されています。以前に比べて警備事象は極端に減少しましたが、申すまでもなく機動隊の存在意義は、警備事象はもとより、暴力団犯罪、銃器犯罪等重要突発事象に対して、迅速的確に対処し得る集団警備力にあります。

ことに、機動隊も「レスキュー、レンジャー」等機動別部隊に対する出動要請は、今後ますます増加していくことが考えられます。

これら要請に応えるためには、隊員一人ひとりが「プロ集団」としての使命を認識するとともに、これまで使った多くの出動から学んだ反省、教訓を実戦に生かすことが重要であると思えます。

本年も治安情勢は依然として

厳しさを増しているところである。今年は、私自身はもとより隊員一同、従来にもまして効果的にかつ実戦的な訓練に励む心意気であるが、とりわけ訓練を通じて「日々学ぶ心」を養い、訓練効果を向上させ、如何なる事態の発生に際しても「拳銃一心堂々」の陣を張れるよう頑張りたいと念願している。

兵庫県警察機動隊長
大震災警備を体験して

昨年は阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件、全日空ハイジャック事件など、重大特異な事件が連続して発生し、我が兵庫県においては未曾有の大震災を体験し、全国の機動隊員等のご支援を得て、各種災害警備活動に従事してきたところでありましたが、隊員自身の多くが被災者であったという中であって、我が家族、我が家、我が親族を顧みず、寸刻を争う必死の救出救助活動に奔走した。

発生から三日間は正に戦場の如く、寝食を忘れ眠る暇もなく、余震が続き止まないガレキの中に入り、また倒壊マンションから助けを求める声を指して僅かの隙間にもぐり込み、強い余震があれば我が身もろともと思いつつの決死の救出救助活動であった。

ひたすら機動隊を發揮し汗と血と涙にまみれ黙々と救助活動に当たる隊員の姿をみて、心強く、誇らしげに感じたことはなかった。

数少ない資器材と人員で十分な活動ができず、全ての被災者の期待に応えられなかったのが残念であるが、隊員が一人となつて多くの被災者を極限状態の中で救出活動ができ、職責と使命感を果たせたという充実感と、何にもかえがたい貴重な体験と経験を得たことを、今後に活かしていきたい。

最後に、全国の機動隊員の献身的な温かいご支援に対しまして、衷心より厚くお礼を申し上げます。

奈良県警察機動隊長
年頭にあたり

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、兵庫県淡路島北部を震源として発生した「兵庫県南部地震」による阪神・淡路大震災災害派遣に始まり、オウム真理教関連事件、一斉捜索、APEC大阪会議警備等まさに進取の気概を持って事にあたったのであります。

助の現場において、機動隊員のマンパワーに加えて、現代科学技術を駆使したハイテク機材を備えていけば、より一層効果的な警察活動が展開できると思われる。

そのためには、現場で活動する隊員個々が、ニーズを的確に把握し、開発改善のための意見具申に努めることが大切である。アメリカ映画に出てくるロボコップタイプの機動隊員もあながち「夢」ではないと思う。



富永 義秋

年頭所感

護んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は、阪神・淡路大震災に伴う四回にわたる警戒警備出動をはじめ、大阪で開催されたAPEC警戒警備出動など、例年になく異例な特別派遣の多い年でありますが、無事任務を完了し、隊員一同素晴らしい経験の年でありました。

一方、県内においては、第十回海祭開催に伴う警備警備をはじめ、喜界島地震に伴う警戒警備、暴力団の関与するカジノバー捜索活動、潜水班の第一線警備への支援活動、年末警戒における特別警戒警備や、交通取締りなど大変多忙な年ではありましたが、充実した一年を過ごすことができ、少なからず県民の期待に応えられたのではないかと思います。

本年も、昨年以上に予想に出来ない出来事があるかと思ひますが、隊員一人ひとりに警備実施の中核部隊であることを再認識させ、旺盛な士気と、強靱な信念を堅持させ、精強にして知的レベルの高い機動隊を目指し、昨年以上に警備実施訓練、機能訓練、柔剣道訓練を強化し、有事即応体制を確立して、県民の期待と信頼に応えられるよう、最善を尽くしてまい



玉城英次郎

沖縄県警察機動隊長
年頭にあたり

護んで新年のご挨拶を申し上げます。戦後五十年の節目に当たった昨年は、年初の阪神・淡路大震災の発生に伴う特別派遣に際して、不慣れた土地で寒さと戦いながら、派遣隊員一人ひとりが与えられた任務を無事全うし、貴重な経験をしました。

また、県内では、六月二十三日の慰霊の日における沖縄全戦没者追悼式に伴う村山首相を始めとする三権の長等の警備警備に当たったほか、八月二日には、天皇皇后両陛下行幸に伴い、激しい警備情勢の中、警備警備が行われました。

これらの警備警備警備に向けて、「訓練に泣いて現場で泣かない」を合言葉に、全隊員が一致団結し、事前に炎天下の猛特訓を反復し、練度の向上に努めました。それで、本番には元気が一杯で任務を完了し、極上等のテロ・ゲリラ等の不法事件を封圧することができました。

ただ、唯一の心残りは、九月初旬からAPEC大阪会議に伴う特別派遣に備えて教養訓練を開始し、ほぼ九割がた諸準備を完了した十月下旬、折しも、九月四日に発生した米兵による少女暴行事件に端を発した県民の反基地闘争が激化し、県内の警備情勢が極めて厳しくなってきたことから、派遣中止の已むなきに至ったことであります。

微力ながら、全隊員大阪で頑張るうと意気込んでいただけに、残念に思いました。本年も、広大な米軍基地を抱える当県では、厳しい警備情勢が続くと思われましますので、気持ちを新たに、全隊員一丸となって各種訓練を重ね、練度を高め、有事に備えるとともに、集団警備等、多角的運用にも留意し、県民の平穏な日常生活の確保に努力します。

二つの「史上初」を体験

福島県警察機動隊

今年、本県は、第五十回国民体育大会の開催を迎え、国体一色となりました。

当隊は、この「完全国体」、続く身スポ大会の成功のため、県警の国体スロガンである「ゆるぎない 警備で支える ふくしま国体」の実現を胸に、警備警備に従事しました。

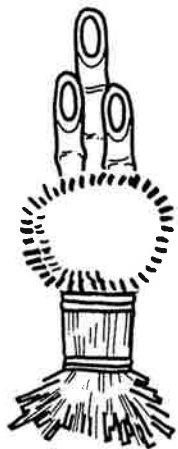
当隊は、七一九の部隊に分かれ、多角的任務を遂行、地元初の完全国体の一翼を担う形で、任務を完了しました。



お知らせ

◎一月二十五日(水) 午後六時より、仙台市青葉区中央四一六「仙台国際ホテル」において東北支部総会を行います。

◎二月二二日(水) 午後五時三〇分より、名古屋市中区東三丁目一四「メルパルク名古屋」において名古屋支部総会を行います。



読者の場

読者の場

樋浦 忠

(理事・北陸支部長)

知人のある先輩が、こういうことを云っていた。

「和」という字の形は、言葉の意味に反して、大変とげとがしい。禾(のぎ)へんは尖(とが)がつたもの集まりのようだし、つくりの口(くち)は四角四面だ。丸いところが全くない。人がお互いに遠慮なくやり合って、その結果生ずるのが和なのではないだろうか。

これは解釈の考え方としては、それなりに面白いが、実際に調べてみると、禾へんは穀物の穂と茎と葉の形、これを「カ」(カタカナの力)と読むことからも転じて、「加」える。つくりが口だから、口を合わせる、云うならばコミュニケーション。和音などという音楽のハーモニーになるという次第だ。

ところで、この「和」の概念が主張され始めた歴史は、日本では意外に新しく、聖徳太子に紙幣でお馴染みの聖徳太子(五七四—六二二)は用明天皇の皇子で、女帝推古天皇の摂政として、さまざまな事蹟を残した。中国との国交回復、法隆寺の建立など仏法の興隆、冠位十二階の制定、とくに有名なものに憲法十七条の制定があげられる。

その憲法十七条の第一条にあるのが、例の「和を以て貴しとなす」である。この言葉の原典は論語だが、聖徳太子が「和」を第一の重要事項にあげるに至ったのは、それなりに

の歴史的背景があった。聖徳太子の時代までに、日本列島には、大陸から漢字、仏教、医学、建築技術、織物技術など、さまざまな文化がもたらされたが、その文化の中心的な担い手は、中国、朝鮮半島からの帰化人やその子孫たちであった。そして彼等と、在来の大和民族系の指導者たちとの間に、小ざり合いが頻発し、それが聖徳太子の悩みになっていた。

「和を以て貴しとなす」その後には「忤(さか)ふる」と無きを宗(むね)とせよ」と続いている。つまり、十七条憲法第一条は、優しい心で人々が交わり、衝突や抗争することのないよう心がけよ、という趣旨だった。

だから聖徳太子が説いた「和」の意味は、育った環境や考え方の違いはあっても、それを消化してゆく、ただの気の合う仲間クラブということではなかった。

ところで、今の日本は、ほん単一民族である。大陸系の人も多いが、ほとんど同化している。だから異民族同志がみ合うこともない。しかしこれからはまた違った場面も出てくるのかも知れない。

さて「和」の内容の論議はこの位にして、そういつた「和」の大前提になるものは何だろうか。それは云々までもなく、社会秩序の保全、国民の生命・財産の安全が計られることにあるだろう。われわれ機動隊員等を励ます会の原点もこの辺にある、と考えている。

本年もよろしく

お願い申し上げます

大内 俊司 株クボタ

鈴木 実 加納 保成

青山特殊鋼(株) テクノ・タジマ

岡 部 白神 賢志

関東銑鉄(株) 豊田通商(株)

草野産業(株) 松田鉄鋼(株)

高周波熱錬(株) 東海レーラー鋼業(株)

光洋商事(株) 宮崎精鋼(株)

株周東商会 内外運輸(株)

次郎丸嘉介 廣シャワーリング工業(株)

スカイコート(株) 丸橋 哲彦

村山鋼材(株) 大川トランスティル(株)

小川運輸(株) 藤田金属(株)

平和農産工業(株) 金森藤平商事(株)

姫田 清美 三星金属工業(株)

木村 利秋 ブルマン(株)

高島 浩一 自見産業(株)

西野 公庸 豊鋼材工業(株)

橋本 尚吾 北海鋼機(株)

東北支部

三が日の初詣の人出(万人)

1位	明治神宮	(東京)	345
2位	川崎大師	(神奈川)	319
3位	成田山新勝寺	(千葉)	315
4位	住吉大社	(大阪)	290
5位	伏見稲荷大社	(京都)	252
6位	熱田神宮	(愛知)	224
7位	太宰府天満宮	(福岡)	205
8位	鶴岡八幡宮	(神奈川)	203
9位	大宮氷川神社	(埼玉)	185
10位	浅草寺	(東京)	167



▲住吉大社(大阪府警)



▲明治神宮(警視庁)

国民の幸せと平和を願って
年末・年始の警備万全



発行所

社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都大田区仲六郷4-32-5
〒144
発行人 鈴木 實
TEL 03(3739)0590
購読料 年間1,200円(送料共)
(但し会費の中には購読料を含む)

全国各地で三が日も晴天に恵まれた今年のお正月は、神社やお寺に初詣に出掛けた人は全国で八千七百六十六万人(警察庁まとめ)と、過去最高を記録した。

このほか、観光地やスキー、レジャー施設に出掛けた人も四百五十万人、年末から年始にかけて海外に出掛けた旅行者は六十三万二千人と、過去最高を記録するなど、各地はたくさんの人出で賑わった。特に初詣客が八千七百万人台に昇ったのは過去はじめてで、特にここ十年では八百六十六万人も増えている。最近では、「分散型」が定着したとはいわれても、やはり正月三が日は



▲八坂神社(京都府警)

は各地の神社・仏閣で混雑し、全国各地で大変な年となった平成七年の厄を振り払い、今年平成八年の平穏無事と家族の健康を祈る人で賑わいをみせた。

そのような大混雑の中、機動隊の皆さんは年末・年始から雑踏警備にあたった。今年は晴天には恵まれたものの、夜間の冷え込みは厳しいなか、三十一日の大晦日から元旦にかけては、夜を徹しての警備にあたり、その万全を期した。機動隊員のご苦労には心から感謝し上げたい。

古い話になるが、大正三年に起きたシーメンス事件の時には直接事件に連座していないが、その責任を取って山本、斉藤の海軍両大將が野に下っている。時代の変化とともに、人間性迄変わったのであるのか。昨年一月に起きた阪神大震災には多数の方が亡くなられたが、焼死された方が多かったと記憶している。我が国に一艘しかないらしいが、消防能力を持った飛行艇でも出動していたら、かなりの人命を救うことが出来たのではないだろうかと思う。

今月の言葉

最近感ずること (理事・東北支部長 柴田 秀次朗)

戦後の民主主義が、ともすれば個人主義と混同され、「私」を重く考える風潮が蔓延しているのではないだろうか。

特に政治に関わり合う人々は、選挙を第一と考え行動している様に思えてならない。

大所高所より国の施策とか未来を考へる人が少ないように思われる。二十一世紀に向かう今、未来を見ずして多少現在が苦痛でも、未来に向かって苦言を提言する勇気と行動力を持つために我々は努力すべきではないだろうか。

縦割り行政と言うが、現場の責任者の臨機応変の行動が人命を、国家を救うことになるのではないかと。

五十年前の八月十五日以降のソ連軍の武力侵入に対し、抗戦を命じた北部軍管区の樋口中将の大英断がなければ、日本列島も北海道と本州に二分され現在の朝鮮半島の様になっていたに違いない。自分の首を賭け、国のため、人のために信念を貫き通す人は今の世の中にあまり見うけられない。

昨年末、貝原俊民兵庫県知事から阪神・淡路大震災の際の災害救出活動に対する励ます会の激励支援に對して、また昨十一月二十一日、前田健治大阪府警察本部長から西野公庸大阪支部長に、APEC大阪会議開催にともなう警備への励ます会の激励に對し、それぞれ感謝状の贈呈がありました。

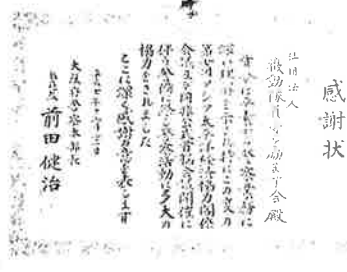
励ます会としては、益々国民と警察とのかけ橋となり、支援の輪を拡大すべく努力することを誓うものである。



▲兵庫県知事より頂いた感謝状



大阪府警察本部長より頂いた楯(右)と感謝状(下)



兵庫県知事・大阪府警から感謝状を頂戴しました

新年の抱負

平成八年

明けましておめでとうございます。
新年を迎え、機動隊員の方々も本年の警備の完遂に心意気も新たにされていることと思います。
平成七年は、年末までAPEC警備など重要任務に追われた機動隊員の方々が、本年も厳しい状況は変わりありません。
そこで、今回は今年一年の抱負を全国の隊員の皆様にお聞きしました。

志ある者の誇り

中部管区機動隊
馬場 真一



激動の平成七年のおわり。そして、被害の大きさと自分の無力さに涙した阪神・淡路大震災。大きな怒りを感じたオウム関連事件。全員一丸となって当たったAPEC警備。
その警備に携わったものとして自身、得たものは大きかった。
そして、多忙を極めた平成七年が暮れ、いよいよ平成八年の幕開けである。本県では、本年九月十六日、能登半島最北端の漁港で天皇皇后両陛下をお迎えし、「第十六回全国豊かな海づくり大会」の開催が予定されている。
反皇室闘争を掲げる極左暴力集団、オウム真理教、銃器犯罪の多発等、警備をめぐる情勢は極めて厳しい状況である。

昨年の警備で得たものは、幾多の警備実施を乗り越えてきたという大きな自信と、「志ある者は事意（ことづい）になる」という教訓であった。
出動で得た自信と、機動隊は志ある者の集団という誇りをもって、この警備警備を成功させたい。

新年の抱負

近畿管区機動隊
橋間 亮



平成七年、わが近畿三大一中一小隊は、阪神・淡路大震災に始まり、入校訓練、滋賀育樹祭警備、APEC大阪会議警備出動に終わった一年でありました。
振り返ってみると、この一年は、今までにない忙しさで、気がつくとう年々年始警戒の時期さえ終えてしまっていました。また、昨年ほど管区機動隊員として誇りに思ったことはありませんでした。今年つまり平成八年は、どのような年になるかわかりませんが、どんな年になるうとも管区機動隊員の使命は、変わらないものだと思います。
その出動の際、自分の言動には自信と責任を持ち、「考動」する誇り高き管区機動隊員として、勤務に臨んでいかなければならないと思います。
その為には、「普段の勤務及び訓練をいかに真剣に取り組んでいるか」ということが大切であり、そのことが、いざというときに「自信」という形で出てくると思います。

管区機動隊員として約三年たった今、



後輩を指導していかなければならない立場であり、また、自己の能力の向上に努めるためにも、もう一度初心にかえり、「今、自分は何をすべきか」ということを常に念頭に置き、これからの通常勤務、訓練、出動等に取り組んでいこうと決意を固めています。
どんな勤務、訓練、出動等においても現状に満足することなく、少しでも完璧に近づくため、私は今年よりも来年、来年よりも再来年というように、実務能力、警備活動能力等のさらなる向上に努めていき、管区機動隊員としての誇りと使命感を持って、これからの勤務等に挑んでいきたいと思っています。

本年の警備完遂を目指して

中国管区機動隊
池本 健二



平成七年の幕開けは、阪神・淡路大震災に伴う災害警備で始まりましたが、この警備活動に象徴されるように、昨年の警備警備活動は、各種多様な社会情勢に的確に対応できる警察活動が求められた年であったように思われました。
一つは、広島県において開催された、第四十六回全国植樹祭に伴う天皇皇后両陛下行幸警備、また高知県において開催された第二十六回日本共産党中央人民大学夏期講座に伴う右翼対策警備といった従来の警察活動であり、もう一つは、阪神・淡路大震災に伴う災害警備、大阪府において開催されたAPEC大阪会議に伴う警戒警備等のような、社会情勢に迅速、的確に対応した警察活動でありました。
私は、昨年のこうした警備活動を通して、事完遂することができたことを誇りに思うとともに、今年も、この結果に甘んずることなく、「現場に強い警察官」を目標として、様々な状況に迅速、的確に対応、処理できる実力を養うため、日頃の訓練等に真剣勝負で精進して

きたいと思っています。

新年の抱負

四国管区機動隊
本岡 一真



管区機動隊員を命ぜられ、早や十か月が経とうとしています。この一年を振り返ると、不安だけを抱えて赴任し、「こんなこと二年間もやってられるか」と、大桶を放り投げて帰りたいといった警備訓練が、つい先日のことのように思えます。
そして旧隊員に、檄を飛ばされ続けた阪神・淡路大震災の災害警備、ただがむしやりに走り続けた管区学校入校訓練、真夏の高知県出動、近年まれにない大規模警備となったAPEC警備等、これまでの警察人生で味わったことのない苦痛と、経験をさせてもらいました。
しかし、今これらを振りかえると、管機隊員でなければ、経験することのできない充実感ばかりで、自分自身が成長したような気がしてなりません。
いよいよ来年度は、旧隊員となり、後輩の指導にもあたらなければなりません。新隊員生活も残りわずか。新年を迎え、初心にかえると共に、さらなる知識と、経験を身につけ自己啓発に務め、仲間と共に強靱な部隊づくりに励みたいと思います。

新しい年を迎えて

北海道警察機動隊
総島 幹郎



「長い期間ご苦労さん、各中隊長指揮、別れ！」
隊舎の前に隊長の声が響く。長期特別派遣の最後である。
毎年何回かあるこの最後のセレモニーだが、平成七年は何回あっただろう。突然大都市を襲った阪神・淡路大震災に始まり、オウム真理教に対する山梨県上九一色村での警戒警備、天皇皇后両陛下の福島県行幸に伴う警戒警備、そしてAPEC大阪会議警備に伴う特別派遣と、長期派遣が春夏秋冬四季を通してまるで計算されたように続いた。
私が機動隊に入隊してから約六年、東京サミット警備等色々な道外派遣があったが、一年間でこれほど道外に出た年はなく、これからもしばらくないと思う。
これら他府県警察への特別派遣では、輸送車の横で「ひぐま」が目を光らせている北海道部隊が常に堂々と胸を張って任務を完遂してきた。
北海道に残る後方治安部隊もしっかりと留守を預かってきた。
そして年が明け「みどりの愛護」の集いに伴う警戒警備をはじめ、失敗が許されない数々の警備出動が予定されている。
まさに、北海道警察機動隊の底力を道民の前で発揮する年がやって来た。
私も機動隊の一員として道民のために、全力を尽くして仕事をしていきたい。

新年の抱負

秋田県警察機動隊
伊藤 満



明けましておめでとうございます。
機動隊在隊五年目を迎える今年こそは、と決意を新たに、昨年までの反省を踏まえて新年の抱負を述べたいと思います。
毎年、新しい年を迎えるにあたって、私なりに目標を立てているのですが、年末に振り返ってみると、その半分も達成されていないという不甲斐ない結果の繰り返しでした。
昨年は、阪神・淡路大震災、APEC等に伴う出動、また世間の耳目を集めた大事件の発生と我々にとって、目まぐるしい一年であったと思います。さ

らに、県内でも事件、事故の発生に伴う機能別出動要人に対する警護等々。それらの勤務に就くたびに痛感する、自分の力不足。知らず知らずのうちに先輩隊員に依存してしまい、とても一人前の機動隊員とは言えない私でした。

今年は、自分に厳しく、甘えを払拭し、自分自身が機動隊の中堅隊員として自信が持てるよう、平素の各種訓練に励むと共に、昇任試験をはじめとする各種資格試験合格を目指し、誠心誠意全力を尽くす決意であります。

今、中堅隊員として

静岡警察機動隊

植松 真樹



昨年は、阪神・淡路大震災、オウム真理教関連事件、APERC警備等大規模かつ重要な出動が数多くありました。

特に、県民に多くの不安を与えた富士宮市に総本部を置くオウム真理教に対する捜索、特別検問等は、厳しく辛いものでした。

それに、昨年は、犯罪の凶悪化、銃器犯罪の増加が目立った年でもありました。

このように、急速に進む時代の変化とともに警察社会をとりまく情勢も大きく変化しています。

こうした中、いつ、いかなる場面においても、我々機動隊は、「最後の砦」として任務を全うすることが要求されます。そのためには、我々隊員一人ひとりが日々の出動、訓練を通じて、「プロ意識」を持ち、気力、体力を鍛練していくことが大事だと思います。

私は今年、機動隊生活五年目を迎えます。

これからは、今までとは違い、上司、先輩から言われたことを忠実にこなすだけでなく、部隊の中堅隊員として後輩を指導育成する立場にあります。

そのために、自己をもう一度見つめ直し、後輩の良き手本となるよう、又

プロの機動隊員になるよう、日々、体力、気力、技術の向上に努めていきたいと思っています。

新年の抱負

福岡警察機動隊

高橋 誉郎



新年を迎えるにあたって、年男として、私の決意を述べさせていただきます。

まず第一に、中堅隊員としてその役割を十分に果たしたいということです。

私は、今年の春で機動隊に赴任して三年になりますが、私の所属する爆処理小隊では、中堅の立場にあります。中堅隊員は、機能別訓練を充実させ、小隊全体を盛り上げるために、極めて重要な役割を有していると思います。

しかしながら、昨年までの私は、上司や先輩の言われるままに行動することが多く、その役割を十分に果たしてはいえませんでした。そこで、今後は、「今、何をやらねばならないか」を自ら考え、行動することにより、後輩に模範を示し、自らの爆処理技術を更に向上させるとともに、中堅隊員として、小隊全体を盛り上げていきたいと思っています。

次に、昇任試験合格を目指して全力を尽くすということです。そのため、重防勤務等には必ず参考書を携行し、休憩時間等を有効に活用して、必ず合格したいと思っています。

このほか、県下柔道・逮捕術大会での優勝等、目標や希望は数多くあります。二十四歳となる本年、これら全ての目標を達成するために、あらゆることに挑戦し、本年を充実した素晴らしい年にしたいと思っています。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

本年も

よろしくお願ひ申し上げます。



北から南から

見えない相手との闘い

島根県警察機動隊

大濱 隆和

機動隊に入隊して九年目を迎えました。この間、「大喪の礼に伴う警衛警備」はじめ数々の県外出動経験を得ましたが、中でも三重県での「皇太子殿下御婚儀に伴う警衛警備」が一番の思い出となっています。それはまさに未経験の、勤務地が墓地という警戒警備任務でした。しかも、平素から「靈感」の強さを自負するAが相勤者のため、あちこちを指さしては、「あの付近は成仏してない霊が漂っている」などと迷惑な話しきりでした。

ある夜、納骨が行われたばかりの墓のすぐ近くで緊張して警戒中、ガサガサという音と共に何かが近づいてくる気配を感じ、息を殺してライトを向けるやいなや、一目散に反転するイノシシを現認して安堵したこともありました。

そしてまたある夜のこと。「丑三つ時」を少し過ぎた頃、墓地の頂上辺りに何やら白いものが右に左に揺れながら私の方に近づいてきたのです。慌てて墓石の陰に身を隠し、固唾を飲んで身構えていました。が、「人間に間違いはない」ことを確信しきれないまま、五メートル位に近づいてきたところで勇氣を奮い立たせ、「誰だ！」と一喝してライトを照らすと、そこには腰を抜かした中隊長と伝令の姿がありました。

聞けば、巡視・激励回りの由。笑い話で済んだのですが、思えば「警戒」というよりも「胆力テスト」を受け続けていたような気がします。この経験を生かして、今後の出動でも「肝を据えた毅然たる態度」で勤務したいと思っています。

「西の守り」下関小隊

中国管区機動隊

中原 操

わが「山口県警察管区機動隊下関小隊」は、「隊訓」である「気鋭」を実践する若人の集団です。昨年は、県外の活動として阪神・淡路大震災に伴う災害警備やAPERC大阪会議警備など、主要警備に特別派遣部隊として従事し、その任務を完遂していますが、今回は平素の県内での活動を紹介します。

わが隊は、「山口県警察本部生活安全全部機動警察隊下関地区隊」に配置され、平素は、警ら用無線自動車に乘務して、一〇番等の急訴に対応し、初動措置を行うことを任務としており、その外、パトロールや交通取締り等の活動を三交代で行っています。

山口県の下関市と言えば、源平合戦の舞台となった壇の浦、武蔵と小次郎の決闘が行われた厳流島、明治維新の原動力となった高杉晋作率いる奇兵隊が闊歩した街、日清講和条約締結の地、本州と九州を結ぶ関門橋、関門トンネル、「ふく」の本場など、どれか一つは耳にしてご存知の方も多いと思います。その下関を管轄する下関警察署は、県下で最大の規模を誇り、その庁舎内に、わが小隊属する下関地区隊もあります。

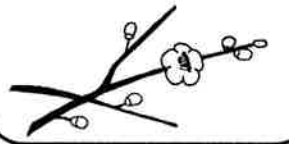
日本の歴史及び地理的要衝である下関市の治安を確保するため、「管機パッチ」を胸に、昼夜を分かたぬ機動警らを行うとともに、様々な事案を想定した各種訓練も欠かざす行い、県外への管区機動隊としての特別派遣にも備えています。

「西の守り」は、われら山口県管区機動隊下関小隊にお任せ下さい。

機動隊下関小隊にお任せ下さい。

努力と実績 信頼の機動隊	東 鋼 業 (株)	大 野 興 業 (株)	(学) 嘉 悦 学 園	高 周 波 熱 錬 (株)	杉 尾 榮 俊	大 洋 製 鋼 (株)	(株) 上 野 百 貨 店	大 東 港 運 (株)	橋 山 和 正	西 戸 榮 一	浅 田 隆 司	竹 之 上 誠 剛	東 海 鋼 材 工 業 (株)	中 京 製 線 (株)	太 陽 シ ャ ー リ ン グ (株)	堀 口 海 運 (株)	早 達 運 送 (株)	新 潟 鋼 機 (株)	不 動 鋼 板 工 業 (株)	(社) 機 動 隊 員 等 を 励 ま す 会	東 北 支 部
-----------------	-----------	-------------	-------------	---------------	---------	-------------	---------------	-------------	---------	---------	---------	-----------	-----------------	-------------	---------------------	-------------	-------------	-------------	-----------------	-------------------------	---------

者場の読の広



シンガポール瞥見

(理事・東京本部)

西豪州のパスよりの帰途、初めてシンガポールに立ち寄った。昨今発展の著しい同国を是非見たいと思つたからである。

チャンギー飛行場を出るや否や、猛烈なスコールに見舞われた。十一月一月は雨期なのだろう。然し、じじじと降るのではなく、直ぐ晴れる。

シンガポールの面積は、六四一平方キロで淡路島や東京二三区の六二二平方キロと略同じである。人口は二九〇万人で中国人が約八割あとはマレー人、印度人等である。公用語は英語、マレー語、中国語、タミール語となつて居る。

古来東西交通の要衝であり、英国の極東での要の役割を果たして来た。第二次大戦中一九四二年一月に英国軍は降伏し、又、英国東洋艦隊はマレー半島クアンタン沖に沈んだ。爾来終戦の一九四五年迄、昭南島として日本の統治下にあった。

赤道より北へ、二三六キロメートルに位置し、したがって、熱帯モンスーン地帯に属する。気温は平均して三〇度C、年間を通じて殆ど変化がない。鬱蒼とした緑にプーゲンビリアがよく映える楽園である。

街を清潔に保つて、「チューインガム」が禁止されて居るのは周知の事実だが、横断歩道の五十メートル以内で道路を横切る違反を犯すと、罰として目立つユニホームを着せられて、衆人環視の中、道路清掃

に働かされる。治安は非常に良い。

G.N.P.は、アジアでは日本に次ぎ世界でも上位にある。石油精製、造船、電子工業が三大産業だが、国際金融、観光、海運が経済を支えて居る。シンガポールの独立は一九六五年だが、三十年にして何故、此処迄発展出来たかを見ると次のような事が云えると思う。

一、政治的な安定と強いリーダーシップ
リー・クアンユー前首相が英国より自治を獲得した一九五九年以来、アジア随一のクリーン国家を目指して諸施策を遂行した。

二、優秀な人材

諸外国の大学で教育を受けた人材が多い。又、英領だった為、英語が一般に良く普及して居る。今日でも若い大学卒の中国人の移民は歓迎されて居る。企業では社員の方針の問題で若干苦勞が多いようである。

三、電気通信の発展と低廉な料金

外国企業の誘致に役立って、アジアでの国際金融の中心的役割を果たすに至った。携帯電話やポケットベルの普及は人口比で十数パーセントを超え、香港と世界一を争つて居る。又、日本のP.H.Sのような簡易携帯電話も早くから実験を進めて居た。四、至便な交通のアクセス

(1) 空港

四千メートルの滑走路「本を揃えたチャンギー」空港はアジア随一であり、所謂「ハブ」空港として、内外の貨客輸送の利便性が大きい。

(2) 海上輸送

コンテナターミナルは、年間一千万個以上を取扱い、香港と世界一を争つて居る。横浜、神戸などを含めた日本全体でも七百万個に過ぎない。

ビルや道路の建設や埋立ては引き続きハイペースで進められて居り、五十年前には埋立地の面積は当初のシンガポール島全面積の二十五%に増加すると謂われて居る。反面一部にバブルがはじけるのではないかと危惧もあるようである。

海外からの観光客は七百万人を超え、その内日本人は百万人を超えて居る。昨今

では円高の為、価格差は可成り縮まり、買物当てるの興味は半減したようである。

シンガポールは経済文化の発展に力を尽くして来たが、国防意識も高く、義務兵役制の下に十八才で全員が兵役につく。又、有事の際には滑走路となる直線の道路が三方所に設置されて居る。

面積及び人口より見れば小国に過ぎないが、卓越した政治のリーダーシップにより安定した国家を建設して来た。九十七年の香港の返還を控え、香港よりシンガポールに居る移す経済人も見られる昨今のようである。

白昼夢を見る人々

(理事・東京本部)

近年、旧制中学・高校・大学、兵隊仲間、

社会に出てからの同僚達の集まりに出席する機会が多い。それは大正一桁生まれ、第一次大戦後のバブル「成金時代」にその生を受け、戦後の不況と続く昭和の世界恐慌の嵐の中で少年期を送り、青年期には満州事変・上海事変・支那事変、第二次世界大戦に参加、半数近い友を失い、戦後の復興・経済再建にむしやに働いた人々の集まりである。そして引退、社会に対しての発言力は選挙に一票投ずるだけの人々でもある。この人々の話は「白昼夢」を見るようである。

今の日本は政治・経済・教育等いずれも八方塞がりであり出口がない。あれだけ円高是正が叫ばれていたのに、百円に戻つて来る。既に日本企業の生産基盤が海外に移転していて円安は重荷となつていて、どうしようもない。雇用にしても数多くの大学卒を吸収出来るような職場は日本にはない。行きていく革命的な大改革を期待するしかないようである。

住専の問題、日本の社会経済全般に関わる問題なのに、責任は大蔵省にある、いや紹介した都銀にある、いや直接貸した農林金融機関にある」などが報道され、何

が何だか判らない。借りた金を返すのが当たり前だ。セールスマンの最大の恥は貸し倒れをつくることだ。バブル以前に金に困つて取引銀行の紹介で農協から金を借りた際、必ずその銀行の保証を求められたと言う。バブルの時代、何故責任を明確にする保証制度を利用しなかったのか。「ミイラ取りがミイラになった」と言うが、金融機関は金を操る積もりで、何時の間にか逆に金に操られていたのだとしか考えられない。

連立政権で「日の丸」が国旗として日教組を含め国民全体から支持される事になった。

誠に喜ばしい限りである。「日の丸」は徳川初期、幕府の備置米を運ぶ船につけたのが始まりで、海外に於ける「日の丸」掲揚の第一号は、船の船長勝海州の遣米使節団を乗せた威風凛々であると言われている。外国人の自国国旗に対する愛着は羨ましい程強い。しかし、戦争を体験し、その影を背負っている人々は、素直に心に帰つてあの小学校唱歌「ああ、美しい日本の旗は」を歌う気になれないのは淋しい限りである。今は、戦争を知らない子供達が声を高くして昔のように「日の丸」の歌をうたう姿に思いを馳せているに過ぎない。青空高く翻る日の丸を仰ぎながら、子供と共に歌つて見た。

「オウム」 悪夢を見ていたようだ。これが日本人の集まりかと疑いたくなる。日本人が培つて来た文化の片鱗すら無い。ナチスドイツ・ヒトラーの時代、エルチーリングス・レポリチオン繰り返し教育による革命が叫ばれた。洗脳である。近くは毛沢東の文化大革命が猛威を振るつた。信仰と言う仮面の下、マインドコントロールで独裁者として信者を犯罪に駆り立てた麻原の罪は許せぬ程大きい。麻原の独裁を許した教団の人々の罪も亦重いと云わざるを得ない。独裁の持つ恐ろしさを今改めて知らされた思いだ。

(指導者) 明治の政治家、いや各界の指導者はビジョンと情熱をもつて、外国の侵略から日本を守り、欧米先進国に追いつく道を邁進した。戦後たつて戦中の指導者層はバジ追放となり、戦中排除された僅かの人

と若き人々が立ち上がつて指導力を発揮し、戦後復興をなし遂げて来た。今の日本の指導者には求められているビジョン・情熱・実行力等に欠ける所があるという。日本は八方塞がりに見えるが、未だ余裕があるのである。民主主義社会は強力な指導者を排除する。国民は無いものねだりをしてゐるのだろうか。「家賃しくして孝子出で、国破れて忠臣あらわる」と言うが、修羅場になれば、自ずから社会の期待にあつた新しい指導者が現れるであろう。「神州不滅」ではないが、これも亦歴史の必然である。よくよくしないで、静かに見守る外はない。「待てば海路の日和かな」

(核実験) 世界世論の反対にも拘わらず、フランスはムルロア環礁の海底で行つた。フランスは核抑止力のために必要だという。国の主権の現れかも知れぬ。冷戦が終わつても国の安全の保証のためには、核保有国であるか、保有国の核抑止力の傘下に入るか、いずれかを選ばなければならぬのも亦厳然たる現実である。トルーマン大統領は合計十八発の原子爆弾を日本に投下する計画を持つていたと言ふ。実現されれば、此の世の地獄であり、身の毛がよだつと思いだ。タヒチで生涯を送つたフランス画家ゴッギヤンが、ポリネシア神話の地球の神の言葉として「人間も死ぬ、地球も死んで、その終わりが来るであろう。もう、永遠にやみがえることはないであろう」と書き残しているのが印象的である。

(社会福祉) 近い将来高齢者が四人に一人の割合になると言う。社会福祉でこれを満たすことは困難と誰か思っている。だがその対策がなく、消費税値上げの有力な理論的根拠に成っているに過ぎない。親が懸命に子を育て、子が長じれば親に尽くす。これが最も自然で、理に叶つてゐるようである。最近ボランティアで寝たきり老人の介護等盛んになつてきたのは、喜ばしいことだ。

此の精神があれば、家庭内身内の介護は出来る筈である。社会奉仕は西欧的発想であり、家庭内介護は日本的発想であると思える。祖父・親・孫の三世帯家族構成の復活を目指す政策・税制が取られて欲しいものである。